

道、 真理、 命

恵みの旅はキリストの弟子となること

デビッド ブシク

道、 真理、 命

恵みの旅はキリストの弟子となること

デビッド・ブシック

イエスに従う人生は決して退屈でも窮屈でもなければ、一人ぼっちでするものでもありません。少しでもイエスに近づこうとする時、キリストの弟子になることは恵みの旅を歩き続けることだと分かります。「道、真理、命」の中でブシック博士は、私たちを訊ね求め、救い、聖化(聖潔)し、支え、そして満たす神の恵みには、今私たちがいるその場所で様々な方法で出会えると書いています。そしてそれについて考えてみるように招いています。親しみを持って私たちに呼びかけ、「恵みの旅」の準備をさせる神に、信仰を持って応答する時、私たちはイエス・キリストとより深い関係を持つことになります。この方こそ、「道であり真理であり命」そのものです。

デビッドA・ブシック(DMin, DD)はナザレン教会(the Church of the Nazarene)の総監督です。それ以前は、カンザスシティのナザレン神学校(NTS)の校長やカルフォルニア、カンザス、オクラホマの各教会で主任牧師を務めました。その著作には、The City: Urban Churches in the Wesleyan-Holiness Tradition (シティー

ウェスレー的聖性の伝統を持つ都市型諸教会) 、Perfectly Imperfect (完全に不完全)の2巻、旧約・新約聖書に登場する人物の研究、などがあります。

Copyright © 2021
The Foundry Publishing出版
カンザス・シティ、MO 64141 (USA)

最初は英語で出版されました。書名は
Way Truth Life「道、真理、命」
著者デビッド・A・ブシック
出版社; The Foundry Publishing

出版社による事前の書面による許可なしに、この出版物の再版、情報検索システムによる保存、またはいかなる形式や手段による送信を行ってはならない、例えば、スキャニング、フォトコピー、レコーディングなど。唯一の例外は、印刷物を論評する際の短い引用の場合です。

表紙のデザイン
内部のデザイン; シャロン・ページ

翻訳

聖書の引用はすべて、特に指示がない限り、新改訳聖書第三版から取っています。

この本のインターネットの住所は出版時には正確でしたが、すべての言語でその住所が利用できるわけではありません。このリンクは一つのリソースとして提示します。出版社は、その内容や永続性について保証したり裏書するものではありません。

父ロバート・E・ブシックを記念して。父は私に、キリストの弟子になることは恵みに満ちた旅であり、キリストに似ることは私たちの定めであると教えてくれました。



主よ。あなたの道を私に教えてください。私はあなたの真理のうちを歩みます。私の心を一つにしてください。
御名を恐れるように。

詩篇86編11節

内容

謝辞	9
初めに	11
1. 驚くべき恵み	21
道	
2. 私たちを求め続ける(先行的)恵み	35
真理	
3. 私たちを救う恵み	51
命	
4. 私たちを聖化(聖潔)する恵み	73
5. 私たちを支える恵み	101
6. 満ち足りた恵み	133
あとがき	149

謝辞

謝辞は、何かを可能にしてくれる人を認めることから始まって、払いきれない感謝の気持ちを表すことまで及びます。今それがここにあります。

ナザレン教会の総監督に選ばれた時、私は、総監督委員会の同僚たちが私の人生に影響を与えることになるとは知っていましたが、彼らの影響の度合いは計り知れないものでした。リーダーシップに関する議論では、ほとんどいつもの場合意見の相違がありますが、変わらないのは彼らが教会にとって最善を行うことを、誠実に、そして祈りをもって実行しているということです——たとえそれが骨の折れることだとしても。彼らの人格が持つ強さと心の聖性に対する私の絶対的信頼は、変わりません。フィリマオ・チャンボ、グスタボ・クロッカー、ユーギニオ・ドウアルテ、デビッド・グラバス、ジェリー・ポーター、カルラ・サンバーク、そしてJ・K・ウォリック——あなた方に感謝いたします。あなた方の影響が教会へ奉仕するこの本を書かせたのです。それは「キリストに似た弟子を国々に作る」という私たちの使命を実現させてくれるでしょう。

スコット・レイニーに感謝します。彼は、ナザレン教会の「世界宣教イエスの弟子委員会」の責任者で、聖なる弟子の道とは恵みの旅であると強調する短い本を書くよう導いてくれました。またボニー・ペリーに感謝します。彼女はファウンドリー出版社の編集責任者で、子どもたちのために書かれた優れた神学書は彼女の人生を賭けるにふさわしい仕事だ、という確固たる信念を持っています。また、アンドラ・スピバンに感謝します。彼女は、明晰な眼を持ち、いつも「もしこう言ったらどうかしら」と絶えず問いかけながら編集作業をしてくれました。最後に、出席者は溢れるほど多くはないけれども、私の心から愛するナザレン教会の青年たちに感謝します。聖性とは神がキリストにおいて私たちのために

既に成したことだけでなく、私たちが自分自身に対する権利を放棄してイエスを主とする時に、神がキリストにおいて私たちの内で容赦なく行い続けていることである、と私に教えてくれたのは彼らです。

著者から一言

これまで書いてきた本に共通する私のスタイルですが、弟子の道と恵みの旅に関する理解をより深めるために、沢山の脚注を読むよう読者をお願いします。沢山の注釈は私が他人の考えに多くを負っていることを反映するものですが、同時に本文にとっては直接関係ないが追加の洞察を提供したいという私の希望を反映したものでもあります。分かりやすくするために、著者や参照元が既に出されている場合でも、新しい章が始まる度に引用文全体を提示します。

初めに

イエスは私たちを旅に招きます——「さあ、ついて来なさい」と。それは愛する友と冒険に出かける時の呼びかけのようです。クリスチャン生活は正しい信念以上のものです。知的な同意以上のものです。それはイエスと一緒に旅へ出かける招きです。

イエスと一緒に旅をすることを別の言葉で言えば、キリストの弟子となることです。キリストの弟子とは、イエスと旅を共にしながらイエスの道に従うことです。その道には沢山の曲がり角、方向転換、予想外のカーブがあります。楽に感じる道がある一方、難しい昇り道に感じる道もあります。しかし、キリストの弟子となる到着点(ギリシヤ語でtelos)は常に同じです。それはキリストのようになることです。

それが不可能にみえる時、実はあなたは絶好のスタート時点にいるのです。実際、それは不可能です——次の非常に重要で確実な事実がなければ。つまり、私たちはイエスと一緒に旅をするのです。だからこそ、それは恵みの旅なのです。

イエスが「わたしが道であり、真理であり、命なのです」(ヨハネ福音書14章6節)と言った時、イエスは連続する知的な方程式、または神と私たちの取引契約以上のことを語っていたのです。イエスは弟子となることによってもたらされる関係性のことを言っています。実際、「道、真理、命」は哲学的抽象概念ではありません。「道、真理、命」は人格です。

イエスは旅のtelos(目的地)を指し示しました。神が意図された本当の人生、私たちが目的地に行くための手段は、道であり、真理であり、命

です。それはイエスの中に、イエスを通して充たされるのです。¹恵みの旅は芯から、イエスとの関係なのです。

ジェームス・K・A・スミスは、イエスの弟子となることは「暗闇の王国から神の愛する御子の世界への一種の移住(コロサイ書1章13節)」であると表現しています。²これはある国から別の国への移動を示す表現です。³これは市民権や忠誠心の変化に関するものですが、道であるイエス・キリストと神の恵みから離れると移住は不可能です。スミスは続けて言います。「キリストへの信仰によって私たちは天国へのパスポートが与えられている。キリストのからだの中でキリストの王国の『地元住民』として生きることを学ぶ。このような移住はただ単に別の場所へ飛行機で輸送されることではない。私たちは新しい生き方に順応し、新しい言語を学び、新しい習慣を身に着ける一方で、敵対する国の習慣と縁を切る必要がある」。⁴

イエスが「あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです」(ヨハネ福音書14章2節)と言った時、その約束はイエスが私たちのために旅の予約、到着した際の宿泊の準備を個人的に行っていることの保証である、と私は固く信じています。イエスは私たちにとって天国へのパスポートであり、私たちが新しい国、即ち彼の王国の住民としてくれます。さらに良いことに、イエスは家に行くまで付き添ってくれると約束しています。イエスは旅を進む際の私たちの「道」となるでしょう。ここに恵みの旅の希望があります。

わたしが道であり、真理であり、命なのです。

イエスが「わたしが道であり、真理であり、命なのです」と言った時、それは壁にかかった額縁のように抽象的な人生の処世訓を示したものではありませんでした。それは不安におののく弟子たちの質問に対

1. リチャード・ジョン・ニューハウスはテロスを「問題の事柄に意味を与える究極の終わり」と定義します。Neuhaus, *Death on a Friday Afternoon: Meditations on the Last Words of Jesus from the Cross* (New York: Basic Books, 2000), 127.

2. James K. A. Smith, *You Are What You Love: The Spiritual Power of Habit* (Grand Rapids: Brazos Press, 2016), 66.

3. ジョン・パニヤンの『天路歷程』(1678)は国々や王国を変えるためにする旅という同じコンセプトの、先に書かれたフィクション作品です。

4. Smith, *You Are What You Love*, 66.

する答えでした。これは聖書学者が「最後の講話」(14章から17章)と呼ぶヨハネ福音書から引用した言葉です。この4つの章は、他の3つの福音書以上に、受難と十字架上の死の間にイエスが何を考え、何を弟子たちに教えようとしていたかについて、心の内面を明らかにしたものです。従ってこれはイエス・キリストの遺言であり最後の証しとみなすことができるでしょう。⁵

ご存じのように、弟子たちは驚くべき不吉な知らせを聞いたところでした。彼らは借りた一部屋に集まっていました。皆で締め切った部屋にいます。イエスは十二弟子の足を洗いますが、それは彼らを不安にします。それからイエスは、間もなく弟子の1人がイエスを裏切ると告げます(ヨハネ福音書13章21節)。さらに困ったことに、イエスは数年間彼らと一緒に至る所に旅をした後、間もなく彼らを去って行くので、誰もイエスと一緒に行くことはできないと告げます(同13章33節)。

これはびっくりさせる言葉です!イエスはその言葉が彼らの心にのしかかる重みを感じています。イエスが「あなたがたは心を騒がしてはなりません」(同14章1節)と言ったのは不思議ではありません。この「騒がして」と訳された言葉は、嵐の際にガリラヤ湖で使われた言葉と同じです。風が吹いてくると、湖は激しく波立ちました。弟子たちはそう感じました。胃が痛くなり、頭は混乱しました。感情は耐えきれません。イエスは彼らの心を落ち着かせようとします。「あなたがたは心を騒がしてはなりません…あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです…また来て、あなたがたをわたしのもとに迎えます。わたしのいる所に、あなたがたをもおらせるためです。わたしの行く道はあなたがたも知っています」(同14章1-4節)。

その時トマスは大声で尋ねます。歴史は彼のことを「疑い深いトマス」名づけましたが、私は彼がそこにいたことを喜んでます。なぜなら、トマスは誰もが答えてほしいと願っていたことを勇気をもって尋ね

5. フレデリック・デール・ブルンナーはヨハネ福音書 14-16章をイエスの弟子の道に関する説教、そして17章を終禱として、またそれらを併せて「宣教的教会のためのイエスのコンパクト版組織神学」と呼びます。Bruner, *The Gospel of John: A Commentary* (Grand Rapids: Eerdmans, 2012), 78

たからです。彼は丁度授業中に教室の中で先生に手を挙げて、「先生すみません、馬鹿げた質問かもしれませんが、先生のおっしゃっていることがさっぱり分からないのです」と質問をした学生のようなからです。実際はその質問は馬鹿げたものではありませんでした。皆が意識しているが触れようとしない話題を見分ける頭をトマスが持っており、全員の頭にある緊急の質問を彼が訊ねたことに、私は感謝します。「主よ。どこへいっちゃうのか、私たちにはわかりません。どうして、その道が私たちにわかりましょう」と(同14章5節)。

人生とはこのようなものではないでしょうか。私たちはどちらに進むべきか迷う時がよくあります。行く先を知っている(あるいは、行く先を知っていると期待している)と思うものの、完全に道に迷ったと認めざるを得ない時が時々あります。四つ角や曲り道、方向指示や行き止まりがたくさんあります。人生の難問にぶつかる時に何よりも頼りになるのは地図です。しかし、多くの人々は地図がない場合、じっとしているよりもどこかへ行く方が得策だと判断します。そして方向を決めて、最も障害が少ないと思う道を進んでいきます。

ありがたいことに、トマスの質問(実は私たちの質問)に答えて、イエスは言われた。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」(同14章6節)。イエスの強調点が明らかに「道」という言葉にあることは興味深いことです。順番から見ても道が最初に出てきます。だからと言って真理と命が重要ではないというわけではありません。真理と命は、どうしてイエスが道なのか、なぜ道なのかを説明しているということです。⁶

イエスは道です。なぜならイエスは神の啓示という真理であるからです。イエスは道です。なぜなら神の命はイエスの中だけにある、あらゆる人に注がれているからです。イエスは神に近づく道であると同時に

6. 多くの人々は、レイモンド・ブラウンが彼の世代における傑出したヨハネ学者だと考えます。彼はこう信じています、「道は[イエス発言]の主たる述語で、真理と命は道の説明だ。」Brown, *The Gospel According to John XII-XXI, The Anchor Bible Commentary* (New York: Doubleday, 1970), 621. もしこれが正しいのなら、真理と命は満ちの説明です—あるいは、別の言い方をすれば、イエスは真理であり命であるから道なのです。イエスはそれら三つを体現します。

に、神と共にある命を具現化した存在です。ヨハネの福音書に書かれている福音の中心は、イエスは、ことばとなった神の独り子であり、それまで考えられなかった方法で私たちは神を見て知ることができる、というメッセージです。イエスは公認された神の自己顕示です。⁷言い換えれば、イエスは単なる1つの道ではなく、唯一の道です。なぜならイエスは、私たちが父と呼ぶ見えざる神を、例外的に見えるものとして顕した人物だからです(同1章14、18節、6章46節、8章1節、12章45節)。⁸

イエスは言いました。「わたしが道であり、真理であり、いのちなのです。わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに来ることはありません」(同14章6節)。多くの人々がこれをトマスの質問、「どうして、その道が私たちに分かりましょう」(同14章5節)に関連づけています。なぜなら、すべての人は、はっきりと表現するか否かにかかわらず、靈的な質問に対する答えを求めているからです。今日私たちの社会は以前に比べて靈的に開かれています。問題は人々が様々な靈性の道に対してオープンであることです。

現代の西洋の世界観はすべてを包括する大衆の消費者心理から集まったもので、多元性を抱えた直近の政治的関心と結びついています。これは多くの人々に1つの靈的な道が他のいずれとも同じように妥当であり正当性があると考えさせますが、但しそれが彼らの個人的ニーズを満たし、かつ彼らの自我に忠実である場合に限りです。そこで想定されていることは、人が仏教、ヒンズー教、イスラム教、サイエントロジー、ユダヤ教、キリスト教などどの宗教を選ぼうとも、その人が真面目でかつ自分の選択に満足している限り、他の選択と同様にそれは良いものだということです。なぜなら、(この世界観によれば)すべての道は同じ神に通じているからです。

このような世界観がもつ問題点の1つは、これらの様々な信条(信仰)は互いに矛盾することが多く、またお互いに自らの絶対性を主張

7. Bruner, *The Gospel of John*, 811. ブルーナーは私たちに以下のことを思い起こさせます：「イエスの父なる神の啓示は、御父もまた[イエスのように]これからも—またこれまでも—とてもとても良い方だという偉大な希望を私たちに与える。」

8. 私は次の詩的な脚注からこの文のためのインスピレーションを得ました、*The Wesley Study Bible: New Revised Standard Version*, Joel B. Green and William H. Willimon, eds. (Nashville: Abingdon Press, 2009).

することです。キリスト教を様々な他の宗教制度と照らし合わせて見る時、キリスト教はイエスこそ神に至る唯一の道であると主張する唯一の信仰です。「わたしを通してでなければ、だれひとり父のみもとに行くことはありません」と言うイエス・キリストの排他的な主張を信じながら、同時に父のもとに近づく道は他にもあると信じることは誰にもできません。実際、それはキリストの言った言葉そのものを否定することになります。イエスは、「わたしは父のもとに行く多くの道の1つです」とは言いませんでした。「もしお好みなら、わたしに従う選択もできますよ。でも他にも選択可能な道がありますよ」とも言いませんでした。イエスは、「あなたが真面目である限り、あなたがどんな靈的道を歩もうとかまいません」とも言っていません。そのようなことを、ほのめかしてすらいません。はっきり言ったことは、イエスは父のもとに行く唯一の道だということでした。⁹

家族が新しい町に引っ越してから程なく、妻と私は町の外れに訪問することがありました。二人は別々の車で行きました。妻の方向感覚はいつも私より優れていたもので、彼女が先導しました。突然私たちは交通渋滞にまきこまれ、私は彼女を見失いましたが、妻の車を見たと思ったのでその車の後をつきました。しかし(全然間違った道路を走っていたので)間違った車をつけていたのに気付くまでに時間がかかり、約束の時間に遅れることになりました。私は方向を転換し自宅に帰りました。この話のオチは簡単です。私は選んだ道に忠実でしたが、同時に間違いにも忠実でした。つまり、正しい方向を見つけることは忠実さ以上のものがが必要です。¹⁰真理が必要です!運転手は自分の進む方向で速く進んでいるかもしれませんが、もし道が間違っていたら、どんなに早く到着しても意味がありません。

イエスの主張はすべての人がイエスの道に従うよう招かれている点で、過激なほど包括的です。しかし同時に過激なほど排他的でもあり、

9. これは、イエスを知ることすらなく死んでいった、他の宗教や信仰の信者たちに神の主権が恵み深く及ぶことを制限するものではありません。神は常に、神の主権が選ぶことを自由に行います。私は万物との和解における恵みに驚かされることを期待しています。

10. 自爆による自殺者以上に真理に関して真剣な人はいません。しかし、彼らがどんなに情熱的に彼らの真理に献身していたとしても、それが究極の現実に基づいていなければ、十分ではないのです。

真理を発見するために進む道は、それが唯一の真の神に至る道でない限り、どの道であってもすべて行き止まりにぶつかるのです。

人は皆、罪を犯して神の栄光を受けられなくなっていますが、預言者イザヤはそれを指してこう書いています。「私たちはみな、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った」(イザヤ書53章6節)。使徒パウロはローマ書でそれを繰り返しています。「すべての人は、罪を犯したので、神からの栄誉を受けることができず」(3章23節)と。なぜか。それは私たちが皆、人生の間違った道を進んだからです。私たちは神のご意志と自分の人生に示された道を追求する代わりに、自分自身の道を歩むことを選んだからでした。

福音(良き知らせ)とは、イエスは私たちのような人々のために来たという知らせです。もう1人の福音書記者であるルカは、イエスの公の使命について、「人の子は、失われた人を捜して救うために来たのです」と言っています(ルカ福音書19章10節)。私たちを行先も告げずに交差点に放置する、もっと悪く言えば、目的もなく間違った道に進ませるのではなく、イエスは神、天国、永遠の命に至るただ1つの道を示すために来たのです。

ある注解者はイエスの言葉を次のように敷衍しています。「私は、そこにある道です。私はそこにある道にあなたを導く真理です。私はそこにある道に沿って真理に従っていく力を与える命です」と。¹¹「わたしは道です」¹²とは一組の方向指示器でも、道路地図でも、一組の手がかりでもありません。「わたしは道そのものです」という意味です。「わたしは真理です」とは生命創造の原則でもなければ、哲学上の仮説でもありません。「わたしは真理そのものです」という意味です。「わたしは命です」とは、もっと楽観的な人生観をもって生きようという別の選択肢ではありません。「わたしは唯一の本当の命、真に人間となるためのただ1つの手段である」という意味です。

11. Bruner, The Gospel of John, 823.

12. 代名詞の [ego, 『私』] は強調法で、強調点を方法から人格へと変えます。注目すべき、また何度も強調されてきたことは、ヨハネ福音書のイエスの「私は…である」発言は、柴の炎の中での「わたしはある」という神のモーセへの宣言への言及だということです(出エジプト 3.14)。「わたしはある」は旧約聖書を通じてヤハウエとして知られるようになりました。

単なる1つの道、1つの真理、1つの命ではなく、自分は唯一の真実で比類のない神の独り子であるというイエス・キリストの主張が、キリスト教の根幹です。これは他の宗教制度を中傷するものではありません。父に至る道は1つだけであり、それはイエス・キリストを通して行くと言っているだけです。イエスは私たちが救われる唯一の手段です。フレデリック・ブルーナーはこう言っています。「東洋は四季を通して絶えず『道(tao)』に、西洋は『真理(Veritas)』に、そして全世界(東西南北)は『真実の命』に憧れてきた。人間イエスはその3つのすべてである」。¹³

あなたが不慣れな町にいらっしゃると思ってください。そして見つけ難い場所に行く道筋を教えてほしいと誰かに頼んだとします。その人はこう言うかもしれません。「次の大きな交差点で右に曲がりなさい。それから広場を横切り、教会を通り越して、そのまま真ん中のレーンを走りなさい。そうすれば右側の第3ストリートに直接行けますので、4車線の終点にきます」と。たとえ分かり易い説明があったとしても、道が複雑な時は、間違えて曲がったり、道に迷う可能性は極めて高いでしょう。

それとは反対に、あなたが道筋を訊ねた人がこう言ったとします。「そこに行くのは簡単ではないですよ。そこに行ったことのない人には複雑すぎます。いっそのこと、私と一緒に行きましょう。そうすれば、私が連れて行ってあげます」。この人はガイドになるだけでなく、道になってくれたのです。あなたは目的地を見逃すはずはありません。これこそイエスが私たちのためにすることです。イエスはアドバイスや指示を与えてくれるだけではありません。一緒に恵みの旅を歩いてくれます。道について教えることはありません。イエスが道になるからです！

イギリスの神学者で有名な宣教学者レスリー・ニュービギンはこの見解を力強く表現しています。「イエスが道を教えるのではないし、その道に私たちを導くでもない。もしそうなら、私たちはイエスの教えに感謝して、自らその教えに従っていくことができるだろう。そうではなくて、イエス自身が道なのだ。その道に従うことは父のみもとに行く唯一の道なのである」。¹⁴

13. Bruner, *The Gospel of John*, 812.

14. Lesslie Newbigin, *The Light Has Come: An Exposition of the Fourth Gospel* (Grand Rapids: Eerdmans, 1987), 181.

ルイス・キャロルの『不思議の国のアリス』の中で、アリスは十字路にさしかかり、チェシャー猫に尋ねます。「どうか教えてください、私はここからどの道へ行けばよいのでしょうか」と。

猫は答えます。「それはあなたがどこへ行きたいか次第ですよ」と。

アリスは返事をします。「どこへ行こうかあまり気にしてないわ」。

そこで猫は言います。「だったら、どの道を行こうが問題ないよ」と。

トマス・ア・ケンピスの古典的祈禱書『キリストに倣いて』以上に、イエスのこの主張を見事に要約した人は多分いないでしょう。

「わたしに従いなさい。私は道であり、真理であり、命です。道がなければ、行くことはできません。真理がなければ、知ることはできません。命がなければ、生きることはありません。私はあなたが従うべき道、あなたが信ずべき真理、あなたが期待すべき命です。私は侵されざる道、間違いのない真理、終わりのない命です。私は真っすぐな道、最高の真理、本当の命、祝福された命、造られたものではない命です。あなたが私の道に留まる時、真理を発見し、真理はあなたを自由にし、あなたは永遠の命を手に入れるでしょう」。¹⁵

イエスの中に、私たちは父に至る道を見つけます。それは家に帰る道です。

イエスの中に、私たちは真理を見つけます。イエスは、父の性質と本質についていつまでも変わらない、確実な真理を具現化しています。

イエスの中に、私たちは命を見つけます。その命は現在と将来に約束された新しい創造の中にある溢れるばかりの命です。

これが恵みの旅です。

15. Thomas à Kempis, *Of the Imitation of Christ*, Book 3, chapter 56 (c. 1418–1427)

1

驚くべき恵み

恵みは至る所にあります。

—ジョルジュ・ベルナノス『ある田舎司祭の日記』

「アメイジング・グレイス」は今日世界中で愛されている最も有名な歌の1つです。2世紀以上前に作曲された歌ですが、今日でも数百の言語で歌われ続けています。¹⁶人種や信条、地域、年代の壁を越えて歌われています。¹⁶歌詞を知り、その意味に感動するにはクリスチャンである必要もありません。

作詞家はジョン・ニュートン(イギリスの牧師)です。大人になったばかりの頃、彼は奴隷船の船長で、何百人もの奴隷を西アフリカからイギリスへ運ぶ責任者でした。しかし、海難事故で死にかけた時、彼は人生を一変させる回心を体験し、もはや同じ人間ではなくなりました。

彼は神との恵みの旅を始めただけでなく、奴隷貿易に個人的に関わっていたことを深く後悔し、悔い改めに導かれました。彼は船長の職

16. 私が南アフリカのヨハネスブルグの空港ラウンジで座りながらこれを書いていると、アフリカンス語で労働者たちがこれを優しく口ずさんでいるのを聞きました。アメリカ人ジャーナリストのビル・メイヤースは、聴衆が「アメイジング・グレイス」を歌うリンカーン・センターでの公演に参加しました。彼はクリスチャンとそうでない人との歌の結びつける力に強い印象を受け、同名のドキュメンタリーを制作するための靈感を受けました。

を辞し、聖公会の牧師になり、後にウィリアム・ウィルバーフォースの教師になりました。それはイギリス帝国内で奴隷廃止のキャンペーンを促進するためでした。82歳になり死の床に横たわった時、ニュートンは言いました。「わたしの記憶はほとんど無くなった。ただ2つのことを覚えている。私は大きな罪人だ。そしてキリストは偉大な救い主だ」と。彼が素晴らしい歌詞を書いたのは不思議なことではありません。彼は恵みを受け、体験し、驚くべき恵みによって変えられたのです。

この本は恵みに関するものです。恵みの旅によって、私たちはますますイエス・キリストの似姿に近づきます。キリストは道であり、真理であり、命です。恵みは聖書と私たちの人生の中に様々な形で現れますが、恵みの本質は変わりません。私たちは恵みを個人的に神からの賜物として受け取り、神と力を合わせて協力し、私たちを変容させる関係の中で生きるのです。

恵みとは何ですか

神の恵みとは何か。それは私たちの人生にどのようにして入り、影響し、変容させ、キリストのように生きる力を与えるのでしょうか。様々な定義があります。

- 私たちの努力で獲得するのではない神の好意
- 私たちには不相応な神の愛
- 受けるに値しない人に対する好意
- 与える者たる神の寛大さと慈悲を唯一の動機とする、神の愛の完き自由な表れ¹⁷
- 無条件の神の善意

これらの定義はすべて、受けるに値しない人類に対する神の愛の応答の、表現し難い驚くべき性質を表現しようとするものです。私たちが「驚くべき」という言葉を使う理由はここに 있습니다。それは人間関係と取引に関する人間的な定義を否定しています。

金融関係の仕事に従事する人々は「猶予期間」の意味を知っています。猶予期間は違約金を支払わずに支払いを一時延期する短い時間

17. この恵みのルーズな言い換えは、今や天に召された新約学者、言語学者にしてミッション・リーダーであるスピロス・ゾディアティスに帰せられます。

を指します。しかし、「猶予期間」には条件が付いています。その期間が終わった後でもまだ借金が残っている時は、追加のペナルティーがかかります。確かにそれはただ(無償)ですが、無条件ではありません。

神の恵みは違います。神の恵みは無償です(「代償無し」と混合しないでください。これについてはこの章の終わりで詳しく説明します)。それは私たちにはありがたいことです。なぜなら、さなければ私たちには到底得ることができないからです。私たちは神に対する借りを返済することはできません。私たちが絶対に自分自身では行えないことを神が行ってくれるというのは、ひとえに神の恵みのおかげです。神の恵みを獲得することができず、私たちはそれに不相応だと言うのは、こういう理由からです。神は私たちが値する以上によく扱ってくれます。それは、受けるにふさわしくない私たちに与えられる好意です。それはイエスにすべてを捧げて従うことを私たちに強く求めます。

最も簡単な恵みの定義は「賜物」です。使徒パウロはギリシャ語の「賜物」や「好意」を表す charis を借りて、神がイエス・キリストにおいて私たちのために行ったあらゆる行為の意味を説明する言葉として用いました(第2コリント書8章9節、9章15節、ガラテヤ書2章21節、エペソ書2章4-10節)。¹⁸また、charis という単語が「喜びをもたらす」という意味の語幹 char から派生したことを知ることは大切です。¹⁹このように、神が与え私たちが受ける恵みという行動は喜びと感謝を表しています。その意味で、恵みを受ける者がその見返りに何かを捧げることは理に適っています。それは、感謝に満ちた献身の人生です。しかしそれは、神の恵みは相対的な取引という意味ではありません。好意に対して返済するという願い(ないしは期待)は賜物の力を否定するものです。²⁰取引をするという考えは賜物の意図を常に否定し、無価値にします。

18. ギリシャ語の「カリス」はラテン語では「グラティア」と訳され、そこから多くの言語は「グレース」という言葉を得ました。

19. Thomas A. Langford, *Reflections on Grace* (Eugene, OR: Cascade Books, 2007).

20. Paul and the Gift (Grand Rapids: Eerdmans, 2015)において John M. G. Barkley は「ギフト」という概念が「理由もなく、見返りなしに」渡される何かだという考えは現代西洋のものだという、強力な議論をしました。新約聖書の福音の救いは「ギフト」だという理解は、それは値しないもので勝ちとることのできないものでありながら、義を生み出し、義は服従を生み出すということを意味します。

友人に贈り物をする時、私はこう言うでしょう。「これをあなたに対する私の愛の印として差し上げたいのです」。

贈り物を受け取った友人の対応は普通、
単に「ありがとう」でしょう。

もしそうではなく、私の友人が、「大変ご親切なことですね。あなたにいくら借りがありますか」と言ったとしたらどうでしょう。彼らは贈り物の際に交わすべき言葉を取引の言葉に変えてしまいました。「あなたは私に良いことをしましたね。私はあなたにいくら借りがありますか」と。

恵みの賜物を返済可能な取引と混同することの問題点はもう1つあります。恵みの本来の意味は、神にもっと愛してもらうにも、逆に神の愛を減らすにも、私たちができることは何もないということです。²¹ 私たちを神の愛にふさわしい者にするほど、または神の愛を獲得できる者にするほど良いものはありません。一方、私たちを神の愛から引き離す、主イエス・キリストにある愛から引き離すことほど悪いものもありません(ローマ書8章35-39節)。神は私たちが良いから愛するのではなく、私たちが悪いから憎むものではありません。神の本質は聖なる愛です。神の特徴を最も完全に表す行動は、神ご自身を与える、注ぎ出る恵みです。²²

フィリップ・ヤンシーは、これについて次のように書いています。「恵みとは、無限なる神ができる限りの愛をもって既に私たちを愛していることだ」。²³ 神はそもそも私たちの良い行いを見て私たちを愛したわけではないのですから、より良い行いによって神に私たちをもっと愛させることなどできるはずがないでしょう。同様に、より悪い行いが神の私たちへの愛を減らすこともないでしょう。もっと多く祈るから、もっと多く捧

21. Philip Yancey, *What's So Amazing about Grace?* (Grand Rapids: Zondervan, 1997), 70.

22. 「神の最も本質的な特徴は愛である。『神は愛です。』ヨハネはシンプルに、また深く語る。神の愛は「聖なる」という言葉で修正されるかもしれない。しかし、これは神の理解にほとんど影響を与えない、なぜなら神の愛はその性質上聖だからだ。しかし「聖なる」は神が私たちとは異なるように、私たちを超える方であることを思い起こさせる。神は聖であり、常に私たちとは性質が異なる。」Diane LeClerc, *Discovering Christian Holiness: The Heart of Wesleyan-Holiness Theology* (Kansas City, MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 2010), 274.

23. Yancey, *What's So Amazing about Grace?*, 70.

げるから、もっと多く奉仕するから、もっと多く犠牲を払うからと言って、神に「あなたはよくやっている。いつかはもっとうまくやれるでしょう。これまで以上にあなたを愛しますよ」と言わせることはできません。違います。あなたは今のままで愛されています。神の愛について言えば、あなたが何をするか、どう行動するかは全く関係ありません。あなたがそれにふさわしいからではなく、これは神の心が最初から最後まで愛だからです。

正義と慈悲と恵みの一般的な比較がそれをよく説明しています。正義は、自分にふさわしいものを手に入れることです。慈悲は、自分にふさわしいものを手に入れることではありません。恵みは、ふさわしくないものを手に入れることです。

イエスは多くのたとえを用いて、神の御国という観点から命を再想像させました。これらのたとえは単なる道徳的物語ではなく、私たちにより良く生きる道を示したものです。たとえは私たちの持っている神の本質と心をより良く理解させ矯正させます。ルカ福音書15章に出てくる見失った羊、見失った銀貨、放蕩息子について考えてみましょう。²⁴羊飼いにたとえられた神は大喜びしますが、それは99匹の羊が無事にいたからではなく、見失った1匹が無事に見つかったからでした。失くした貴重な銀貨一枚を必死に探す女は、それを見つけた時、有頂天になって周囲の人々と一緒になって大喜びしました。家族思いの父親は放蕩息子の帰りを待ちわびていましたが、彼が家までは「まだ遠かった」のに彼を見つけ、かわいそうに思い、駆け寄って彼を抱き、家に迎えました。この3つの例はいずれも神の本質と心を描いたものです。「見つかる」ことは神の心を喜ばせます！恵みは、さまようこと、見失うこと、そして不誠実に打ち勝つのです。

イエスは別のたとえで、ぶどう園で働く労働者を取り上げました。ぶどう園の主人は労働者全員に仕事時間の長短に拘わらず同じ賃金を支払いました(マタイ福音書20章1-16節)。この物語は経済的にはナンセンスです。馬鹿げた経済行為に見えます。ビジネス経営者の立場か

24. 「息子たち」と複数形にしているのは意図的なものです。この譬えのイエスの教えではどちらの息子も別々の理由で失われていたのは明らかに見えます—しかし一人だけは家にとどまっていた。

らすれば、この無謀な行動は勤勉な従業員を不快にさせ、勤労意欲のない怠け者を喜ばせます。しかしこれは、最善のビジネス慣行はかくあるべしというたとえではありません。それは途方もない神の恵みに関するたとえです。恵みは従業員の勤務時間を記録し、正確な会計記録をつけ、良く働く従業員に多く支払うための数学方程式ではありません。恵みは支払いを受けるべき資格者に関するものではありません。それはふさわしくなくても賜物を受ける人たちに関するものです。あなたの耳におかしく響き、あなたの常識には馬鹿げたものにみえる時、あなたは恵みとは何かについて理解し始めていると言えます。

恵みは個人的です

私たちは恵みの経験を語ることができます、なぜならそれは極めて個人的なもの、神との関係だからです。恵みは2つの大きな理由により個人的です。まず、恵みは物ではありません。商品でもありません。私たちの中に注がれる「クリスチャンの自動車オイル」であるかのように、キリストの弟子という「エンジン」をより効果的に走らせる聖なる物質ではありません。恵みは個人的です、なぜならそれはイエス・キリストという個人を通して私たちに与えられるからです。キリストは、「わたしは道であり、真理であり、命です」と言いました。²⁵

ウェスレー派の神学者トマス・ラングフォードは、教会史の中に、一貫して恵みに関する2つの理解の論争があったと主張しています。

一方は、恵みは何かの物、神が所有し与えることのできる物、人々が受け取り所有することのできる物として考えます。広い意味では、空気やエネルギー、あるいは神の行為を表して人間生活を取り囲む環境に意味を与える力、などです。もう一方は、恵みを「人格」と見なす考えです。恵みは人格であり、神です。人間に与えられた神です。恵みについて語ることは、神の存在と被造物を世話する交流関係を語ることです。この理解では、恵みはイエスの生涯と死と復活を考慮することに基づいています。イエス・キリストは恵みです。恵みはイエス・キリストです。²⁶

25. ヨハネ福音書が聖霊を「もうひとりの」助け主と呼ぶとき、真理の御霊は真理であるイエスの宣教を継続しているということを意味します (14.6, 16-17)。

26. Langford, *Reflections on Grace*, 18.

私はダイアメイド・マックロークが書いた名著『キリスト教史』を読んで、その中にある力強い一文に感銘を受けています。それは「ダマスコへの途上で起きた不思議な出来事に捕えられた一人の人間(一つの制度ではない)パウロ」です。²⁷色々な意味で、タルソ生まれのサウロ(後に使徒パウロと改名)はこの驚愕的な啓示に対して心備えができていませんでした。彼は1つの宗教、確立された制度、伝統、律法に献身していました。それらをすべてよく知る高い教育を受けた熱心な律法の擁護者でした。しかし彼を変えたのは一人の人間、ナザレのイエスでした。後にパウロは、イエスを主イエス・キリストと呼びました。

パウロがそれまで信じていた制度は、律法を完全に遵守することでした。しかしダマスコ途上における経験(使徒の働き9章1-12節)の後、彼の見方は完全に変わりました。依然として律法は良いものだと思っていたものの、それは不完全でした。イエス・キリストに会った時、パウロは人生の焦点を、良い物(ユダヤ教の伝統)から比類できないほど良い存在へと移したのです。キリストとの親密な出会いを通して、パウロは自分自身のものではない「義」を見つけまし。²⁸パウロは信じました。信じる者とキリストとの関係は非常に親密になるので、それを「キリストと一つになる」、完全に一体化すると言うことができる、と。パウロにとって一体化とは、抽象的なギリシヤ・ローマ的、プラトンの概念ではありません。イエス・キリストは、歴史上の時間と場所に今も昔も実在する人間です。彼は私たちと同じ人間であるだけでなく、パウロがダマスコへの途上で出会った人、復活し超越した人です。その生涯と死と復活と昇天は、私たちの罪と墮落の破局を反転させました(第1コリント書15章22節)。

事実、サウロからパウロへの名前変更は回心以上のもの、即ち、覚醒でした。「すると、たちまち目からうろこのようなものが落ち、サウロは元どおり見えるようになった」(使徒の働き9章18節)のです。そこで、身を起こして洗礼を受けたパウロには、自分では獲得できない、自分にはふさわしくない、純粋で混じりけのない賜物が与えられたのです。今や律法がこれまで指し示してきた人物をはっきりと見ることができました。彼は次のように書きました。「わたしたちは、十字架につけられたキリス

27. Diarmaid MacCulloch, *Christianity: The First Three Thousand Years* (New York: Penguin Books, 2009), 9.

トを宣べ伝えています。すなわち、ユダヤ人にはつまずさせるもの、異邦人には愚かなものですが、ユダヤ人であろうがギリシア人であろうが、召された者には、神の力、神の知恵であるキリストを宣べ伝えているのです」(第1コリント書1章23、24節)。それは、ユダヤ教の律法と伝統に縛られている者にはつまずきの石であり、ギリシヤ文化や西洋哲学の世界観に没入している者には愚かなものです。しかし、イエスは神のキリストであると信じる者にとっては(ギリシヤ語のchristos は「油を注がれた者」の意味)、神の恵みによりイエスは彼らの救いとなったのです。²⁸

初代クリスチャンたちは、制度はおろか宗教さえも宣べ伝えることはありませんでした。彼らは人を宣言したのです。イスラム教にとって、みことばは本(コーラン)になりました。キリスト教にとって、みことばは人となりました(ヨハネ福音書1章14節)。²⁹人間となったのです。永遠の唯一の神は人となりました。受肉です。初代のクリスチャンは理論や原則、生活のために命を犠牲にしたわけではありません。一人の人、実際に十字架刑にかかり埋葬され、新しい創造の初穂として死者から復活し、天国へ昇天し、再臨する人物のために命を捧げたのです。

ディートリッヒ・ボンヘッファー以上にこれを鮮やかに描写した人はいません。「抽象的な考えを持って形式的な知識の領域に入り、それに熱中し、実行に移すこともできるかもしれない。しかし、それを従順な心で行うことは決してあり得ない。生きているキリストのいないキリスト教は必然的に弟子の道を欠くキリスト教になり、弟子の道のないキリスト教は常にキリストのいないキリスト教になる」。³⁰

従って、恵みの旅は制度や本、マニュアル、宗派、伝統に従うものではありません。私たちはイエス・キリストに従い、彼を礼拝し、彼に仕える者です。恵みはイエスという人間の人生、宣教、死、復活と昇天の結果です。イエスは今やキリストであり主です。

28. Strong's Concordance of the New Testament はカリス、「恵み」はパウロの一世紀の教会への手紙で少なくとも88回登場することを指摘します。

29. 私はこの重要な区分を、アフリカのナザレン教会の地域ディレクターのダニエル・ゴミスに負っています。

30. Dietrich Bonhoeffer, *The Cost of Discipleship* (New York: Macmillan Company, 1949), 63-64.

キリスト中心(イエス中心)の恵みの理解は、もっと強固に理論武装された恵みの三位一体論(創造主なる父なる神、信じる者の命にある聖霊の力)を否定するものではありません。恵みを人格として理解することは、私たちが個人的に神について知ることは何であれ、神がご自分を啓示するために選んだ人間の人生、教え、経験の中にはっきりと表されています。クリスチャンが歩む弟子の道の到着点は、恵みの受領者をイエス・キリストのイメージと姿にかたどることです。恵みは物ではありません、人格、です。

この定義は、恵みは個人的であるという第2の理由へ私たちを導きます。恵みは私たち一人一人に各人の必要と能力に応じてやってきます。各人はそれぞれ恵みを受け、それを専有します。

私には友人が沢山いますが、その一人一人が個性的ですので付き合いの仕方も様々です。子どもが3人います。彼らを平等に愛していますが、愛し方は同じではありません。彼らは別々ですので、親としての付き合い方もそれぞれ違ってきます。それが友人としての、親としての愛し方です。

同様に、恵みは各人それぞれの方法によって独自に受け入れられ専有されます。なぜなら私たちは三位一体の神との個人的関係の中で恵みを経験するからです。恵みは父なる神から与えられ、イエス・キリストを通して差し出され、聖霊によって力が与えられます。恵みは人を通して来るので、各人の必要に応じて個別化されます。神がご自身を与えれば与えるほど、恵みは増し加えられます。

恵みは高価である

ボンヘッファーは、恵みは無償だが代償無しに与えられるものではないと教えています。代表作『キリストに従う』の中で彼は、安価な恵みと高価な恵みの違いは、本当の弟子の道を求めているか否か、期待しているか否かにあると強調しています。「安価な恵みとは、弟子の道を伴わない恵み、十字架のない恵み、生きて受肉しているイエス・キリストのいない恵みである」。³¹

31. Bonhoeffer, *The Cost of Discipleship*, 47-48.

さらに彼は大胆にも、安価な恵みは「教会の恐ろしい敵」、「弟子の道に対する最も有害な敵」、「行いに対するいかなる戒めよりも多くのクリスチャンを滅ぼしてきた」と述べています。³²人が義とされるのは神の賜物である恵みによってのみと言えますが、義なる生活から生まれる実は、すべてを捨ててキリストに従う者です。³³その理由は、ボンヘッファーがいみじくも指摘しているように、人が「わたしに従いなさい」というイエスの召しを聞く時、その応答の第一は信仰を正式に告白する前に先ず素直に従うことだからです(マルコ福音書2章14節)。³⁴

ボンヘッファーは続けて、恵みはいかに高価なものであるか、全身全霊を捧げる弟子の道がなぜ唯一の正しい応答であるかを書いています。

恵みは高価です。なぜならそれは私たちに従うことを求めているからです。それは恵みです。なぜならそれはイエス・キリストに従うことを求めているからです。恵みは高価です。なぜならそれは命がけだからです。それは恵みです。なぜならそれは人に唯一の本当の命を与えるからです。それは罪を非難するので高価ですが、恵みでもあります。なぜなら罪人を義とするからです。何よりも、恵みが高価なのは、神の独り子の命を代償にしたからです。「あなたは対価を払って買い取られた」と言われています。神に多くの代償がかかったのに、それが私たちにとって安いはずがありません。とりわけ、それが恵みであるのは、神は私たちの命と見返りに独り子を死なせたことを高すぎるとは思わず、私たちのために独り子を手渡したからです。高価な恵みは神の受肉なのです。³⁵

弟子になるための人生は恵みの旅です。それは恵みと共に始まり、恵みによって力づけられ、最初から最後まで聖霊に満たされます。イエスの道に従い服従しない限り、本当の弟子の道はありません。神の恵みは賜物として受け取ることができますが(無償で)、弟子の道の要求を離れてあり続けることはありません。

32. Bonhoeffer, *The Cost of Discipleship*, 45, 55, 59.

33. Bonhoeffer, *The Cost of Discipleship*, 55.

34. Bonhoeffer, *The Cost of Discipleship*, 61.

35. Bonhoeffer, *The Cost of Discipleship*, 47-48.

恵みは驚くべきものです

フィリップ・ヤンシーは映画『ラスト・エンペラー』の1シーンについて語っています。中国の最後の皇帝として即位した若い少年がいます。彼は自分の命令通りに働く召使に囲まれ、贅沢な人生を送っていました。

彼の弟が「あなたが間違いを犯す時、何が起きますか」と尋ねます。

「私が間違いを起こせば、誰かが罰を受けます」と少年皇帝は答えます。その証拠に、彼は貴重な美術品を壊しますが、召使の1人が罰として打たれます。³⁶

これは古代の王や皇帝の慣習でした。正しくも慈悲深くもありません。そして、ある人が別の世界から到着しました。彼は権威について新しい概念を持ち込んだ王でした。彼は古い秩序を逆転させ、新しい王国を打ち立てました。召使が罪を犯した時、この王は彼らが当然受けるべきことを受けます。ヤンシーは言います。「恵みが無償なのは、恵みを与える者自身が代償を負ったからだ」と。³⁷

これは正義でも慈悲でもありません。これは恵みです。だからこそ私たちはニュートンの讚美歌を愛し続けるのでしょうか。恵みは驚くべきものです。

ではこの途方もない神の恵みは私たちの日常生活でどのように演じられるのでしょうか。恵みが何を意味するかを知ることは大切です。神が私たちをそのように愛していることを知るの大きなことです。でも私の人生にどんな違いをもたらすのでしょうか。恵みを見る時、どんな風に見えますか。恵みを経験する時、それは何をしてくれますか。日々の生活の中で恵みはどんな変化を起こしてくれますか。

恵みは多面的で含蓄に富み、多様な方法で経験されます。この本はここから恵みの旅の多岐にわたる表情を見ていきます。

36. Yancey, *What's So Amazing About Grace?*, 67.

37. Yancey, *What's So Amazing About Grace?*, 67.



私たちを求め続ける恵み(先行する恵み)を通して神は、私たちの前を歩いて道を開き、私たちを神との関係に引き入れてくれます。



2

私たちが求め続ける(先行的)恵み

人の子は、失われた人を捜して救うために
来たのです(ルカ福音書19章10節)。

弟子の道とは案内役兼仲間であるイエスに、同じ方向に長い間ついて行くことです。¹これを恵みの旅とよびます。恵みの旅はその中核と関係を持っているのでいつも活動的です。信仰によって歩むことは単調な仕事よりもはるかに冒険的で、義務というよりも喜びです、神の恵みに浸りながら弟子になる旅路を一步一步進みます。私たちは人生の様々な段階において色々な方法で神の恵みを体験します。各段階における恵みの姿は必ずしも連続的(特定の順序に従うこと)ではありませんが、弟子の旅路において目指す様々な目的に応じて識別されます。²

1. 「同じ方向に長い間ついて行くこと」は牧師であり神学者であるユージン・ピーターソンによって書かれた弟子の道についての本から借用したものです Eugene Peterson, *A Long Obedience in the Same Direction: Discipleship in an Instant Society* (Downers Grove, IL: InterVarsity Press, 1980).

2. 恵みは時系列的に経験されるものではないかもしれませんが、神学者たちは救いの順序に言及します(*ordo salutis*)。にもかかわらず、Diane LeClerc は重要な点を指摘します: 「これはしばしばクリスチャンの人生における一連のステップが考えられるが、幾人かの学者はピア・サルティス、あるいは救いの道を好み、これらのステップの

私たちが神の恵みをどのように経験するかを描いた聖書的なモチーフは、少なくとも5つあります。これは恵みがあたかも各種のカテゴリーやタイプに分解できるかのように、恵みにはいろいろな分類があると言っているわけではありません。³ジャック・ジャックソンが言っているように、「神の恵みは単数」⁴であり、あるいはジョン・ウェスレーの言葉を借りれば、神の恵みは単に「神の愛」そのものです。⁵恵みを様々なタイプに分類する傾向を避けるために、ウェスレーは恵みの持つ経験的側面に焦点を当てました。「弟子の道のどの段階にいるかによって、人々は神の恵みを異なる仕方で体験する。自然の状態にある人々(クリスチャンになる前の人々)は恵みを先行的に経験する。一旦目が覚めると、彼らは恵みを確信に満ちた義しい態度で経験する。そして最終的には一旦義とされると、彼らは恵みが働いて彼らの頭と心を聖化することを経験する」。⁶ジャックソンによるウェスレー神学の記述は美しく、論理的かつ要領よく書かれています。それは、物としての恵みと旅としての恵み(人生の環境、経験、神の指名、および神意によるタイミングなど)とを区別しています。

これを心に留めた上で、恵みの旅の途上で神の愛をどのように経験するかを深く理解するため、5つのモチーフを次のように提示します。これらのモチーフは違った種類の恵みではなく、神を自分の人生にお

流動性を強調する] *Discovering Christian Holiness: The Heart of Wesleyan-Holiness Theology* (Kansas City, MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 2010), 315.

3. これが本章の主要なポイントです。恵みはモノではありません—恵みは個人であり、個人的なものです。トム・ノーブルは恵みを客観的な力あるいは物質として扱う傾向は中世のアウグスティヌス主義から来ていることを示唆します。異なる種類の恵みが浮上し、クリスチャンに注入されることがあります。この傾向は17世紀のプロテスタント・スコラ哲学にまで及びました。「この恵みのスコラ的モデルはそれ自体の問題をもたらします、特に神の行動を非人格化する傾向や、御霊の人格的働きを『恵み』と呼ばれる非人格的な物質に置き換えてしまうことです。」T. A. Noble, *Holy Trinity: Holy People: The Theology of Christian Perfecting* (Eugene, OR: Cascade Books, 2013), 100.

4. Jack Jackson, *Offering Christ: John Wesley's Evangelistic Vision* (Nashville: Kingswood Books, 2017), 53.

5. John Wesley, Sermon 110, "Free Grace," *Sermons III: 71-114*, vol. 3 in *The Bicentennial Edition of the Works of John Wesley* (Nashville: Abingdon Press, 1986), 3.544, par. 1.

6. Jackson, *Offering Christ*, 53.

いて人格化された恵みとして経験する様々な方法に過ぎないことは認識しておきましょう。⁷

- 先行する恵み
- 救いの恵み
- 聖潔の恵み
- 支える恵み
- 満ち足りた恵み

この後に続くいくつかの章で、5つのモチーフをそれぞれ聖書的に、神学的に、経験的に詳細に検討します。最初は、私たちが求め続ける恵みです。

私たちに先行する恵み

神の恵みは、救われた瞬間に始るものではありません。私たちが神の必要性に気付く前に既に始まっています。私たちは自分の方から神を求めるものではありません。神が私たちを求めています。神がご自身の近くに私たちを引き寄せようとする行動を、神学用語では先行する恵みと言います。つまり、私たちが神に近づく前に神が私たちに近づくという意味です。神の恵みは、私たちを求めて私たちの居場所に来るのです。

クリスチャンの中には、悔い改めの証しを語る際に、何歳の時にいつどこで「キリストに出会った」と語ることから始める人がいます。これは彼らが神と出会いキリストの内に新しい誕生を経験した特定の時間と場所を思い返す真摯な試みです。しかし、「出会った」という表現は正確には正しくありません、誰もイエス・キリストに出会った人はいないからです。確かにイエス・キリストは私たちに来ます。初代の異邦人クリス

7. 「救い」を幅広い含意を持つ神学用語とするウィリアム・グレイトハウスとH.レイ・ダニングに従って: 「[救い] は、人を失われた地へと回復させることに向かう神の全ての働きを要約しています。最初の救いから始まって、最終的な救いに至るまでの回復、または「栄化」に関するすべての要素を含む。」William M. Greathouse and H. Ray Dunning, *An Introduction to Wesleyan Theology* (Kansas City, MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 1982), 75. さらには、グレイトハウスとダニングは、救い一つの出来事または経験に置かれることはないと説明します: 「新約聖書は救いを三つの時制で語る: 過去 (だった), 現在 (である), そして未来 (だろう)。」

チャンたちに書き送った極めて重要な手紙の中で使徒パウロは言っています。「あなたがたは自分の罪過と罪との中に死んでいた者であって、この世の流れに従っていました。しかし、あわれみ豊かな神は、私たちが愛してくださったその大きな愛のゆえに、罪過の中に死んでいたこの私たちをキリストと共に生かし、——あなた方が救われたのは、ただ恵みによるのです」(エペソ書2章1、3節、4、5節)。パウロが繰り返して強調している「死んでいた」という言葉に注目してください。彼は私たちが罪の中で「病んでいた」、「傷ついていた」とは言っていません。私たちは罪の中に死んでいたのです。

聖書によると、3種類の死があります。肉体の死、霊の死、永遠の死です。パウロは霊の死を描いています。私たちがこの世の流れに従って生き、呼吸し、歩んでいましたが、罪のゆえに霊的に死んでいました。人は肉体的に生き歩き回ることができますが、内面では、霊的感覚を持っていないので霊的事柄に反応できないのです。これが霊的に死んでいる人間は霊的真理と繋がることのできない理由です。死んだ人間に匂いの感覚がないのと同じです。死んだ人々は応答ができず、他者から切り離され、周囲のことに気付きません。

私たちは皆、ゾンビのように死んだ人間が歩いている状態にいた、とパウロは言います。死んだ人間は外部の刺激に反応できませんので、霊的に死んだ人は誰も自分だけの力で「キリストに出会う」ことができません。従って、パウロや他の聖書記者によれば、神は私たちの絶望的状态に介入して、自分自身ではできないことを私たちに代わって行います。神は私たちの居る所に来て、聖霊の力によって私たちの霊的感覚を目覚めさせます。この事実は深遠な思想へ導きます。このような神の刺激的行動に対して私たちが「いいえ」と言う能力さえ、神の先行する恵みが既に私たちを捉えているからこそ可能になるのです。私たちは自由に神に応答するだけで良いのです。なぜなら神が私たちの霊的意識を解放してそうさせてくれるからです。恵みの動きは、私たちの神への応答に先行しているのです。

「眠りの森の美女」は、悪い魔女の呪文に掛けられた姫のおとぎ話です。姫は永久に眠ったままの状態にありますが、眠りから覚める唯一の方法は、王子が来て姫にキスすることです。そのキスによって姫は昏睡状態から解放され、絶望状態から救われるのです。これは単なるおと

ぎ話に過ぎませんが、先行する恵みがどのように働くかを象徴的に示しています。聖書によれば、すべての人間の魂は一種の靈的に死んで眠った状態にあり、自分自身の力では靈的意識を取り戻すことができません。そこへ王子が来てキスをするると呪文が解け、それまで未知だった現実へと導かれるのです。ルカ福音書15章の愛情深い父親が遠くから走り寄って放蕩息子を迎えたのと同じように、王子のキスは先行する恵みを表しています。先行する恵みというレンズを通して、この感動的な物語をもう一度読んでください。「ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした」、「この息子は、死んでいたのが生き返り、いなくなっていたのが見つかったのだから」、「そして彼らは祝宴を始めた」(ルカ福音書15章20、24節)。

ジョン・ウェスレーと先行する恵み

私たちの神学上の先輩ジョン・ウェスレーは先行する恵みについて多くを語りました。彼は、弟子になる道は回心した後まで実際には始まらないと考えてはいたのですが、神の恵みが前もって働き、人々に神を求める心を湧き立たせ、そしてその願いは靈の目が開く前兆であると主張しています。⁸私たちが神を求めるのは、神がまず私たちを求めるからです。

ジョン・ウェスレーは、先行する恵みの力はすべての人々に及ぶという考えを最初に抱いた人物ではありませんが、救いの順序に彼独自の意見を加えました。⁹時たま「妨げる恵み」としてそれに言及しながら、ウェスレーは、人の誕生の時以来、神の恵みはすべての人の内に働いており、人々をイエス・キリストにある永遠の命に引きつけようとしていると信じていました。人々が福音の宣告を一度も聞いたことがないとしても、これは真実です。福音の宣告より前に聖霊を通して示される神の存在と行動は、良き知らせや靈的覚醒や回心を聞く「前に現れる」恵みなのです。

8. Jackson, *Offering Christ*, 43–44. See also Randy Maddox, *Responsible Grace: John Wesley's Practical Theology* (Nashville: Kingswood, 1994), 8.

9. カトリックの伝統では、「実際の恵み」は二つに分けられます：「働く先行的な恵み」と「協働する続く恵み」です。

神の恵みに関係のない人は一人もいません。一人一人がイエスの求愛心の対象者です。墮落した人間、「自分の罪過と罪との中に死んでいた者」(エペソ書2章1節)として、私たちは自分自身の力で神のもとに来ることはできません。従って、神が常にすべての覚醒、回心、命の変容を最初に行うのです。聖霊の最初の活動を「先行する」とよびますが、それはいつも私たちの応答に先んじているからです。人はイエス・キリストに対する信仰へ達することができますが、神が最初に導き可能にしないかぎり、誰も「キリストのもとに来る」ことはできません。イエスは弟子たちにそれは聖霊の働きであると告げました(ヨハネ福音書16章5-15節、同6章44節)。

ラベット・ウィームが書いているように、「神は私たちが神を求める前に私たちを求める。救いの主導権は初めから神にある。私たちが一歩進む前に、神はそこにいる」。¹⁰恵みは抵抗できないことはありませんが、神との個人的関係へ招かれることなしに放置される人は誰もいません。ウェスレー・ホーリネス系の伝統に生きる人々にとってこれが何を意味するかと言えば、私たちが誰かと福音を共有する時、決して道徳的に中立な考えに出会うことはないということです。先行する恵みに影響されなかった人は一人もいません。確かに、ある人たちは他の人たちよりも反抗的だったり、協調的だったりするでしょう。しかし私たちがその場面に到着するずっと前に、神は彼らの人生において忠実に働いてこられたことを私たちは確信してよいのです。王子は私たちに先駆けて、彼らの人生に登場しているのです。

神の救いのオファーは強制的ではありません。その本質から言って、互恵的愛(真の関係性の基礎)にあっては、オファーされた愛を受け入れることも拒否することも自由です。とはいえ、先行する恵みは私たちの応答に先駆けることもあれば、応答を待つこともあります。これは贖いの順序であり、弟子の道の始まりでもあります。神が主導権を持ち、私たちが応答します。恵みは常に先行します。

10. Lovett H. Weems, Jr., *John Wesley's Message Today* (Nashville: Abingdon Press, 1991), 23.

神の内なる働きを外で実行する

新約聖書全体が証言です。一方パウロ書簡は、「人が復活した主イエスを信仰するようになった時、その出来事はそれ自体、聖霊が福音を通して働いているしるしである。もし聖霊が『良い働き』を始め、信仰がその初穂であるなら、聖霊がその仕事を完成させることを信頼してよい」と強調しています。¹¹しかしこの確信は人間の関与を否定するものではありません。関係性は必ず協調を伴います。

パウロは、恵みの旅を始めて最後に終わらせるのは誰であることを強調します。⁵⁰「あなたがたのうちに良い働きを始められた方は、キリスト・イエスの日が来るまでにそれを完成させてくださることを私は堅く信じているのです」(ピリピ書1章6節)。さらに、イエスの弟子(と教会)は、「恐れおののいて自分の救いを達成してください。神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです」(ピリピ書2章12、13節)とされています。¹²恵みによって私たちは、神が私たちの内に働いておられることをこの世で実行しなければなりません。聖書には実例がたくさんあります。

神はカルデアのウル(現在のイラン)でアブラハムに現れ、言いました。「わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものにしよう。あなたの名は祝福となる」(創世記12章2節)。最初に行動したのは誰でしたか。神です。アブラハムの中で良い働きを始めたのは誰ですか。神です。しかしアブラハムは素直に応答し、神が彼の中で行ったことをこの世で実行しなければなりません。神は夢の中でヤコブに現れ、天に届くはしごを示しました(創世記28章10-22節)。その後神はヤボクの渡しでヤコブと格闘しました(創世記32章22-32節)。最初に行動したのは誰ですか。神です。ヤコブの中に良い働きを始めたのは誰ですか。神です。それでも、ヤコブは神が彼の中で行ったことを実行しなければなりません。

モーセは人里離れた所にいました。神は燃える柴の中から彼に現れ、エジプトで奴隷になっている民を救うようにと呼びかけました(出エ

11. N. T. Wright, Paul: A Biography (San Francisco: HarperOne, 2018), 96.

12. 私はここに「教会」を加えます、なぜなら「あなた」と言う言葉は複数形だからです。

ジプト記3章1節-4章17節)。誰が最初に行動しましたか。神です。モーセの中で良い働きを始めたのは誰ですか。神です。それでもモーセは神が彼の中で始めたことを実行しなければなりませんでした。

生けるキリストはダマスコへの途上でサウロに現れました(というより、彼を急襲しました)(使徒の働き9章1-19節)。サウロは神を求めていたのではなく、クリスチャンたちを迫害する使命を帯びていたのです。誰が最初に行動しましたか。神です。誰がサウロの中で良い働きを始めましたか。神です。(パウロと改名したサウロは、まもなく異邦人伝道者となりました)。それでもやはり、パウロがピリピの教会宛てに書いた手紙にあるように、神が彼の中で始めたことを、彼自身この世で実行したのです。

ガザに下る砂漠の道中におけるエチオピアの宦官(使徒の働き8章)、午後3時ころ幻の中で御使いを見た百人隊長コルネリオ(同10章)、川岸に腰を下ろしていたルデヤ(同16章)——彼ら3人に共通するものは何ですか。彼らに限らず、同じような物語に登場する人々は、彼らに現れた神に、信仰によって応答した人たちです。

ここには、先行する恵みをもって行動する神と、信仰を持ってそれに応える人々という、首尾一貫したパターンがあります。イギリスの宣教学者レスリー・ニュービギンの有名な言葉があります。「信仰とは、キリストが仕上げた仕事を掴んで、それを自分自身のものとする手です」と。それは応答する必要を取り去るものではなく、先行する恵みが常に最初に來ます。予定説の熱心な主張者アウグスティヌスですら、「私たちなしで私たちが造られた方だが、私たちなしで私たちが救うことはない」と語っています。¹³

摂理と先行する恵み

摂理による恵みと先行する恵みの間には違いがあります。摂理とは、神が被創造物(人間を含む)の維持と備えをどのように行うかという

13. 以下から引用 John Wesley, *The Works of the Rev. John Wesley* (Kansas City, MO: Nazarene Publishing House, n.d.; and Grand Rapids: Zondervan Publishing House, 1958, concurrent editions), VI, 513.

ことです。¹⁴神はこの世界を維持し、個々の人間に提供する必要のある物を「提供」し、「備え」(創世記22章8、14節)ます。

神の摂理が各人の人生とどのように交わるかは極めて神秘的です。いつ、どこで、どの家族に生まれるかは、すべて摂理の問題です。なぜある人は1765年インドでヒンズー教徒の家庭に生まれ、ある人は2020年にモザンビークでクリスチアンの家庭に生まれたかなどは、すべて摂理に関わる問題です。神の摂理は、靈的責任の程度に影響します。生涯を通して福音を聞く機会が与えられている人は、イエスの名前すら聞いたことのない人とは違ったさばきを受けます。忠実で賢い召使のたとえ話は、所有物の大小だけを扱ったものではありません。それは神の恵みの管理に関するものです。「多く与えられた者は多く求められ、多く任された者多く要求されます」(ルカ福音書12章48節)。すべての人に均等の機会が与えられ、同じ基盤が与えられるとは限りません。ある人は多く与えられ、ある人は少なく与えられます。賜物を多く与えられると、応答にも多くが求められます。これは神の摂理の問題です。

神が私たちを置かれた場所で摂理が起これば、先行する恵みは、神が私たちに会う多様な方法を表します。すべての人が救われる前に同じ恵みを頂きます。しかし、応答の機会は違います。神は執拗に、しかし我慢強く、すべての人に手をさし伸べています。この信仰はキリスト教を世界の他の宗教から区別します。他の宗教は、人が最初に神に向かって動くなら神が応答すると教えています。キリスト教ではその順序が逆です。神が常に最初に行動し、応答を求めます。

神が、恵みと平和の良い働きを主導します。贖いと新しい創造は、常に神の主導によって始まります。それを表す最たるものは、父なる神がイエス・キリストをこの世に送ってくださったことです。神は常に最初に行動します。聖霊は、人を目覚めさせて救いの必要を感じさせ、罪を確認させ、キリストの贖罪を信じる信仰によって応答させます。

ジョン・ウェスレーにとって、靈的目覚めは単なる良心以上のものです。「自分で聖霊を消したのでない限り、神の恵みを完全に欠く人など

14. 「摂理」という言葉は二つのラテン語から来ています: プロは「先の」または「のための」という意味です、そしてビデレは「見る」と言う意味です。摂理は時として二つのカテゴリーに分けられます: 「一般的な摂理」、神の宇宙への配慮です; そして「特別な摂理」、神の人々の生活への介入です。

いない。俗に『生まれつき持っている良心』と呼ばれるものを全く持たない人は、存在しない。すべての人は、良心という光をある程度持っている…その光はこの世に生まれるすべての人を照らす。人は皆、多かれ少なかれ良心の光に反する行動をする時には不安に感じるものだ。従って、恵みを持っていないために罪を犯す人は誰もいない。人は、持っている恵みを使わないために、罪を犯すのである」。¹⁵良心の不安、善悪の自覚の増大、霊的覚醒は、神がすべての人に与える、恵み深い賜物です。この確信は、ウェスレー派の伝道にとって大切なものです。

先行する恵みと伝道

かつて私は、キリストの信従者となるのが難しい場所で生活しているキリスト教の牧師グループと会ったことがありました。クリスチャンであることは合法的ですが、ある宗教から別の宗教への改宗を法律で厳しく禁止している国もあります。キリスト教を公然と伝道することは厳しく罰せられ、入獄や死に至る場合があります。敵意と危険に満ちたこのような環境の中でどのように伝道活動を行っているか、牧師たちに尋ねたことがあります。しばらく沈黙した後、ある牧師が答えました。「夢です」と。よく分からなかったので、再度質問しました。彼は答えました。「何十人どころか、何百人もの隣人が夜、夢を見ます。復活したキリストが美と威厳に囲まれて彼らの前に現れるのです。彼らは目が覚めると、私を尋ねてきて質問します。『夜私たちに現れたこの人は一体誰ですか』と。尋ねられると、私たちは答える義務があります。これは伝道ではありません。ただ自分たちの経験に基づいて彼らの経験について説明しているだけです。こうして多くの人がキリストに献身するのです」。

教会が訪問先で面会を断られている所では、神の聖霊が私たちに先立って進みます。先行する恵みによって、境界線や障害物はありません。最も気難しく、反抗的で、敵意のある人にも、神の愛は容赦なく近づきます。その人たちは従順な心で応答しないかもしれませんが、彼らを愛し続け、近づこうとする神の臨在から逃れることはできません。

映画『ジーザス』もそうです。この映画はキリストの生涯を劇的に再現しています。この映画は世界中の無数の人々に神の恵みを伝える有

15. Wesley, Works, VI, 512.

効な手段となっています。イエスの名前が一度も語られたことのない遠隔地の人々にも上映されました。こんな話があります。ある部族の酋長が上映中突然立ち上がり、叫びました。「止めろ、この男を知っているぞ!何年も前、この男が我々の先祖に現れて、この救いの物語を語ったことがある。この男は言った。『ある日誰かが来て私の名前を教えるだろう』と。今やっと分かった。この男の名前はイエスだ」。これはほんの一例に過ぎませんが、聖霊はいつもの通り教会の先頭に立って遥かに先まで進んでいます。聖霊は福音を受け入れる人々の心を耕してきました。先行する恵みは、教会が立てられて福音を宣べ伝えるずっと以前から、神の摂理の計画と交わっていました。こうして、その部族全員がキリストを信仰するケースがよくあります。

キリスト教の伝道は、1つの行為でもなければ一瞬の出来事でもありません。それは聖霊によって動かされた相互交流の中で起こります。聖霊はいつも恵みをもって先を進みます。どんなクリスチャンでも、人生のバックミラーを見れば、そこに神が私たちの目を開き、悔い改めとキリスト・イエスへの信仰に導いてくれた不思議な御業を、必ず見ることができます。

私の父は、10代の頃ナザレン派の養父母を通してクリスチャンになりました。私は、クリスチャンの両親と数人の男性が毎週水曜日の朝一緒に集まり、私の救いのために熱心に祈ってくれたお陰でクリスチャンになりました。自分の恵みの旅は自分独自のものです。誰にでも共通する点は、神が常に先行することです。

私の友人ステファンは無神論者で、ドイツの大学でロボット工学を学んでいました。無神論者である彼の叔父は彼に映画『ミッション』を見るように勧めましたが、それは「完璧な演技と美しい風景」を鑑賞するためでした。映画の舞台は18世紀のアルゼンチン北東部のジャングルです。スペインのイエズス会宣教師が、グアラニの先住民部族をキリストに導くために伝道を始めました。

ステファンは映画のビデオを借りましたが、特に印象に残ったのは、ロドリゴ・メンドーサという名の奴隷商人の傭兵が険しい山肌の滝を上るシーンでした。彼の背中には、商売道具、兜と剣が結ばれています。彼は、犯した多くの罪の懺悔をしていたのです。絶壁の頂上にたどり着いた時、かつてメンドーサが誘拐し奴隷として売り飛ばした部族の

戦士が彼に襲い掛かり、ナイフでメンドーサの喉を切ろうとしました。しかし一瞬躊躇した後、この部族の戦士はメンドーサの肩から紐を切り取り、重い包みを滝つぼに投げ捨てました。突然メンドーサは気付きます。何かがこの若い戦士に働いて復讐心を慈悲の心に変えたのです。

疲れ果て、泥にまみれたメンドーサは地面に倒れました。彼は激しく泣き始めましたが、その涙は良心の呵責から出たものではなく、心の平和から生まれた喜びから出たものでした。彼はその村で庇護され、村人との交わりに加えられました。最終的には彼はイエズス会の司祭になります。

後に、メンドーサに一冊の本が与えられ、彼はその本から愛の意味についての文章を読みます。ステファンは、その言葉の出所を知りませんでした。それは彼が今までに聞いた中で最も詩的で美しい言葉でした。その言葉は彼を強く捉え、彼は映画を何度も熱心に鑑賞し、その言葉を忘れることがないように書き写しました。彼は図書館に行って、詩の出所を捜しましたが、驚いたことに出所は聖書だったのです。彼は第1コリント書13章「愛の章」を繰り返し読みました。

それからしばらくして、ステファンは1人の学生仲間に恋をしました。ある晩、彼女はステファンをある「クラブ」に招待しました。何とそれは聖書研究会だったのです。ステファンは主の祈りを覚えました。科学者である彼は、論理的結論を決める実験を信じていましたが、毎晩寝る前に主の祈りを祈り、その度に安らぎを得ました。程なく彼は毎晩ベッドの前で祈り始めました。彼は求め続ける愛と先行する恵みとに目覚めていたのです。

伝道する神は、1人の若い無神論者の祈りに応え始めました。「完璧な演技と美しい風景」の映画を通して、彼は神の愛の素晴らしさを発見したのです。ステファンは先行する恵みに応答しました。彼はキリストへの信仰を告白し、神が彼の中で行っていたことをこの世の中で行い始めました。今、ステファンはナザレン教会の宣教師になっています。こうして、先行する神の恵みは、悔い改めと変容とに導くのです。

先行する恵みの力を信じると、まだクリスチャンになっていない人たちに絶望することが不可能になります。私たちは決して希望を捨ててはいけません。神が捨てていないからです。伝道者の確信は、その人自身

においてあるものでも、福音を聞く人の能力においてあるのでもありません。私たちは、神の愛が誰にでも与えられることに絶対の確信を持っています。神の愛は途方もなく(エペソ書1章7節)、執拗で、不変です。神が始めることを完成させれば、それで充分です。神のご指名が待っています!

1人を捉えるために神はどこまで行くのでしょうか。私は求め続ける神の恵みを歌ったコリー・アスベリーの「無謀な愛」(2017年)の歌詞が大好きです。歌はコリーの人生の中の神の恵みを歌ったものです——「私が一言言う前に」、「私が一息する前に」と。歌は、「圧倒的な、終わることのない、執拗な神の愛は、私を追い求め、私が見つかるまで戦い、99匹を後に残す」と歌います。コーラスが次のように続きます。

あなたが照らさない影はなく、
あなたが上らない山はなく、
ずっと私の後についてくる
あなたが壊さない壁はなく、
あなたが暴き出さない嘘はなく、
ずっと私の後についてくる¹⁶

圧倒されます。いつまでも終わりません。1人に届くために、神はどこまでも行くのです。

16. ある人たちはこの歌の「執拗な」という言葉の用い方に懸念を表明します。これが不注意なという意味だとすれば、それは問題です。それが大胆、驚くべき、法外なという意味なら、神の愛を描くことに近づきます。

△□
真理

救いの恵みを通して、イエスは私たちを罪
から救い、私たちを自由にする真理へと導く
です



3

私たちを救う恵み

罪が支払う報酬は死です。しかし、神の下さる賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠の命です。(ローマ6章23節)

あるスポーツ記者が有名なプロゴルファー、ジャック・ニクラウスに、アマチュア・ゴルファーにとって最も共通する問題は何かと尋ねました。練習不足とか一貫してパットがうまくできないなどという回答を私は予想していたのですが、彼が「それは自信過剰です」と答えたので驚きました。自分は実際よりも上手だ、実力以上にできるはずだと思うこと、例えば、2本の木の間をうまく打てるとか、ボールを池越えに打てるとか——これが自信過剰です。

人々は常に自信過剰になります。自分の能力を過大に評価し、自分の限界を過少に評価します。しかし、霊的な分野以上に過大評価の問題が頻繁に起こる分野はありません。私たちは精神力を過大に評価し、精神的弱さを過少に評価します。

道徳主義

自分を精神的に過大評価する傾向を道徳主義と呼びます。道徳主義とは、自己義認の信念であり、人はまともな道徳生活を送り行動を向上させていれば、精神的に万事がうまくいくと思います。言い換え

ば、道徳主義者とは、自分は良い行いを実行し、悪い行いを避けているので救われていると信じている人のことです。

道徳主義者は皆、同じことを言います。「私は決してマザー・テレサではないがそれほど悪人でもありません。正直に暮らしています。借金は返しています。結婚生活で夫(妻)を裏切ったことはありません。必ず投票にいきます。慈善団体に寄付をします。狂信者ではないし、そんなに悪くもありません」。言い換えれば、道徳主義者の考え方は、最後の審判の日に、特に「他の人々」(人殺し、強姦犯、麻薬の売人など)と比べれば、彼らは悪いことよりも良いことを多く行ったと神は判断してくれるだろう、というものです。道徳主義は今日私たちの世にはびこっています。

2004年ギャラップ社は世論調査を行い、アメリカ人の天国観を調査しました。私が最も注目した点は、天国へ行くと信じているアメリカ人の数でした。天国を信じると回答した人の77%は彼らが天国へ入る可能性について「高い」、「非常に高い」と答えました。しかし、その調査に回答した人たちによると、彼らの友人の10人のうちわずか6人しか天国へ行かないというのです。最も興味深かったのは、特に道徳主義的見解に関するのですが、調査に答えた人々の多くが、「天国はある。そこでは良い人生を送った人たちが永遠に報われる」という信念を肯定していることでした。¹私が「良い人生を送る」という言葉を強調するのは、大部分の人々は、自分の「良い人生」と「道徳的に行い」のお陰で死んだ時は天国へ行くと信じているという点を指摘したいからです。

イギリスのダイアナ皇太子妃は、1997年に亡くなりました。それは世界中の多くの人々にとって悲劇的な出来事でした。マスコミの注目度と一般人の悲しみは、彼女の国際的人気によって大きくなりました。私は今でも思い出しますが、人々は涙ながらに、ダイアナ妃は今天国にいる、彼女は天使となって私たちを見守っている、彼女にとって天国はこの世よりも良い所だと語り合っていました。私はダイアナ妃は天国にいないと言うのではありませんが、多くの人々が彼女はそこにいると信じている理由は何だろうと不思議に思います。私の知る限り、ダイアナ妃

1. Albert L. Winseman, "Eternal Destinations: Americans Believe in Heaven, Hell," May 25, 2004, <https://news.gallup.com/poll/11770/eternal-destinations-americans-believe-heaven-hell.aspx>.

は親切で情け深く、良い影響力を多く与えました。貧しい人々のために働き、エイズ患者救済に尽力しました。彼女の活躍は、子どもや青少年の意識を高めました。これらはすべて、記憶すべき素晴らしいことです。しかしそれは私たちの救いになるのでしょうか。良い人間になり、良いことすれば、救いや天国、永遠の命に導かれるのでしょうか。

現代は、これらの質問に関して様々な見解を持っています。多くの人は、神はカーブに点数をつけ、小さな善行でも大きな成果を生むと言います。「良い行い」の欄に「悪い行い」の欄よりも多くの実例を積み上げれば、秤は良い行いの方に傾き、私たちの「極めて立派な」生活と真面目な努力はその差以上に多くの点数をもたらすでしょう。これが道徳主義です。

しかし、神のみことばはこの点に関して明確です。私たちは努力によって救われるのではありません。善行によっても、善意によっても救われません。私たちは恵みによって救われるのです。恵みは外から来ます。救いの恵みは、イエス・キリストという人格において、神から来るのです。

贖罪

十字架は現代の世界で最もよく認知されているシンボルです。十字架を見る時、私たちはイエスの生涯と十字架刑による死を連想します。十字架刑は人類が考案した最も恐ろしく残酷な処刑方法です。そのため、もし現代人が首の回りにネックレスの十字架を飾っているのを1世紀の人間が見たら、変に思うでしょう。同様に、もし現代人の私たちがネックレスとして電気椅子のアイコンを付けている人を見たら、誰でも変に思います。なぜならそれは犯罪者の処刑と死を表しているからです。1世紀の人々にとって十字架はそれと同じです。十字架は、恥ずべき気味の悪いものでした。それは札付きの犯罪者や暴徒の運命を表していました。十字架刑はそれほど嫌悪すべきものだったので、それを説明するために新しい言葉が作られたほどです。英語のExcruciating(非常に耐え難い)という言葉は文字通りに訳すと「十字架から」という意味です。

十字架刑による死はゆっくりと、苦しみ続けながら、公衆の面前で死ぬことです。十字架にかかる人は、あざけられ、笑いものにされました。それを見つめる群衆は石を投げ、十字架上の人がゆっくりと、深く苦し

い息を吐きながら息を引き取っていく姿を嘲笑していました。彼らは最後には窒息死になります。なぜなら彼らは宙づりになっているので、肺を動かし続けるのが難しいからです。最終的に死亡するまでに数日かかることがよくあったようです。彼らには人間的な埋葬は許されず、鳥が死体をつつくに任せて放置されました。死者は、ローマ帝国に逆らう者の見せしめの例として、一定時間放置された後、死体の残骸はすべて町のゴミ捨て場に投げ込まれました。

イエスが犯罪人と一緒に十字架にかかったことを忘れないください。今でも極めて特異な出来事と言わざるを得ません。クリスチャンはこれを良き知らせと呼んでいます。実際、これは私たちがこれまでに聞いたニュースの中で最も良い知らせだと言えます。聖書ではこれを「福音」と呼んでいます。十字架は私たちの福音、良い知らせです。

新約聖書の中で福音を最も短く要約した言葉は使徒パウロの次の言葉です。「私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは…死なれたこと」(第1コリント書15章3節)。「死なれたこと」だけでは良い知らせとは言えません。しかしパウロはこれに続いてキリストの死の神学的意味を、極めて重要な前置詞「ために」を使って説明しました。それは私たちの目を歴史上の悲劇的事実から、恵みの旅のための素晴らしい啓示へと移すためです。「キリストは、聖書の示す通りに、私たちの罪のために死なれたのです」。「のために」が追加される時、それは良い知らせになります——これまでに聞いた最良の知らせに。

神学的に言うと、聖書は「私たちの罪のために死ぬこと」を贖罪と呼んでいます。贖罪はイエス・キリストの十字架を通して行われました。しかし贖罪の教義は旧約聖書で始まっています。贖罪の日はヨム・キプルと呼ばれ²、古代ユダヤ教では最も聖なる日でした。それは悔い改めと赦しの日と定められました。

心の中にそれを描いてみましょう。数千人の礼拝者が集まって来て、彼らの罪が贖われたことと神の慈悲を思い出すことによって、新しい年を始めるのです。この日、大祭司は民を代表して2匹の羊を連れてきました。1匹は殺され、贖罪のための罪の捧げ物として犠牲に供されまし

2. ヨム=「日」；キップール=「贖う、清める」

た。血が流され羊は死にました。ローマ書6章23節は「罪から来る報酬は死です」と言い、ヘブル書9章22節は「血を注ぎ出すことがなければ、罪の赦しはないのです」と言っています。

最初の羊は律法に従い死にました。しかし2匹目は生かされ、スケープゴート(贖罪の羊)とよばれました。大祭司は手を羊の頭に置き、イスラエルの民のあらゆる不正と罪を告白しました。象徴的に彼らの罪は羊の頭に移され、そこに置かれたのです。それから羊は荒れ野の寂しい所へ放逐されました。それにより民の罪は遠くに離れていき見えなくなったのです。³

この儀式は、年々何十年にもわたって行われました(ヘブル書10章3、4節を参照)。血が流され、民の罪を処理する長年の贖罪の儀式の中で、多数の羊が犠牲となりました。これがイエスの生涯と宣教の民族的背景です。イエスの十字架上の死がすべての罪の贖いとなり、救いの恵みが可能になったことを考える前に、ここで2つの根源的質問について考えましょう。それは、罪とは何か、なぜ私たちは罪の贖いを必要とするのか、です。

罪とは何か

第1に、罪とは反抗です。最も広く認識された罪の定義は、多分ジョン・ウェスレーの言葉、「周知の神の定めを自発的に犯すこと」でしょう。⁴罪とは誰でも知っていて故意に行うもの(こと)、間違っていると知っているけれども、やればできるのでやってしまうもの(こと)です。それは故意の不従順です。

第1ヨハネ3章4節が、「罪を犯している者はみな、不法を行なっているのです。罪とは律法に逆らうことなのです」と言う時、それは「あなたは法を破った」というような、法律の意味だけを指しているのではありません。法を破る時の背後にある姿勢と関係しています。似たような例を取り上げましょう。車を運転する時、スピード制限があることを知らずに

3. 伝統が伝えるところによれば、スケープゴートを解き放つ仕事を与えられた人はイスラエルの民とは関係のない異邦人でした。

4. Wesley, *The Works of John Wesley*, vol. 12 (Kansas City, MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 1978), 394. ヤコブ書4.17も参照。

速く走らせることはあり得ます。事実としては法律違反かもしれませんが、法を無視してした行動ではありません。例えばある人が、「馬鹿々々しいスピード制限など忘れてしまえ。そんなのは俺を取り締まるためにあるだけだ。俺はしたいことをする。自分の命は自分が責任を持つ!」と言う場合とは異なります。法を無視するのは、法を破ることの背景にある反抗の姿勢、反抗精神です。

一番年下の娘がまだ小さかった頃、娘は両親がいない時に姉や兄の言葉に従うのが嫌でした。ある時、妻と私が外出して3人を一緒に後に残したことがありました。一番下の娘は生意気にも声を張り上げて姉と兄に言いました。「あんたたちは私のボスではないよ!」と。無邪気な子どもの言ったこととはいえ、これは心の中にある罪の姿勢、自己第一主義です。反抗としての罪は、小さなこぶしを振るって全能の神の顔面を殴り、叫んでいるのです。「あんたは私のボスではないよ!自分のできることは自分でやりたいようにやるんだから!私以外の者は、神様だって誰も私の人生に介入させないよ」と。

これは被造物である私たちの役割を創造主に対して拒むことです。自分自身の神になろうとする独立宣言です。自己第一主義の姿勢は聖書の記者たちにとって不思議なことではありません。「私たちは皆、羊のようにさまよい、おのおの、自分かってな道に向かって行った。しかし、主は、私たちのすべての咎を彼に負わせた(イザヤ書53章6節)」。罪は反抗です。

第2に、罪は人間を奴隷にすることです。罪は自己第一主義以上のもので、自分自身のことを行い、自分自身の道を歩むことを選択します。ギリシヤ語のhamartiaは罪と訳されていますが、語源は動詞のhamartanoです。その意味は「目標を外す」、「的を撃って撃ちそこなう」です。⁵この言葉を最初に使ったのはアリストテレスで、古代のギリシヤの演劇(いわゆるギリシヤ悲劇)における主役の悲劇的欠点(間違った判断、無知、自覚のなさ、など)に関するものでしたが、初代教会の記者

5. William Barclay, *The Gospel of Matthew*, vol. 1 (Louisville, KY: Westminster John Knox Press, 1956), 253. See also H. G. Liddell, *A Lexicon: Abridged from Liddell and Scott's Greek-English Lexicon* (Oak Harbor, WA: Logos Research Systems, Inc., 1996), 4.

や著述家たちは、罪の一面を描写する言葉としてこの言葉を取り上げました。そのため聖書的には、hamartiaは罪の行為を意味します。「私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っています」という場合です(ローマ書7章19節)。または、怠慢による罪を意味することもあります。「なすべき正しいことを知っていながら行わないなら、それはその人の罪です」(ヤコブ書4章17節)。積極的に行う罪も怠慢による罪も、目標を外しているのは同じです。

ビジネスの世界でこれがどうなるか考えてみましょう。一方で、私は神が私の仕事を祝福してほしいと願っていますが、他方で、私の仕事の成功を保証してほしいと願っています。従って、たとえそれが倫理的でも合法的でもないを知っていながら、それをこっそりと試して進めていきます。私の願い(祝福と成功)は行動と矛盾し、両立しません。神の道徳律の外にいるのを知りながら、神に仕事の祝福を求めることはできません。これは罪の行為です。しばらくは成功するかもしれませんが、神の好意は得られないでしょう。同じことの裏返しとして、神が私の仕事を繁栄させてくれることを願いながら、利益を増やすため、従業員の昇給や福祉を止めようと決心します。これは怠慢による罪です。しかし、すべきでないことを知りながらそれをしている場合も、すべきことを知りながらそれをしない場合も、どちらも神の目には同じです。

Hamartiaにはもっと深い意味があります。私たちの行う行動以上に、罪は私たちの本質です。私たち自身の状態です。⁶私たちは罪に絡まっています。生まれつきの反抗者であるばかりか、それ以外の仕方でも生きることができません。目標を外すだけでなく、的を射ようとしてもできないのです。墮落した人間である私たちは、願っていても自由にそれができないのです。罪に囚われているからです。

6. ウェスレリアン-ホーリネス派の人々は、罪が実際の行動以上のものを含むと理解します。スザンナ・ウェスレーは1725年6月8日の息子のジョン宛の手紙で有名です:「この規則を受けなさい: あなたの道理を弱めるものは何であれ、あなたの良心の優しさを損ない、あなたの神感覚を曖昧にし、または霊的な事柄への嗜好を取り去ります; つまり、あなたの心に対する体の力と権威を高めなさい、それ自体ではどんなにそれが無害なものでも、それはあなたにとって罪なのです。」

私たちが反抗するのは、私たち以外は誰も私たちの人生に責任を持つべきではないからだと思うことがよくあります。しかし誤解している点があります。それは私たちがその選択すらしらないということです。私たちは誰かに、または何かに奉仕します。全身全霊で神に奉仕するのか、それとも欲望と罪の行いの奴隷になるのか——どちらかが私たちの主人になるのです。

正直になりましょう。罪は楽しいものです。もし楽しくなかったら、罪の誘惑はないでしょう。愉快でなかったら、心を奪われることはないでしょう。人々に向かって、どれほど罪を憎むことになるか、どれほど罪が本当に退屈かなどと言うのは止めるべきでしょう。それはあまり説得力のある議論ではありません。罪は楽しいものです——ただししばらくの間ですが。究極的には、罪の導く道は常に破滅に向かっていきます。罪の支払う結果(対価)は傷つけることです。罪は悪循環なのです。

パーティーは楽しいものですが、その後はそうではありません。酔いは楽しくありません。二日酔いも、アルコール中毒も、麻薬も楽しくありません。解毒のための病院も、交通事故も、家庭内暴力も、機能障害のある家族も楽しくありません。罪は悪循環であり、痛ましい破滅へと導きます。

不倫関係は楽しいものですが、行きつく先はそうではありません。やましい心も、性病も、離婚も、誰かの心を裏切ることも楽しくありません。子どもたちの目を見て、彼らがなぜ父や母と別れなければならないかを説明することは楽しくありません。罪は悪循環し、痛ましい破滅へと導きます。

イエスが語った放蕩息子の感動的物語は、罪の循環に関する端的な例です(ルカ福音書15章11-24節)。反抗的な息子は自分勝手な生活がしたいので、父親に財産の分け前を前もってもらいたいと告げます(1世紀においては、これは父親が死んでほしいと言っているのも同然です)。息子は何もかもまとめて旅立ち、そこで放蕩の末、財産を使い果たしてしまいます。彼はその生活を愛しました——しばらくの間は。そしてお金はなくなり、友達もいなくなりました。彼は我に返って、今まで夢にも思わなかった環境にいることに初めて気づきました。見捨てられ、困り果てて、豚小屋に住むことになりました。罪は悪循環し、痛ましい破滅へ導きます。

もしかすると、イエスが次のように言った時、このようなことを意味していたのかもしれませんが——「狭い門から入りなさい。滅びに至る門は大きく、その道は広いからです。そして、そこから入って行く者が多いのです」(マタイ福音書7章13節)。

ここに私たちの罪深い本性の戦いがあります。私たちの本性が変わらぬ限り、神を愛するよりも罪を多く愛するのです。なぜなら私たちは罪の奴隷であり、罪の力に縛られているからです。⁷いくら善行や勤勉の意図があっても、人道主義的道德主義があっても、私たちは解放されません。罪は私たちを奴隷にします。

最後に、罪は離間(仲たがい)です。「離間」という言葉はあまり使われませんが、使う時には、人間関係で何かがおかしくなったことを意味します。罪は規則に違反すること、法律に違反することだけではありません。関係性を壊します。罪は人間を神から離反させ、人間相互を離間させます。聖書に最初に出て来る罪の行為は、私たちの霊的先祖であるアダムとエバが神に従わなかったことでした。それが分かった時、彼らは直ちに彼らと神との関係、および二人の間に亀裂が起きたことを悟りました。彼らの目は開かれ、自分たちが裸であることに気付きました。それは着物がないこと以上の意味を持っていました。彼らは恥ずかしくなり、無防備で、弱く、疎外されていると感じました。その時まで彼らは神と親しい関係にあることだけを知っていたのですが、罪が入り込んだ瞬間、神から離れたことを感じました。離間を感じたのです。それは彼らの心に重くのしかかり、罪の重荷の罪悪感を覚えました。自己弁護のために、彼らは象徴的なことをしました。つまり、裸を隠し神から隠れようとしたのです。あなたはこれまで、罪悪感を隠蔽し、罪を神から隠そうとしたことがありますか。

神は人間との交わりが壊れたことを知りました。そしてすべての聖書の最も優しい記述の1つにおいて、主なる神はアダムを呼びます——「あなたは、どこにいるのか」と(創世記3章9節)。ところで神は本当に彼らがどこにいるのか知らなかったのでしょうか。彼らがうまく木の後ろ

7. ジェフリー・プロムリーは、聖書はしばしば、罪の私たちの人生への力と支配を強調するために罪を「擬人化」しているという興味深い事実を指摘します。Bromiley, *Theological Dictionary of the New Testament: Abridged in One Volume* (Grand Rapids: Eerdmans, 1985), 4.

に隠れたので発見できなかったのでしょうか。あなたは3歳の子どもと「かくれんぼ」をしたことがありますか。もちろん、神は彼らがどこにいるか知っていました!それでも、神の方でも彼らが離れたと感じていたことを、彼らに知ってほしかったのです。

男は答えました。「私は園で、あなたの声を聞きました。それで私は裸なので、恐れて、隠れました」と。これは聖書の中で恐れが初めて登場した場面です。罪が何をするのか分かりますか。罪は恐れと罪悪感と恥をもたらします。罪は疎外と非難と分離をもたらします。友達の中から敵を作ります。親密さを敵意に変えます。友好関係を壊します。

これは私たちの苦境です。罪は反抗です。奴隷化です。離間です。私たちはこれらのことをどうして修正できるでしょう。これらの罪に対して何をすべきでしょうか。

私たちが聞く最も偉大な知らせをもう一度思い出しましょう——「私があなたがたに最もたいせつなこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書の示すとおり、私たちの罪のために死なれたこと、また、葬られたこと、また、聖書の示すとおり、三日目によみがえられたこと」(第1コリント書15章3、4節)。これは至高の自己犠牲の愛です。「しかし私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対するご自身の愛を明らかにしておられます」(ローマ書5章8節)。「神は、罪を知らない方を、私たちの代わりに罪とされました。それは、私たちが、この方において、神の義となるためです」(第2コリント書5章21節)。これが救いの恵みです。

プロテスタントの改革者マルチン・ルターは、これを「偉大な交換」とみなしています。つまり、私たちの死に代わって主の命、私たちの罪に代わって主の義、私たちの罪の宣告に代わって主の救い、私たちの失敗に代わって主の成功、私たちの敗北に代わって主の勝利です。贖いは、三位一体の神の行為で、私たちの反抗と罪が私たちと神の間に設けた障害を取り壊します。「私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、なだめの供え物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです」(第1ヨハネ4章10節)。

これは何を意味しているのでしょうか。贖いはずっと神の心の中にありました。すべての羊、すべての祭司、神殿における犠牲の捧げ物の

すべてはイエスを指さし、私たちをイエスに導きました。イエスは私たちの大祭司となり、私たちの罪の赦しのために血を流したのです。

N・T・ライトはそれを次のように表現しています。「従って、新約聖書全体を通して、この死は愛の行為とみなされる。すなわち、イエス自身の愛(ガラテヤ書2章20節)、そしてイエスをこの世に遣わした神の愛である。イエスは、神の肉体的自己表現である(ヨハネ福音書3章16節、ローマ書5章6-11節、8章31-39節、第1ヨハネ4章9、10節)」。⁸父なる神は御子キリストを送り、私たち自身では決してなし得なかったことを私たちのために聖霊の力によって行ったのです。

イエスは罪を取り払います——過去、現在、未来の罪を。「東が西から遠く離れているように、私たちのそむきの罪を私たちから遠く離される」(詩篇103編12節)。イエスの十字架上の死は、私たちの内にある罪の力を打ち破ります。私たちは、かつては罪に縛られた奴隷として、「空中の権威を持つ支配者」(エペソ書2章2節)と「この世の神」(第2コリント書4章4節)に従っていました。十字架上の死を通してイエスは悪魔に支配されたこの世の力と戦い、それを永遠に葬り去りました。⁹死と地獄と墓の力を破ったのです。十字架によるキリストの勝利によって、私たちは罪の支配から逃れ、恵みの手中にあって可能な限りの自由を得ています。(これについては、第4章の聖潔の恵みの中で詳しく検討します)。

8. N. T. Wright, *Evil and the Justice of God* (Downers Grove, IL: InterVarsity Press, 2006), 9

9. 十字架においてイエスが悪の力に勝利したという信仰は、贖罪理論の「勝利者キリスト (*Christus victor*)」説と呼ばれます。N. T. ライトはこうコメントします、「私は勝利者キリストと言うテーマ、すべての悪と暗闇の力に対してのイエス・キリストの勝利が贖罪神学の中心にあり、その周囲に十字架の様々な意味が置かれているという考えに傾いている。」Wright, *Evil and the Justice of God*, 114. 反対に、フレミング・ラトリッジは、贖罪の全ての聖書的テーマが共に働いて、十字架の深さと神秘の美しい全体的理解を形成していると強く主張します。「十字架に架けられたキリストの福音を最も真実に受け止める方法は、聖書的テーマが互いに交錯し、互いに深め合っているという深い理解を涵養することだ。どの一つのイメージも全体を正当に表さない。すべてが救いの偉大なドラマの一部なのだ。」Rutledge, *The Crucifixion: Understanding the Death of Jesus Christ* (Grand Rapids: Eerdmans, 2015), 6-7.

イエスの贖いによって、私たちは神と和解しました。離間はなくなり、隔ては解消しました。溝は埋まりました。イエスは隔ての壁を打ち破り、私たちの平和となりました(エペソ書2章14節)。神殿の幕は真っ二つに裂けました(マタイ福音書27章51節)。私たちの罪悪感と恥、さばきの恐れはなくなりました。神との交わりが回復したのです。「しかし、以前は遠く離れていたあなたがたも、今ではキリスト・イエスの中にあることにより、キリストの血によって近い者とされたのです」(エペソ書2章13節)。これは救いの恵みです。神がどれほど私たちを愛しているか、考えたことがありますか。父なる神はその独り子を通して、私たちの罪過を自分の心に取り込みました。私たちの罪は多く悲惨なもので、それは心の中で他の神々を求めようとする偶像崇拜に留まりませんが、それでもなお三位一体の神は私たちを贖い、新しく造りかえ、神の家族の養子とします。赦しは軽々しいものではありません!「神が私を赦すのは当然だよ。それが神の仕事なんだから」と言う人は、自分の心を刺した他人の罪を引き受けるという深い苦しみを全く理解していません。十字架は、永遠の初めから神の心にあります。父なる神は、独り子イエス・キリストを通して、聖霊によって救いの道を示しました。イエスは父の目的を完全に受け入れました。そして喜んで命を捧げたのです——大勢の罪人に代わる罪なき一人の人、大勢の有罪の者に代わる一人の無罪の人。傷のない神の子羊は、私たちが生きるべき人生を生き、私たちが値する死をとげました。

イエスの生涯と死と復活は、すべてを新しくします。この真理以上に重要なものはありません。これは人間の歴史の要点であり、私たちの信仰の基盤です。イエスなしでは罪の赦しも、永遠の命も、聖なる愛に満ちた神との関係もありません。自分の罪を悔いて、自分を永久に罰することはできません。神との平和を得ようとして心を砕くこともできません。しかし完全な贖いと永久の平和を経験する唯一の道は、唯一の希望はイエスであると認識することです。

私たちは神を信じるにより救いの恵みの賜物を頂きます。神の慈悲に身を投げ出し、キリストのみを信仰しましょう。十字架上のイエスの勝利を信頼しましょう。罪の罪悪感が取り消され、罪と死の枷が取り壊されることを信頼しましょう。私たちの良心は清められ、神の贖罪を見いだします。

贖罪の受け止め方には2種類あります。「もし神が愛なら、なぜ私たちは贖罪が必要なのですか」と言うこともできますし、「神は私たちの罪を贖ってくれた。何という愛だろう!」と言うこともできます。

救いの恵みはどのように働くか

パウロは、クリスチャンは大変化を経験した者だと言います。エペソ書2章1-10節は、人がキリストを信じて救われる時に起こる劇的な変容(罪の絆から解放されてキリストにある自由へ)を描いています。その人は、死から命へ、奴隷から自由人へ、罪の宣告から赦しへ、断罪から受容への変化を経験した人です。特に8節から10節は、どのようにして一方から他方へ移るのか、つまり、どのようにして実際にクリスチャンになるのかを説明しています。それは3段階からなる有機的プロセスです。まず、恵みによって救われる、次に信仰へ導かれる、最後に良い行いを歩む、です。これは方程式ですから、順番が大切です。順番を間違えると、全部間違えます。

私たちは恵みによって救われます。第1章で恵みの意味をつぶさに見てきましたが、恵みはいつもスタートである点を思い出してください。恵みはいつも最初です。恵みは私たちを目覚めさせ、変容させ、私たちを神との正しい関係に、また人間同士との正しい関係に導きます。多くの人々は、良い行いのゆえに自分はクリスチャンだと思っています。彼らは良い人間になって聖書の教えを守りさえすればよいと考え、そうすれば神は彼らを祝福してくれる、と考えています。しかしこれは恵みではありません。それは道徳主義です。希望を私たちの行いに置いている福音はどこにもありません。救いは私たちの行いとは無関係です。それはすべて神がなさることです。覚醒、生き生きとした生活、それらすべては神が行います。私たちは、神のために行くことによって救われるのではありません。神が私たちのために行くことによって救われるのです。すべてが一方的な賜物です。

卒業試験の準備中のある女性神学生の話聞いたことがあります。彼女が教室に着いた時、誰もが最後の数分間を惜しんで必死におさらいをしていました。先生が教室に入って来て、試験の前に短く復習をしますと言いました。復習の大部分は教科書から出ていましたが、その他に誰も準備していなかった資料が沢山ありました。クラスにとって

うれしくない驚きでした。ある学生が追加資料について質問すると、先生は、追加資料は全部本の中に出ているので、全員が知っているはずだと答えました。これ以上議論しても無駄でした。

遂に試験の時間が来ました。先生は言いました。「試験用紙を配り終わるまで、表を下にして机の上に置いてください。始める時は私が言います」。学生たちが試験用紙を裏返した時、驚いたことに、試験問題の答えが全部書き込まれていました。用紙の上の箇所には赤インクで学生の名前まで書かれています。最後のページの終わりに、次のように書かれていました。「これで試験は終わりました。答えは全部正解です。皆さん全員がAを取るでしょう。皆さんが試験にパスしたワケは、問題の作成者が皆さんのために答えを書いたからです。皆さんが準備したことはAを取るために何の益にも立っていません。皆さんは恵みを経験したのです」。

ティム・ケラーは、時々教会に出席するある老婦人との会話について語っています。この婦人は潔癖で上品な方でした。人によっては真面目で礼儀正しいと言うでしょう。彼女は、少しでもきちんとしていないことや無礼なことには顔をしかめますが、人は良い人間でも救われたことにはならないとは思っていませんでした。ケラーとの会話で、彼女は信じられないといった表情で言いました。「つまり、こういうことですか。私は本当に善良で真面目な人間で、教会にも出席しているのに、キリストを救い主として受け入れないとすれば、私は人殺しと変わらない、とあなたは本気で言ってるの？あなたが言っているのはそういうこと？」

ケラーは答えました。「基本的には、そうです」と。

彼女は反論しました。「そんなの、これまでに聞いた中で、最低の馬鹿げた宗教だわ!」。

ケラーは応答しました。「あなたは、これまでに聞いた中で最低の馬鹿げた宗教だと思うかもしれませんが、悔い改めた人殺しにとっては、これまでに聞いた中で最高の話です。以前は人殺しだったが今は悔い改めている彼には、自分のような人間に対して希望を与える宗教があるとは信じられないでしょう」。

この話はどこか極端なところがありますが、大切な点を示唆しています。潔癖で上品で道徳的なこの婦人は、自分は他の多くの人々よりも絶対に優れているし、福音の本質は、馬鹿げたものでないとしても、人

を侮辱していると考えていますが、彼女自身が「肉」の虜になっています。¹⁰彼女は正直で礼儀正しく生きようとしていますが、救われるためにキリストを信頼しようとは思っていません。これは自己義認の一步手前です。その危険性について、ディトリッヒ・ボンヘッフアーは、恵みに抱かれたクリスチャンの生活態度を堂々と次のように述べています。「クリスチャンは自分の救い、自分の解放、自分の義を自分自身の中ではなく、イエス・キリストの中にのみ求める。彼らは、自分自身には何の罪もないと感じる時でさえ、イエス・キリストによる神のみことばは彼らを罪ある者と宣言し、自分自身には何の義もないと感じる時でさえ、神のみことばは彼らを自由にして正しい者と宣言することを知っている」。¹¹

神が私たちを受け入れるのは、私たちのこれまでの行為やこれから行う行為によるのではない、ということを理解しない限り、私たちは福音を理解していないのです。イエスをこの世に送り、この世の罪のために死なせ、この世を救うために復活させたのは、ひとえに神の本質と性格によるものです。

私たちは恵みによって救われます。それから恵みは信仰へと導く、とパウロは言います。では信仰とは何でしょうか。信仰の本質は、私たちが覚醒させた神に気付き、その神に応答することです。⁶⁷理解すべき重要な点がここにあります。すなわち、私たちを救う信仰はキリストへの信仰です。クリスチャンの信仰は、ある意味で一般の信仰とは本質的に違います。その信仰とは、神が肉となってこの地球上に赤ん坊として誕生し、十字架上で死に、死者の中から復活したことです。パウロはこの点を断固として主張します。「キリストが復活されなかったのなら、私たちの宣教は実質のないものになり、あなたがたの信仰も実質のないものになるのです…もしキリストがよみがえらなかったのなら、あなたがたの信仰はむなしく、あなたがたは今もなお、自分の罪の中にいます」(第1コリント書15章14、17節)。もしイエスが本当に私たちの罪のために死ななかったとしたら、また本当に死者から復活しなかったとした

10. 「肉」の意味の詳細な解説は、4章の「聖化する恵み」を参照。

11. Dietrich Bonhoeffer, *Life Together* (New York: HarperCollins Publishers, 1954), 21–22.

ら、私たちの信仰は単なる願望、道徳主義的、心を癒すための理神論になります。¹²概論的な信仰は意味がありません。

もしパウロが今日生きていたら、多分こう言ったでしょう。もしイエスが彼の言った通りの人でなかったら、もし人となった神の子でなかったら、もし私たちの罪のために十字架上で実際に死ななかったら、もし肉体を伴って死者から復活しなかったら、もし実際に昇天して父なる神の右に座していなかったら、さっさと教会遊びを止めましょう。何もかも意味をなしません。信仰にある信仰?概論的な信仰?違います。真理への信仰も愛への信仰も正義への信仰も私たちを変えたり、私たちに新しい命を与えてくれません。イエスへの信仰だけがそうしてくれます。私たちは、行いや良い性格や信条によって救われるのではありません。キリストのお陰で救われるのです。ただキリストのお陰です。キリストへの信仰こそ大切です。なぜならキリストは私たちの唯一の希望だからです。

それから、信仰は良い行いを生み出します。良い行いは私たちを救うものではありません。そんなことは少しもありません。とはいえ、良い行いは信仰から流れ出るものです。神の恵みを受け、正しい聖書信仰を持っていると言いながら、生活面では何の変わったことも起こらないということはあり得ません。聖書はこの点、実践的です。私たちは恵みによって救われますが、もし自身の性格や実際の行動面に何も起こらなければ、それは本当の信仰ではありません。なぜなら、恵みは信仰へ導き、信仰は良い行いに導くからです。「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです」(エペソ書2章10節)。

12. 「道徳主義的、心を癒すための理神論」はクリスチャン・スミスとメリンダ・ランドキストによって導入された言葉で、20世紀の変わり目にアメリカのティーンエイジャーと、ポストモダン時代の人々がどのように神について考えるのかの結果としての文化的枠組みを描写するものです。Smith and Denton, *Soul Searching: The Religious and Spiritual Lives of American Teenagers* (New York: Oxford University Press, 2005).

クリスチャンは神の手工品です。ギリシヤ語のpoiemaは「彼が造ったもの」、「手工品」という意味ですが、英語の「詩」(ポエム)はここから来ています。クリスチャンは神のPoiema, 神の芸術作品です。芸術は美しく価値が高く、芸術家の内面を表現します。パウロがクリスチャンは神の芸術作品であるという意味は何でしょうか。それは、キリストの中で、私たちは美しく価値が高いとみなされるということです。そして私たちが造った芸術家「創造主」たる神を表すように造られているのです。

とはいえ、私たちは罪によって傷つき汚された芸術作品です。傷ついた芸術作品、汚された大芸術家の最高傑作を見たことがありますか。これらの作品の本来の美しさを思うと、破損された姿を見るのは更なる悲劇となります。子どもがクレヨンで台所の壁に絵を描くのは良くないことです。しかしダ・ビンチのモナ・リザを落書きすれば、もっとひどいことになるでしょう。破損された芸術品の偉大さと希少価値の程度によって、悲劇の大きさとそれに対する私たちの反応の大きさが決まります。

数年前、私はローマを訪問したことがあり、是非ともサン・ピエトロ大寺院の聖堂にあるピエタを見たいと思いました。それはミケランジェロが大理石を削って製作した作品(彼自身のサインがある唯一の作品)で、私は直接それを見て研究したかったのです。がっかりしたことに、ピエタは見物客からかなり離れた場所に置かれており、ロープが張られ防弾用のパネルで囲まれていました。どうしてそこまで警戒するのでしょうか。その理由は、1972年のペンテコステの日に、精神疾患を患った1人の地質学者が自分はイエスだと叫んで、その彫刻をハンマーで叩いたからです。見物人は飛んでくる大理石の破片の多くを拾い、持ち去りました。一部は返却されましたが、返却されないものもありました。その中にはマリアの鼻があり、後日彫刻の背中を削った大理石で修復されました。イタリア人も世界中の美術愛好家も途方にくれました。どうすれば元の美しさを取り戻せるか、と。世界中を捜した結果、数名の修復専門の職人を見つけました。多くの時間、技術、知識、労働そして集中力を注ぎ、修復作業は終わりました。¹³壊されたことがあったと気付く人は少ないでしょう。

13. ニューヨーク・タイムズの記事は、パブリック・ビューイングの前に足場に登り、回復された彫刻を子細に検査することが認められたジ

これこそ、恵みによって救われるすべての人に神が行っていることです。私たちは神の作品です。神の愛する傑作です。神は、罪の与える損害を最終的結論とはさせません。私たちの価値を証明するために、神は私たちをイエス・キリストの似姿に造り変えるだけでなく、この世でなすべき仕事まで与えます。私たちがこの仕事をするのは、神が私たちを造り変えたからです。これを骨の髄まで深く思い知る時、本当にそれを理解する時、私たちは自分の良い行いが私たちを救うなどとは決して言えません。道徳主義が最上の答えになること決してありません。私たちの良い行いは神の仕事の副産物です。それは神の栄光を表すもので、私たちの栄光ではありません。

パウロの恵みの方程式を解説したユージン・ピーターソンの次のような洞察を、私は高く評価しています。

「今や神は神の欲する所に私たちを置き、この世と来るべき世において、キリスト・イエスにある私たちに対して恵みと優しさを常時降り注いでいます。救いはすべて神自身の考えと、神自身の働きから出たものです。私たちの行うことはただ、神を十分に信頼して、救いを行わせることです。最初から最後までそれは神の一方的な賜物です。私たちが主役を演じるのではありません。もしそんなことをすれば、私たちが救いの業を全部行ったのだと自慢して回ることになるでしょう!違います。私たちは自分を造ることも救うこともできません。神が造り神が救います。神はキリスト・イエスによって私たち一人一人を創造し、神の行う働きに

ャーナリストの一群について詳述します。「再建された傷つけられたベール、目の周り、鼻、手は見たところ無傷で、照査した場合にのみ細かな線が見られた。修復された部分や彫刻の周囲の大理石の表面には見たところ違いはなかった。『私たちは歯科医のように働いた』とデオクレチオ・レディグ・デ・カンポスは語った。」Paul Hoffman, “Restored Pieta Show; Condition Near Perfect” New York Times, January 5, 1973, <https://www.nytimes.com/1973/01/05/archives/restored-pieta-shown-condition-near-perfect-marks-on-marys-cheek.htm>

参加させます。その良い働きは神が私たちのために用意されたものであり、私たちがすべき働きです」。¹⁴

キリストにある神は、罪の宣告とさばきと地獄から私たちを救います。

キリストにある神は、私たちを贖い、そして私たちは完全に和解するのです。

キリストにある神は、私たちを義とし、間違っていたことを正しくします。

キリストにある神は、私たちを造り変え、私たちは生まれ変わります。

キリストにある神は、私たちを神の家族に迎えます。

私たちは、信仰を1つの教義に置くから救われるのではありません。正しい信条によって救われるのでもありません。外部からのあるもの、より正確には、外部からのある人が、私たちの中に入ってきたために救われるのです。私たちは完全に造り変えられるので、福音書記者たちは、それを表現する最善の方法は新しく生まれるというたとえだと思いました。一方ヘブル人たちは、それを落とし穴から引き揚げられた経験にたとえました——私たちは奴隷状態にいましたが、今は自由だ、と。もはや恐れや奴隷ではなく、神の子どもとなったのだ、と。かつては神の家族の外にいましたが、今や神の家族の正式な一員です。私たちは父の前で義とされましたが、それはすべてが正しくされたことを意味します。

救いは外から来るもので、私たちの内から来るものではないことを忘れないでください。自分が良い人間だから救われるのではなく、神が良いから救われるのです。それが救いです。神は私たちのできないことを代わって行います。それが救いの恵みです。

さあここから、キリストの中で新しくされた人生の傑作が聖潔の恵みによってどのようになるかを見ていきます。

14. Peterson, Eugene. *The Message*, Ephesians 2.7–10.



聖潔の恵みを通して聖霊は、私たちが全面的に神に捧げられた人生を送るよう力を与えてくれます。

支え続ける恵みを通して聖霊は、私たちと協力して、神への奉仕に向けた忠実で規律ある生活を可能にしてくれます。

満ち足りた恵みを通して神の力は、私たちの弱さの中に完全に現れます。



4

私たちを聖化(聖潔)する恵み

平和の神ご自身が、あなたがたを全く聖なるものとしてくださいますように。主イエス・キリストの来臨のとき、責められるところのないように、あなたがたの霊、たましい、からだを完全に守られますように。あなたがたを召された方は真実ですから、きっとそのことをしてくださいませ。(第1テサロニケ5章23、24節)。

ジョン・ウェスレーによると、聖書にある最も重要な4つの原理は、原罪、信仰義認、新生、および内的・外的聖性です。

義認はプロテスタントの宗教改革の主要テーマで、ウェスレーよりも約200年前に遡ります。マルチン・ルターなどの宗教改革者は、人は信仰のみによって神の前に義とされると主張しました。¹ウェスレーは、義認の必要性を強く肯定しながらも、彼の最も重要な聖書教義のリスト

1. 義認とは、神の恵みにより、神と正しい関係にされることで、それによって私たちの罪は赦され、私たちの咎は十字架でのイエスの死という贖いの犠牲によって取り除かれます。3章の「救う恵み」を参照。

に新生を加えることによって、十字架と復活は人間の罪意識と私たちを罪に導く核心的問題とを取り扱っているという基本的見解を表明しました。このように、ウェスレーにとって、新生は聖なる生活の始まりです。私たちはそれを「聖潔」と呼びます。

最後の章で私たちは、罪の本質と罪がこの世界と個々の人生に与える有害な影響について議論しました。ところで、罪の起源は何でしょうか。心に潜む罪の源は何でしょうか。

聖書は、罪は人間生来の性質を起源としていると言います。「私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の肉の欲の中に生き、肉と心の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした」(エペソ書2章3節)。この節は、2つの鍵となる表現に注意を引き付けますが、この2つは一般に広く誤解されており、正しい理解のために解き明かしを必要とします。

生まれながら

パウロは、新約聖書に収められた彼の手紙の随所で、人間は不従順で罪深い性質を持って生まれたとはっきり教えています(ローマ書7章18節、エペソ書2章1-3節、コロサイ書3章5節)。罪を教わった人は一人もいません。誰も私たちに罪を教える必要はありません。どの大学に行っても「罪への入門」というクラスはありません。それは自然に出て来るもので、私たちの得意なものです。過去も今日も、これは好まれる見解ではありません。

4世紀生まれのペラギウスは、アイルランド人修道士でしたが、後にローマ市民となりました。彼の教えは、人は罪の性格を持っていなかったが、子どもたちは若い時に見た悪い手本のために罪を学ぶようになる、というものでした。人は中立的な性質を持って生まれるが、彼らのモデル次第で良くも悪くもなる、とペラギウスは論じたのです。従って、ペラギウスによれば、罪は意志に基づく故意の行為であり、もし私たちが最善を尽くせば、罪から離れた大変良い生活を送ることができる、ということになります。

ペラギウスは、もう一人の有名な神学者ヒッポのアウグスティヌスと同時代の人物です。アウグスティヌスは、今日でも西方教会史で最も影響力のある思想家の1人です。この北アフリカ出身の司教は、人が最初

の霊的両親から受け継いだ原罪の存在とそれが人を衰弱させる影響について、多くを執筆しています。

アウグスティヌスは、ペラギウスの考えは聖書と常識に反するとして彼の意見に大反対を唱え、異端の咎で彼を教会から追放する立役者となりました。4世紀以降、ペラギウスの見解は教会によって異端の教えの烙印を押されていますが、ペラギウス主義は今日まで教会内に生き続けています。

ニューヨークへ旅行した妻と私は、ブロードウェイでミュージカル「ウィキッド」を観ました。これはエルファバという、『オズの魔法使い』の邪悪な西の魔女と、彼女の友人グリンダ(善良な北の魔女)の物語です。物語は、2人の女性がそれぞれ本当の自分を見つけるために葛藤すること様子を追いますが、最後にエルファバは悪を選び、グリンダは善を選びます。これはすべて、これまでの2人の環境のせいでした。エルファバは悪いことばかり起こるので悪くなり、グリンダは万事がうまく行くので良くなります。これは単なるミュージカルの物語に過ぎませんが、多くの現代人が罪についてこのように考える傾向があります。

しかしイエスは同意しません。「しかし、口から出るものは、心から出てきます。それは人を汚します。悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、偽証、ののしりは心から出て来るからです」(マタイ福音書15章18-19節)。心は汚れの源です。罪は心から生まれます。

やっと歩けるようになったばかりの小さな子どもを見てみましょう。なぜその子はそんな行動を取るのでしょうか。わがままだからですか。歩けないとなぜ腹を立てるのでしょうか。子どもはしつけのせいで罪人になるのではありません。まだ十分に生きていないからです。罪が心の中から出て来るから罪人になるのです。罪は内臓されています。わがままになることを教わったではありません。自然にそうするのです。表面化する罪は既に内部にあるものの現れです。ダビデは告白しました。「ああ、私は咎ある者として生まれ、罪ある者として母は私をみごもりました」(詩篇51編5節)。これは原罪の経験的事実です。

神学的にはこれは何を言っているのでしょうか。人は皆、神の似姿に造られました。神は聖であり善です。初めに造られた時、人間は神の性質を反映していましたが、聖と善の源は私たち自身ではなく、永遠なる三位一体の神でした。ウィリアム・グレイトハウスとレイ・ダニングが説

明したように、「神だけが本質的に聖である。私たちは、神と正しい関係にあり、かつ神の聖化する霊に満たされる時にのみ、聖くなる」のです。このように、墮落とそれに続く出来事によって罪が入り込んで以来、神の似姿の中にある私たちの本質はそのまま維持されていますが、神の道徳的似姿としては壊れています。²グレートハウスとダニングは続けて言います。「本質的に、人は神のために造られた、良いものだ。存在としては、人は罪人、神の命から切り離され、墮落した反抗者だ」と。³本質的には良いが、存在としては反抗者——これが原罪です。

私たちには持って生まれた本質があります。それは病気になった胆嚢のように、取り除く必要のある「物」ではありません。それはプライドや自己中心性に向かおうとする性癖です。暴力、エゴ、自己満足、自己保存に向かおうとする、生まれながらの性癖です。それは最高の段階にある、最も明白なナルシズムです。言い換えれば、心の中にある罪が最悪の瞬間に犯す無分別以上のものです。それは十戒の第1条(出エジプト記20章2節)を無視すること、神のみを礼拝することを無視することです。N・T・ライトは私たちがそれにどっぷりつかっていることを暗示しています。

「この人間の状況を診断すれば、それは単に人間が神の道徳律を破り、創造主を激怒させ侮辱しているだけではありません(それも事実ですが)。この法破りはもっと深刻な病気の前兆です。道徳は大切ですが、すべてではありません。創造世界の中と外に対する責任と権威に答えて、人は自らの天職を逆さまにして、被造物世界の中にある諸々の力を礼拝し、忠誠を誓いまし

2. *Imago Dei* (イマゴ・デイ) は「神の似姿」のラテン語訳です。人間における神の道徳的似姿は墮落の結果傷つきましたが、神の本質的な性質は神の似姿に造られたすべての人の価値を維持します。ダイアン・ルクレールは、ジョン・ウェスレーの教えに忠実なナザレン派神学者ミルドレッド・バングス・ウィンクープが「人間における神の似姿を、神、他者、自身、そして地球という文脈の中で、愛の受容力として定義している」と記しています。LeClerc, *Discovering Christian Holiness: The Heart of Wesleyan-Holiness Theology* (Kansas City: MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 2010), 312. Also, see the final section of this chapter, “Defining Entire Sanctification.”

3. Greathouse and Dunning, *An Introduction to Wesleyan Theology* (Kansas City, MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 1982), 52. 彼らは続けて原罪の歴史的意味(ローマ 5.12-21) と原罪の実存的意味(ローマ 7.14-25), 53-54について詳述します。原罪についてのウエスレリアンの見方は、カルヴァン派の全的墮落とは異なります。

た。その名前は偶像礼拝です。その結果は奴隷状態と死に他なりません」。⁴

悪い事実の記録だけではありません。私たちは墮落した本質を抱えています。神の恵みは、罪の状態と罪の行為から私たちを救出し、それを癒すために必要です。そのためには義認と聖潔の両方が必要です。私たちは1人の人として造り変えられる必要があります。心を思い切って刷新される必要があります。ウェスレーが内的聖性と外的聖性を同等に強調した理由はここにあります。私たちは罪が赦され、キリストの内に生きる者とされ、信仰によって心が清められなければなりません。そうすれば、一旦失った神の完全な似姿を取り戻せます。

肉の働き

前に示したように、新約聖書の文書、特にパウロの書いた文書は、原罪の破局的結果の有様を「肉の働き」と呼ぶ場合がよくあります。「肉」という言葉はギリシヤ語のsarx から来ています。⁵人のからだ(身体)と混合しないように、「肉」は霊的な意味で使われます。そして、喜ばれることを求める自己中心的な性癖や、神のご意志や目的に任せてしまうことよりも自分自身のために生きる「自我」を過度に愛する自己愛を指して使われます。⁶ルター(そして、彼の前にはアウグスティヌス)は、これを「自分自身の中に向けて湾曲された」(*incurvatus in se*)状態だと表現しました。ルターが自分自身の中に向かっていと描写した姿を頭の

4. N. T. Wright, *The Day the Revolution Began: Reconsidering the Meaning of Jesus's Crucifixion* (New York: HarperCollins Publishers, 2016), 76–77.

5. クリスマンの人生の二つの性質の理論は19世紀後半から20世紀初頭に広く有名になったディスペンセーション主義の視点によって紹介されましたが、それは著名な福音派伝道者や教師たちを含む福音派の間で広範な影響を及ぼしました。この影響は、新国際訳聖書の最初期の版(1973)の編纂委員会で「肉」(*sarx*)を「罪の性質」と訳すように誘導しました。ダニングは、このことは「[この版を]ギリシヤ語原文の忠実な翻訳の基礎として用いることを実質的に不可能にした」とグレイトハウスが示唆したと指摘します。改訂版 新国際訳聖書2011年の編纂委員会はこれを「肉」と訳しています。- Dunning, *Pursuing the Divine Image: An Exegetically Based Theology of Holiness* (Marrickville, New South Wales: Southwood Press, 2016), Kindle Location 786.

6. 37. グレイトハウスとダニングは肉を「自分自身のために生きること」と定義しています。Greathouse and Dunning, *An Introduction to Wesleyan Theology*, 53.

中でじっくり考えてください。「私たちの本質は、最初の罪の墮落によって自分自身の中に向かって深く湾曲されたので、その本質は神の最上の賜物をそれ自身に向けて曲げて楽しみ(それは独善的に行いと偽善者で明らかである)、これら賜物を手に入れるために神自身をも利用するだけでなく、また自分自身のためにあらゆることを(神さえも)邪悪に、湾曲に、悪質に求めていることに気づかない」のです。⁷

パウロは、「私には善をしたいという願いがいつもあるのに、それを実行することがないからです」(ローマ書7章18節)と言っています。彼は、全力をもって神を愛し神に従うことのできない肉の無力さを言っているのです。パウロも私たちも、自分のしたいことだけを「自我」の奴隷になっています。パウロはガラテヤ書で肉と霊の戦いを敷衍して言います。「なぜなら、肉の願うことは御霊に逆らい、御霊は肉に逆らうからです。この二つは互いに対立していて、そのためあなたがたは、自分のしたいと思うことをすることができないのです」(ガラテヤ書5章17節)。続いて彼は、肉の働きと肉に従う行動や態度を、御霊の実と対比して鮮やかに描いています(同19-23節)。それから彼は、釘を刺すように断言します。「肉の思いは死であり、御霊による思いは、いのちと平安です」(ローマ書8章6節)。私はこう言い換えます。「私たちが肉の悪行を殺すか、それとも肉の悪行が私たちを殺そうとするかのどちらかである」と。

肉に関する聖書の考えは、長年にわたって誤解されてきました。残念なことに、肉と霊は肉体と精神に対応している、従って肉は肉体上の皮であると考えの人がいます。⁸その結果その人たちは、もし肉が悪と罪の源泉だとしたら、私たちの肉体は本質的に悪いものであると考えるようになりました。従って、私たちは人生の物質面を軽視し、からだを従属させて、物質的快樂や満足を求めてはいけないと考えています。⁹これは極端に思われるかもしれませんが、罪の序列(例えば、肉体の罪と

7. Martin Luther, *Lectures on Romans*, WA 56.304.

8. 「肉」と「体」は新約聖書において二つの異なる言葉です:サルク *sarx* とソーマ *soma*.

9. グノーシス主義の異端の多くは肉と対応した体についての間違った考え方に基づいています。抽象的な至上の魂というプラトンの考えは今日においてさえ、体を軽蔑して眺め、体のない永遠の魂を強調します。しかし、この誤りは体のよみがえりという聖書の教理と対立します。この蔓延した誤解と戦うため、最初期のキリスト教教理は体の

か精神の罪)を決める時や、ある行為は他の行為よりも悪い(例えば、性的不道徳はゴシップや嫌味よりも悪いとか、酔うことはプライドや人種差別よりも悪いなど)と言う時にある程度使われます。その結果、もし誰かが肉体の罪(大罪ともみなされる)を犯すと、それは絶対に許されませんが、精神的な罪を犯した時は、「完全な人は一人もない」という理屈の下に大目に見られます。罪をこのように分離・分類することは、聖書的な聖性を明らかに誤解していますし、パウロがすべての罪を一緒に1種類にまとめていることは言うまでもありません(ガラテヤ書5章16-21節では、偶像礼拝も争いも「肉の行い」に分類されています)。

人間のからだは決して悪いものではありません。何と言っても、神は人のからだを創造し、イエスにおいて人のからだを得たのですから。パウロは人のからだに言及したい時、ギリシア語のsarxではなくsomaをよく使います。ローマ書だけでも13回使っています。Somaは人の肉体的ないしはその人全体を指す言葉です。12章1節の「あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい」は、私たちの肉体を含めた全体を聖化するよにとの呼びかけです。

では肉とは何でしょうか。なぜ聖化(聖潔)する恵みが必要なのでしょう。肉は人間全体(身体、頭脳、精神)が自分自身の神になろうとする性癖であり、主イエスの下に来ることはありません。それは神から離れて自分の人生を生きようとする自我の罪深い側面です。イエスに寄り頼むのではなく、自分が王となり救い主となることです。救いの恵みを受ける前は、私たちは聖霊ではなく、肉によって完全に支配されています。私たちは罪の本性、つまり、自分は自分自身を救うことができるという心の傾向を持っています。それは肉の心によって全面的に利用され支配されています。しかしながら、義認(罪の赦し)と再創造(新生)の瞬間、私たちには聖霊の賜物が与えられます。¹⁰ウェスレー・ホーリネス系の人々はこれを「初期聖潔」と呼びます。なぜなら、私たちはイエスの御

よみがえりの重要性を強調しました(例として、「私たちは体のよみがえりと、永遠の命を信じます」、使徒信条)。

10. 「新生」は聖書のことばそのものではありませんが、神学者たちは、恵みによりキリストにある新しい誕生の結果として与えられる新しい命を描写するためにこの言葉を創り出しました。本当の意味で、人は新しい命によみがえり、霊的な復活が起き、そして実際の変化が見えたり見えない形で続いて起こります。

霊という聖なるものが与えられながら、聖なる人生の旅を始めないわけにはいかないからです。¹¹

ここから主導権争いが始まります。私の人生の王は誰でしょうか。クリスチャンになる前は争いはありません。小競り合いもありません。自らの力と利己的な欲望に捕らわれた肉が私たちを支配していました。聖霊が私たちの人生に入ってくる時、私たちには新しい欲望と動機、およびキリストの心が与えられます(ローマ書12章2節、第1コリント書2章16節、ピリピ書2章5節)。肉と聖霊という2つの勢力が、対立して主導権を争います。聖性は始まったばかりで、増大し成熟しなければなりません。

パウロがコリントの教会に手紙を書いた時、彼は「御霊に属する人に対するようには話すことができない」(第1コリント書3章1節)と言いました。彼らがクリスチャンでなかったからでしょうか。違います。彼らは生まれ変わったクリスチャンでした。実際、手紙の冒頭(1章2節)には「聖徒として召され、キリスト・イエスにあって聖なる者とされた方々」と書かれています。新生と義認と贖いは起こっていたのです。恵みの旅は始まっていました。問題は肉との戦いが進行中だったのです。嫉妬、競争、傲慢、分裂はまだ全開でした。確かにクリスチャンでしたが、まだ「肉に属する人」、未熟な信仰、「キリストにある幼子」(3章1節)でした。成長する余地がありました。これは彼らの意志と精神を神に引き渡したくない反抗心がまだ残っていたことを意味しています。¹²

さらにウェスレーはパウロの言葉の意味を鋭く洞察しています。コリント人が信仰心を失っていたのかと問われると、ウェスレーは、「いや、パウロは彼らが失っていなかったと明言している。失っていたら、『キリストにある幼子』ではないだろう」と主張しました。彼は「肉的」と「キリストにある幼子」とは同じことであり、すべての信者はまだキリストにある幼

11. 「ウェスレーはこの言葉[最初の聖化]を決して用いなかったが、それは救いの瞬間が義とされるプロセスを始めるという彼の信仰を意味する。」LeClerc, *Discovering Christian Holiness*, 318.

12. 「『精神』と訳されるギリシア語は、パウロによって用いられた最も重要な人類学的用語の一つだ。それは、裁きの力が行使される時の、人の理性的側面を指す。」Dunning, *Pursuing the Divine Image*, Kindle Location 814. 理解するために考えたり知性を用いるための神が各人に与えた能力は、「理性」として知られる、いわゆるウエスレーアン四角形の一つの側面です。

子なので、(ある程度)肉なのだと言います。¹³ウェスレーにとって、肉的話とは「肉に属する」と同じ未熟な信仰を表しており、彼らはキリストに似た者、十字架に自分を預ける者に成長しなければなりません。¹⁴これはすべての信者に当てはまります。問題は救いではなく、キリストを主とすることです。聖化(聖潔)された人は、イエスに似た姿にもっともっと近づかなければなりません。それは彼らの中で死ぬべきものではありません。彼らはこれまで彼らを支配してきたものに対して、実際にかつ比喩的な意味で、死ななければならぬのです。¹⁵宗教的資格や道徳的規準は十分ではありません。肉への信頼に対して死ぬ必要があります。

パウロは告白しています。「ただし、私は、人間的なものにおいても頼むところがあります。もし、ほかの人が人間的なものに頼むところがあると思うなら、私は、それ以上です。私は八日目の割礼を受け、イスラエル民族に属し、ベニヤミンの分かれの者です。きっすいのヘブル人で、律法についてはパリサイ人、その熱心は教会を迫害したほどで、律法による義についてならば非難されるところのない者です」(ピリピ書3章4-6節)。パウロは宗教的には非の打ちどころのない人でしたが、彼は肉に信頼を置いていました。彼は続けて言います。「しかし、私にとって得であったこのようなものをみな、私はキリストのゆえに、損と思うようになりました」(同3章7節)。彼は規律を守り律法に従いましたが、自分自身を救い、聖なる者とする自らの義により頼んでいる限り、肉に従って生きていたのです。これらは彼の人生で中心的地位を占めるほど良いものでしたが、キリストを知るためにはこれらに対して死ななければなりませんでした。さらに、キリストをより完全に、より多く知ることによ

13. Wesley, Sermon 13: "On Sin in Believers," in *The Complete Works of John Wesley: Vol. 1, Sermons 1-53* (Fort Collins, CO: Delmarva Publications, 2014), 3.2.

14. ダニングは、「『肉欲』は誤解させる言葉で、名詞として用いられるが、一方聖書は常にそれを形容詞の『肉欲』として用いる。」Dunning, *Pursuing the Divine Image*, Kindle Location 2076. これはまた、『肉』は一種の異質な物で、『比喩的に言えば私たちの中に生きているがん細胞』のように手術で除去できるという考えを拒否します。Ibid., Kindle Location 801. 19世紀の清め派の説教者を含む、取り除くべき何かという概念の提唱者たちはそれを根絶と呼びます。

15. William H. Greathouse with George Lyons, *New Beacon Bible Commentary, Romans 1-8: A Commentary in the Wesleyan Tradition* (Kansas City, MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 2008), 182.

て、これまで行った道徳的努力をキリストの救いと聖潔の恵みに取り替えました。「それどころか、私の主であるキリスト・イエスを知っていることのすばらしさのゆえに、いっさいのことを損と思っています。私はキリストのためにすべてのものを捨てて、それらをちりあくたと思っています。それは、私には、キリストを得、また、キリストの中にある者と認められ、律法による自分の義ではなくて、キリストを信じる信仰による義、すなわち、信仰に基づいて、神から与えられる義を持つことができる、という望みがあるからです」(ピリピ書3章8-9節)。

多くの人は道徳的で、宗教を信じてすらいますが、偉そうな態度、頑固、偏見、厳しさ、心の冷たさは、肉が宗教を飲み込み、イエス・キリストを頼りにさせない戦略として利用しているということを暴露しています。利益を上げるために貧しい人々を搾取する貪欲なビジネスマンは肉の枷にかかっており、神の目にはパリサイ人と同じです。彼らは自分の人生の歩みを神から切り離し、自分自身の道を捏造する戦略を取った人たちです。

ここに難しい真理があります。クリスチャンでも、肉に従って生き続けることは可能です。救いの恵みが来る前は、私たちは罪に死んだ者ですから、肉は聖霊と争いませぬ。神の御霊が下って私たちの内に宿っていても、私たちは肉の生活を続けることができます。何か良いものを見つけて、それを最終目標にしてしまうことはあり得ます。神により頼む代わりに、自分の力に頼ってしまうことはあり得ます。ここに聖潔の恵みを必要とする理由があります。自分自身を頼みとしようとする肉を十字架に付け、私たちの人生を管理しようとする肉を死刑にするには、神の恵みが必要です。そうして、イエスの霊が私たちを完全に支配できるようにしなければなりません。¹⁶

高名なスコットランドの教師で、祈りの作家オズワルド・チェンバースは、キリストを一層よく知るために自我に対して死ぬことの核心に次のように触れています。

16. オズワルド・チェンバースは自分に死ぬという考えを、キリストの死と一体化し進んで「ともに十字架に架かる」ことだとします。同じように、クリスチャンはイエスの復活に結びつき、新しい命への「ともなる復活」をすることができます。イエスの復活の命は今や聖性の命として経験されます。Chambers, *My Utmost for His Highest* (Uhrichsville, OH: Barbour and Company, 1935), 73.

「私は私の情緒的意見と知的な信念を取り上げて、罪の本性を告発する道徳的評決にかけることに同意します。つまり、自分自身に対する権利を持っているという主張に反対します…私がこの道徳的決断に達しそれに基づいて行動する時、キリストが十字架上で私のために成し遂げたすべてのことが私の中で成し遂げられるのです。神に対する私の抑え難い献身によって、聖霊はイエス・キリストの聖性を私に与える機会を持ちます…私の個性はそのままですが、人生の主要な動機と私を支配する性質は大きく変化しています」。¹⁷

肉が私たちの人生を支配する必要はありません。聖なる生活には自由が与えられます。聖潔の恵みはその手段であり療法です。それでは、聖潔の恵みは恵みの旅の中で実際どのように働くのでしょうか。

イエスのようになること

私はジョージという名前(本名ではありません)の人について話したいと思います。彼は私の教会の会員でしたが不幸な人でした。いつも何かにおびえていました。音楽も私の説教も好きではありませんでした。私の聖性の説教は彼が子どもの時に聞いたのと違うと言いました。さらに、彼は教会員、特に新しい会員が好きではありません。ジョージは私に7頁に渡る手紙を書いてきましたが、最も見苦しいコメントもいくつかあり、私の司牧上の個々の行動を攻撃するだけでなく、その動機も知っていると言わんばかりでした。

しばらくの間、彼の不満は教会が内向きで外に向かって開いていないことでしたが、教会が新しい人々で一杯になり始めると、それも気に入りません。なぜなら、長年教会に出席して教会の経済を支えてきた人たちに対する配慮がないからでした。この教会が大きくなっているのは、他の教会から羊を盗んでいるからだと言いました(事実ではありません)。結局、彼の根底にあるのは、何も変わってほしくないということでした。

ジョージは、牧師としての私の感情的エネルギーを大変消耗させました。彼は何度も教会を去ると脅しました。私が思うに、彼は内心では私

17. Chambers, *My Utmost for His Highest*, 58.

たち皆が知っていることを知っていたのです。つまり、他のどの教会も彼を相手にしないでだろうということです。遂にある日、私は彼を呼んで言いました。「ジョージ、私が君を愛していることは知ってるだろうが、手紙やEメールはもう止めてほしい。メールでは君の心は読めないし、君も私の心を読めない。これからは、もし心配事や文句があれば、面と向かって言ってほしい」と。

事態は好転しているように思えました——少なくとも少しの間は。彼は手紙を送ってこなくなりましたが、教会内で悪口を言い続けました。やがてジョージは怖い犬よりも蚊のように、危険分子というよりもむしろ、イライラさせる存在になりました。

私にとって最も悲しかったのは、ジョージが変えられていないことでした。彼は気難しい人で、人々の印象はそのままでした。教会だけではありません。妻にとって良い夫とは言えず、子どもたちも彼に近寄ろうとはしません。彼の人生には喜びがないのです。最大の驚きは、彼が60年以上も教会に出席していたことです。おそらく最悪なのは、彼が変わらないことに誰も驚かず、誰もそのことに心を痛めていなかったことです。皆そのことを受け入れていたのです。「ジョージはあんな男だよ」と思われていました。誰も彼がイエスのようになるとは期待していませんでした。

ジョージのことを考えて、教会の現状を尋ねる際に、「出席者は何名ですか」と尋ねるのは間違いであると信じるようになりました。良い質問、少なくとも正しい方向にある質問とは、「彼らはどのような人たちですか」でしょう。¹⁸誰かがクリスチャンになる時、その人の目標はキリストに従う道を学ぶだけでなく、キリストのような人生を実際に歩むことです。これこそ、恵みの旅においてキリストの弟子となる目標です。

キリストの弟子の目標

奉仕の働きを説明するパウロは、ある人は使徒、ある人は預言者、ある人は伝道者、ある人は牧師、または教師として立てられると言いますが、「それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるため」です(エペソ書4章12節)。弟子への道に関連したこ

18. Bill Hull, *The Disciple-Making Pastor* (Old Tappan, NJ: Revell, 1988), 13.

の聖句について、解き明かすことは沢山ありますが、まず「からだ」という概念から始めましょう。

からだとは、面白いたとえです。なぜなら、霊的な成長を語る時はいつも、何かが生きているという前提がそこにあるからです。生き物はすべて成長します。死んだ物は静止するか朽ちます。生き物だけが成長します。無生物は成長しません。家具も岩も成長しません。有機体だけが成長します。

有機体は、①植物、動物、人などの生き物、または②生き物を構成する相互依存的部分から成る機能的システムに分けられます。植物は有機体です。日光、水、栄養がなければ生きられません。植物は成長を支える生態系が必要です。それがないと死にます。人間のからだも有機体です。人体の構造は、相互に依存する機能的部分から成るシステム、一緒に働くように設計された運用システムです。「からだの一つでも、それに多くの部分が」と言われます(第1コリント書12章12節)と。からだの部分が1つでも正しく動かないと、その部分がどんなに小さくとも、からだ全体のシステムを不能にして、人を不健康にします。

私たちはキリストのからだだとパウロが言う時、教会もダイナミックで生きた人々から成る1つの有機体であり、相互に依存する部分が一緒に働いて、聖霊の力による活力と健康を維持しているのだ、と彼は言っているのです。「からだはただ一つの器官ではなく、多くの器官から成っています」(第1コリント書12章14節)。部分が全体と一緒に働かない時、からだは病気になり衰弱します。逆に、部分が結合して栄養を与えながら成長すると、活力と健康が生まれ、からだを整え、目的が達成されます。私たちはからだを立て上げ、「ついに、私たちがみな、信仰の一致と神の御子に関する知識の一致とに達し、完全におとなになって、キリストの満ち満ちた身たけにまで達するのです」(エペソ書4章13節)。クリスチャンが大人になる目標は、キリストの身たけに達すること、キリストに似た者になることです。それ以外の目的はありません。教会も同じことです。個々の会員が一緒になるのは、キリストのからだにみえるようになるためです。さらに、私たちが一度言われただけでは理解していない場合を考えて、「あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達することができるため」とパウロは繰り返しています(同15節)。

あらゆる靈的成長の目標は、個人としてであれ教会としてであれ、個人的であれ公的であれ、イエスに一步でも近づくことです。キリストのようになる行為やプロセスが聖潔です。それは聖潔の恵みによって可能になります。

聖性は任意的なものではない

ギリシヤ語で、聖潔は「聖なる(hagios)」と関連しています。ウェスレー・ホーリネスの神学では、福音の良き知らせは死んだらいつか神と共にいるだろうというだけではありません。神の御国における満ち足りた生活は、今でも私たちがどこにいても与えられます。神の計画は、墮落によって汚された神の似姿の美しさと栄光をすべて私たちに回して回復させること、さらに私たちが神の作品として、思考、発言、行動においてキリストに似た者になることです。これは聖潔と呼ばれ、私たちの目指すものです。成長するクリスチャンにとって、それは任意的なものではありません。

新車を買う時、セールスマンは基本の部品と共にアクセサリーとして追加される部品についても説明してくれます。車の基本部品はハンドル、シートベルト、ミラー、モーターなどで、どの車にもついています。しかし、自動窓や特殊タイヤ、ステレオ装置がほしい場合、その値段を尋ねなければなりません。聖潔は、イエスの弟子にとって追加部品ではありません。どのタイプの車にとっても基本部品です。イエスのようになることが期待されるのは、成長は任意の追加部品ではないからです。私たちは常に何かに向かって成長します——特に靈的に形成される過程にあっては。

パウロに戻るなら、彼はローマ書12章2節でこのことを強調しています。「この世と調子を合わせてはいけません。いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れられ、完全であるのかをわきまを知るために、心の一新によって自分を変えなさい」。この世と調子を合わせるか、それとも変えていただくか、2つに1つです。新生させる神の力によって変えられなければ(内から外に変えられなければ)、神に敵対する力によって世に調子を合わせさせられます。問題は、靈的に形成されるかどうかではなく、どの意志に形成されるかです。も

し神が私たちを形成しないなら、霊的な敵が登場し、喜んで私たちの人生を形成するでしょう。

簡潔に言うと、神から離れた世は、人々を悪い方に変形します。神は正しく造り変え、変容させます。なぜ聖潔(イエスのようになること)が重要か、それがここに 있습니다。聖書の次の言葉以上に、人の人生に対する神のみこころをうまく要約した言葉はないでしょう。「神のみこころは、あなたがたがきよくなることです」(第1テサロニケ4章3節)。そして「すべての人との平和を追い求め、また、きよめられることを追い求めなさい。きよくなければ、だれも主を見ることができません」(ヘブル書12章14節)。平和と聖なる生活の追求は、受動ではなく活動を意味します。人間の霊的成長を聖潔、または聖性と呼びます。初期聖潔と全き聖潔は同じではありませんが、すべての聖潔の目標はイエスのようになることです。これはすべてのクリスチャン人生に対する神のみこころです、もし「あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達する」のでなければ、私たちは聖なる愛以外の何者かによって形成されてしまうでしょう(エペソ書4章15節)。

霊的成長の方程式

キリストの弟子になることは、任意の選択ではありません。大部分のクリスチャンはこの点に反論しないでしょう。問題となるのは、この成長はどのように起きるかです。ジェームズ・エメリー・ホワイトは『教会を再考する』の中で、弟子となるプロセスについて多くの人が信じていることを数学の方程式を使って説明しています。それは、

救い+時間+個人的応用=人生の変化、です。

この公式は4つの前提の上にできています。すなわち、①人生の変化は救いによって起こる、②それは時間をかけて自然に起こり続ける、③それは意志の行為によって大部分達成される、④一人で成し遂げるのが一番良い。¹⁹この仮定を丁寧に見ていきましょう。

第1に「救い」です。救いは、人間の急激な変容(生まれ変わること)ですので、直ちに心の変化が起こって、欲望、習慣、態度、性格に奇跡的

19. James Emery White, *Rethinking the Church: A Challenge to Creative Redesign in an Age of Transition* (Grand Rapids: Baker Books, 1997), 55.

な転換をもたらします。クリスチャンは生まれるのであって、作られるのではありません。救いは神との関係の現状変化を起こし、運命を変え、聖霊の力と働きを私たちの人生にもたすので、直ちに本質的な成長が期待されます。これが救いの前提です。

2番目は「時間」です。変容のプロセスは回心の時に起こりますが、人はクリスチャンになる時に十分成長しているわけではないことは明白です。処理すべき反抗心と自我がまだ残っています。しかしそれらは時の経過と共に処理されます。²⁰従って、この方程式では、5年目のクリスチャンには5年の霊的成熟、10年には10年の霊的成熟があることとなります。信仰は、時と共に成長せざるをえません。従って私たちのなすべきことは、できるだけ聖書を読み、教会に出席することです。そうすれば聖霊の実は豊かになり、私たちはイエスにより近づくでしょう。これが「時間」の前提です。

3番目は「個人的応用」です。これは意志の力と関係があります。時間をかけても自然に起こらないことは何でも、決意と努力によって補足されるという考えです。人のなすべきことは、1つの生き方と行動を選ぶ決心をすることです（そして少しの忍耐力を持つことです）。なぜなら、クリスチャンの生活は意志による行動によって支えられるからです。十分な時間と意志があれば聖霊の実は生まれます。これが個人的応用の前提です。

最後に、「一人で成し遂げるのが一番良い」について。弟子の方程式の最後の前提は独立心、ないしはイエス・キリストとの個人的関係が親密な関係になることです。²¹

このように方程式は展開しますが、これらの前提が果たして確かなものかどうか尋ねることは滅多にしません。キリストの弟子となる道は、このようにして起こるのでしょうか。救われた後は自動的に霊的生活において成長し始めるのでしょうか。クリスチャンになると、直ちに心の奥底で習慣や態度や性格の変容があるのでしょうか。クリスチャンは時間と意志の力さえあれば成長するのでしょうか。私たちと神との関係は個

20. White, *Rethinking the Church*, 56.

21. キリストとの個人的な関係が、イエスとの私的な関係と同義だという考えは、世界のほかのどの場所よりも西洋社会で普及しています。個人主義はアメリカでは文化的美德と見なされます。

人的ですので、イエスの弟子は単独で動く方が良いでしょう。これらの前提が正しければ、教会内にはその証拠が沢山あるべきです。ホワイトが指摘するように、もしこれらの前提が正しければ、方程式に従うだけで一貫して同じ結果を生むでしょう。すなわち、一人一人のクリスチャンもキリストのからだも、思考と発言と行動において、ますますイエスのようになるはずです。²²しかし、この公式が全く完全ではないことには、重要な根拠があります。

一見すると、イエスの弟子は新しく生まれ、作られるように思われます。救いの恵みは、私たちの神との関係や永遠の定めを変えて、聖霊の力と働きを私たちの人生に引き入れます。しかし、新約聖書の教えることを読むと、新しく生まれたクリスチャンはまだ性格的に成熟していません。クリスチャンになれば自動的にキリストのようになるとは限りません。発育が必要です。美德は努力を重ねて時間をかけて育てていきます。²³このような現状に鑑みてながら、霊的成長が聖潔の恵みを通してどのように起きるかについての、もっと聖書的な概念構成を考えてみましょう。

1. 霊的成長は救いから始まるかもしれませんが、私たちは生涯を通じて恵みにおいて成長し続けます。ただの聖潔と全き聖潔との間には違いがあります。聖潔が一瞬なのか漸進的なのかについては常に議論があるようです。決定的な瞬間があるのか、それともそれはプロセスなのか——答えは両方です。²⁴聖潔の恵みは、私たちが救う恵みを経験した瞬間から始まります。神学者たちはそれを「初期聖潔」と呼びます。

22. White, *Rethinking the Church*, 57.

23. N. T. Wright は美德というクリスチャンの概念を性格の変容と定義します。Wright, *After You Believe: Why Christian Character Matters* (New York: HarperCollins Publishers, 2010). 5章では、美德の理解にさらに多くの時間が割かれます、「支え続ける恵み」。

24. 全的聖化において、それが一瞬なのか漸進的なのか、危険なのかプロセスなのか、という問題はウエスレリアン・清め派の中では歴史的に重要な議論のトピックでした。ジョン・ウェスレー自身は常に両方の重要性を強調し、初期ナザレン派の指導者たちは一般的に注意深くバランスを保つことを示唆しました。総監督のR. T. ウィリアムスは1928年のナザレン教会の総会で次のように述べています：「教会は宗教の危機とプロセスの両方を強調しなければならない。何年もの間、清め派の人々は彼らが召された働きは、人々が祭壇に新生と聖化の祝福を受けるために進み出る時に終わると感じていたが、私たちの働きはその時点で始まるだけなのだということが明らかになってきた。ナザレン教会は二つの偉大な原則のために戦う、危機とプロセスのために。[人々を] 神へと導き、初めの救いでキリストの体を教化し、クリスチャンの性格を発展させる

それに続いて恵みによる霊的成長があります。それは神が私たちの心を洗い清めるまで(私たちが完全に捧げられ、完全に明け渡される瞬間まで)続きます。これは全き聖潔、または「キリスト者の完全」と呼ばれる経験です。²⁵しかし、神に完全に捧げられた瞬間の後でも、私たちは恵みにおいて成長し続け、私たちが生きている限りそれは止まることがありません。

ナザレン教会の信仰箇条にはこうあります。「私たちは、きよい心と成熟した品性との間に明確な区別があることを信じる。前者は瞬間的に得られる全き聖潔(きよめ)の結果であるが、後者は恵みのうちに成長する結果として得られるものである」。私たちが、先行する恵みに信仰において応答する時、私たちは救う恵みを受け取ります。そこには私たちの優先事項の劇的な方向転換、私たちの願望の再構成があり、聖霊の力と働きが私たちの人生において解き放たれます。すべての有害な習慣、人格的欠如、あるいは私たちの持つ悪い性癖から瞬時に解放されるよりも、神は私たちが望ましい姿へ変えるように働き続けます。すべてのキリスト者の弟子の道の目標は、ますますキリストのようになることです。赤子はその状態に留まらず、完全に大人になるよう成長することを期待するように、クリスチャンも霊的な赤子に留まることを望むべきではない、とパウロは説明したのです。霊的成長は救いから始まりますが、私たちは生涯を通じて恵みにおいて成長し続けます。私たちは、今よりも来年、よりキリストのようにみえ、行動し、考えるべきです。そうして私たちは聖潔の恵みによって前進します。

こと。」 *General Assembly Journal*, 1928, referenced in Dunning, *Pursuing the Divine Image*, Kindle Location 2176, footnote 26.

25. キリスト者の完全は、キリスト教の歴史を通じて聖書的な、しばしば繰り返されるフレーズでした。初期教会の父たちや母たちは完全を、神化 (*theosis*) あるいは神格化 (神性に参与すること) という考えと同視しました。しかし、完全という現代の概念は異なる仕方では理解されました。それは「罪なき完全」あるいは、トーマス・ノーブルが書いているように「この世の生において、クリスチャンは罪なく完全に聖であるような最終的で究極的な完全状態に達することが出来るという考え」として正確に教えられることは決してありませんでした。T. A. Noble, *Holy Trinity, Holy People: The Historic Doctrine of Christian Perfecting* (Eugene, OR: Cascade Books, 2013), 22. 現代の解釈の混乱を避け、恵みにおける成長のダイナミックな側面を強調するために、ノーブルはこう主張します、「最終的な到着よりもむしろ、完全への動きというダイナミックな概念を所与とすれば、ギリシア語のこの意味を表明するためには『完全』という言葉より『完全にす』と訳す方が好ましい。」 *Ibid.*, 24.

2. 靈的成長は単なる時間以上のものを含みます。私のほとんどの友人が知らないか、あるいは忘れてるのは、私がピアノを弾けるということです。私は40年以上もピアノを弾き続けてきたのです。私が10歳の時、私はほとんど毎日練習していました(母親からの多くの指導の下に。母はピアノの練習をサッカーよりも優先していました)。今はほとんど弾かなくなり、1年に1回程度です。もし誰かが私に何年ぐらいピアノを弾いてきたのかと問えば、40年くらいと答えるのが真実であるかもしれませんが、この40年ずっと意識して練習してきたわけではありません。教会には、数年しかピアノを習っていないけれど、私より上手く弾ける子どもがいます。私は彼よりずっと長く弾いてはきたのですが。

私たちの靈的人生においてもそれは変わりません。情報にさらされるだけでは、人々がそれを吸収し、理解し、抱き、そして生きたことにはなりません。靈的成長には時間がかかるのは事実ですが、聖潔の恵みは時間の生み出す産物ではありませんし、キリスト教文化にさらされることによる副産物でもありません。²⁶教会には何年もクリスチャンとして過ごしながら、その人生にイエスの霊を反映していない人がたくさんいます。彼らは批判的で、怒りっぽく、冷笑的、否定的、利己的です。彼らの多くは、私の先の会衆の1人のジョージのようです。彼らは毎年ますますイエスのようにはなっていません。その理由はとても簡単です。

3. 靈的成長は時間の問題ではなく、神との協同と意図的な訓練です。ヘブル書の記者は言います。「あなたがたは年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神のことばの初歩をもう一度だれかに教えてもらう必要があるのです。あなたがたは堅い食物ではなく、乳を必要とするようになっています。まだ乳ばかり飲んでいるような者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。しかし、堅い食物はおとなの物であって、経験によって良い物と悪い物とを見分ける感覚を訓練された人たちの物です。ですから、私たちは、キリストについての初歩の教えをあとにして、成熟を旨として進もうではありませんか」(ヘブル書5章12節-6章1節; 強調は筆者による)。²⁷「年数からす

26. White, *Rethinking the Church*, 59.

27. ウェスレーは聖化をキリスト者の完全を聖化と呼ぶのを好み、彼の最も有名な教理的カテキズムを「キリスト者の完全の平易な解説」と名付けました。完全な愛の経験、または「愛において神が完全にする」ことがこの世の人生で達成可能だと論じ、彼

れば」という言葉に基づき、聖書のこの部分は、クリスチャンになって数年経った信者たちに向けて書かれたと推定できます。言葉と模範によって恵みの旅の教師となる代わりに、彼らは未だに幼子の食事を食べていました。大人用の食事をして成熟したクリスチャンとなる道は、義において自らを訓練することによってです。つまり、善悪を区別し、良い物とより良い物とを認識するのに役立つ訓練です。これはキリスト者の完全、あるいはキリストにある成熟へとつながり、それは、悔い改めた信者が心に残る肉の側面から離れることを可能にします。²⁸

ヘブル書の「訓練された」という言い回しは興味深いものです。それは意図的な努力を示唆し、クリスチャンはキリストにある自身の霊的成長に参加することを示唆します。他の例もたくさんあります。「自ら備えなさい!信仰を立て上げなさい!レースを走りなさい!心を守りなさい!」これらはすべて、神が私たちの中で行っていることをこの世界で成し遂げるための聖書の命令です。この訓練は、特定の実践——恵みの手段——によって達成されます。それは、ジョン・ウェスレーが敬虔の行いとあわれみの行いと呼んだものです。²⁹敬虔の行いには、祈り、聖書朗

はこう指摘します：「(1) 完全というものが存在する；なぜならそれは繰り返し聖書で言及されているからだ。(2) それは義認ほど早くはない；なぜなら義とされた人は「完全に進む」からだ(ヘブル 6.1) (3) それは死ほど遅くはない；なぜなら聖パウロは完全になった生きた人間のことを語っているからだ。(ピリピ3.15)」 Wesley, *A Plain Account of Christian Perfection, Annotated*, eds. Randy L. Maddox and Paul W. Chilcote (Kansas City, MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 2015).

28. ジョン・ウェスレーは、「信者の悔い改め」というタイトルの説教で、聖なる人生を追求するクリスチャンの悔い改めの継続的な必要性を強調しました。聖性のコンファレンスで語られたエッセイで、神学校時代からの私の神学教授の一人のロブ・L・ステイブルズは言いました、「全的聖化は神化[神の似姿の刷新]という私たちの運命への完全な専心として理解でき、そのような専心を妨げたり薄めたりするものからの継続的な悔い改めと、その結果としての清めとして、あるいは「クリスチャンの歩みの全ての段階での必要物」であるとされる、ウェスレーが「信者の悔い改め」と呼ぶものとして、理解できません。Staples, “Things Shakable and Things Unshakable in Holiness Theology,” Revisioning Holiness Conference, Northwest Nazarene University, February 9, 2007.

29. 「『恵みの手段』とは、外面的な徴、言葉、または行動、神による任職、そしてその目的のための選定のごとで、これらによって神は人に、抑制し、義とし、聖とする恵みをもたらすのだと私は理解している。」Wesley, “Sermon 16: The Means of Grace,” II.1, <http://wesley.nnu.edu/john-wesley/the-sermons-of-john-wesley-1872-edition/sermon-16-the-means-of-grace/>. Means of grace are sometimes also called spiritual disciplines.

読、断食、聖餐、洗礼、他のクリスチャンと時間を過ごすことなどが含まれます。あわれみの行いも恵みの手段で、他者への奉仕、例えば「飢えた者に食べさせ、裸の者に着させ、旅人をもてなし、牢にいる者や病の者を見舞い、無知な者を教える」ことです。³⁰私たちは恵みの手段を、それらを賜物として受けながら実践します。私たちの参加が必要とされます。³¹

にもかかわらず、私たちは参与と支配を混同しないように気をつけなければなりません。私たちは自分の霊的成長を支配できませんし、それを引き起こすこともできません。私たちに支配できる事柄もあります。メールを送ったり、バスに乗ったり、食品を買うことはできます。でも私たちにはどうにもできない事柄もあります。天気を変えられませんし、性別も変えられません。私たちが支配できることとできないこと、両方があるのです。

しかし、第3のカテゴリーもあります。私たちが支配できないけれど、協同できる事柄です。眠りについて考えてください。子どもがいる人なら、彼らを寝つかせるために話すことに慣れているかもしれません。時には子どもは「眠れない!」と答えるでしょう。彼らは部分的には正しいのです。子どもは、電話をかけるようには、眠ることはできません。親として、子どもには自分で眠るきっかけを作れることを教えます。彼らには眠るための準備ができます。ベッドに横になり、電気を消し、目を閉じて、軽い音楽を聴く——すると眠くなります!彼らはそれを支配できませんが、助けがないわけではありません。彼らは眠るきっかけを作り、眠りは静かに忍び寄ります。それは霊的成長にも当てはまります。私たちは自分自身を聖潔できないし、自分をイエスのようにすることもできません。聖なる神が私たちを聖なる者とします。神が私たちを聖なる者にするので。しかし、私たちの救いにおいて、協同は必要です。私たちは自分を救うことはできませんが、救う恵みに対しては「はい」と言わなければなりません。

30. Joel B. Green and William H. Willimon, eds., *Wesley Study Bible New Revised Standard Version* (Nashville: Abingdon Press, 2009), 1488, footnote "Going on to Perfection."

31. 恵みの手段についてのさらなる解説は、5章の「支える恵み」を見よ。

弟子の道の特筆すべき教師ダラス・ウイラードは、有名な次の言葉を言いました。「恵みの反対は努力ではない。恵みの反対は賃金だ」と。³²恵みは新生、義認、赦しよりももっと大きなものです。恵みは弟子の道の全行程に必要とされます。そうであっても、おそらく私たちの時代の大きな危険は、弟子の道について十分に考えないことではなく、私たちが何もする必要がないと思ってしまうことにあります。受け身主義は律法主義と同じように危険なものとなり得ます。古い自分を脱ぎ捨てて新しい自分を着るようにとパウロが言う時、私たちは神の助けをもってそれをすべきだと言っているのです。パウロはこのことで妥協しません。「むしろ、敬虔のために自分を鍛錬しなさい」(第1テモテ書4章7節)、また「競技場で走る人たちは、みな走っても、賞を受けるのはただひとりだ、ということを知っているでしょう。ですから、あなたがたも、賞を受けられるように走りなさい」(第1コリント書9章24節)。

恵みが意味するのは、神は私たちが自分ではできないことをしてくれたということですが、それは私たちがこの関係に何の貢献もできない消費者になったということではありません。この誤った考えのせいで、多くのクリスチャンの傍観主義的なアプローチを取り、その結果として霊的成長と成熟が欠如しています。従って、ダラス・ウイラードはこうも言います。「イエスが言われたように、『わたしを離れては、あなたがたは何もすることができない』(ヨハネ福音書15章5節)ということを私たちは知っているが、この節の裏側は『もしあなたが何もしなければ、わたしなしでいるのだ』と読めることも信じた方がよい」。³³私たちはイエス・キリストを模範としたこれらの活動、鍛錬、実践によって人生を整え直すことで、能動的な神の恵みと協同するのです。さらには、私たちがそれらに参与するのは、聖潔を勝ち取るためではなく、単に「もっと頑張る」だけではなしえない訓練を通じて成し遂げるためです。

4. 霊的成長は共同体的な努力です。西洋の読者は、恵みの旅のパウロの描写における共同体の強調に驚かされる傾向がありますが、多

32. Dallas Willard, *The Great Omission: Reclaiming Jesus's Essential Teachings on Discipleship* (New York: HarperCollins, 2006), 61.

33. Willard, "Spiritual Formation: What It Is, and How It Is Done," n.d., <http://www.dwillard.org/articles/individual/spiritual-formation-what-it-is-and-how-it-is-done>.

くの非西洋文化は一人で旅することができないことを既に知っています。教会に関する彼の最も神学的主張を再度読みましょう。「キリストによって、からだ全体は、一つ一つの部分はその力量にふさわしく働く力により、また、備えられたあらゆる結び目によって、しっかりと組み合わされ、結び合わされ、成長して、愛のうちに建てられるのです」(エペソ書4章16節、強調は筆者による)。個人主義的霊性を含め個人主義の祭壇にひれふすことに慣れた文化にはこの節が予想外であるように、パウロは私たちの弟子の道が個人行動としては決して意図されていないことを堂々と語ります。からだの各「部分」(個人)は重要で、なすべき独特の働きがありますが、すべての個人の働きには統合的な目的があります。すなわち、他者の成長を助けることです。

それは聖なる協働です。「協働(シナジー)」という言葉は、ギリシヤ語のsynergosから来ていて、その意味は「共に働く」です。全体の働きは個々の総和より大きい、あるいは個々の部分の結合は一人ですることよりも大きな効果を生み出すと、よく言われます。協働は、自然、ビジネス、スポーツ、家族関係に見出されます。それは相互依存、相互互惠、相互関係の力です。³⁴

相互関係の良く知られた例は、シマウマとウシツツキと呼ばれる非常に小さな鳥との関係です。ウシツツキはシマウマの背中のダニを食べ、一種の害虫除去をします。ウシツツキは怖がると、シューという音も立てますが、これはシマウマには捕獲動物が来た時の警報の役目を果たします。シマウマは、たくさんの食事をこの鳥たちに提供します。この鳥たちはシマウマに良好な衛生と健康とを提供します。これら2つの動物はあらゆる面で完全に異なりますが、繁栄のためにお互いを必要としています。

協働は、成長して完全な愛(ギリシヤ人の言うアガペー)になり、健全なからだの尺度ともなります。説明責任、励まし、勧告、取次の祈り、支援は、他の人々なしには不可能です。私たちは一緒に聖なる民となります。私たちは共同体において最もはっきりと神の声を聞クノです。愛は、

34. 相互依存についてのさらなる聖書的理解のために、パウロによる教会を人間の体に譬える新約聖書の教えを見よ(1 コリント 12, エペソ 4)。相互性についてのさらなる理解には、パウロのクリスチャンの結婚についての教えを見よ(エペソ 5)。

本物の関係の中で生かされない限り、表面的なものです。恵みの旅はチームによる行事です。³⁵

こうして、弟子の成長のための2つの異なる方程式が、協働します。

一般的な方程式：

救い+時+個人の意志の力=靈的成長

聖なる方程式：

恵み+神との協働+クリスチャン共同体=キリストのようになる

クリスチャンは、恵みにおいて成長するように招かれています。それは私たちがキリストのようになるべきだということを別の言い方で表したものです。神は再創造し、再設計します。それは聖潔する恵みです。私はC・S・ルイスほどそれを風変わりに言った人を知りません。

「自分自身を生きた家だと想像してみよう。神が、その家を建て直すために来られる。初めは、神が何をしているのか理解できる。廃止水管を直したり、屋根の水漏れを止めたりする。それらの仕事が必要なのは分かるので、驚かない。しかしやがて、神はひどく傷つける仕方で家を叩き始め、それは意味をなさないようにみえる。いったい神は何をしているのだろうか。その説明は、神はあなたが考えるのとは全く別の家を建てているということだ。新しい棟を付け、もう一階建て増し、塔を付けて、庭を造る。あなたは自分が上品なコテージに造り替えられていると思っていたが、神は宮殿を造っている。神は、自分がそこに来て住むことを考えているのだ」。³⁶

神は、私たちを救うだけでなく、変容させます。神はありのままの私たちを受け入れますが、そのままにはしないほど私たちを愛されています。私たちが自分を完全に神に捧げ、父なる神に完全に自分を明け渡す時、聖霊は私たちの心を洗い清め、神の子の似姿へと造り替えます。

35. White, *Rethinking the Church*, 61. 5章と、クリスチャンの説明責任と支え続ける恵みの強調も参照せよ。

36 C. S. Lewis, *Mere Christianity* (New York: Touchstone, 1996), 175-76.

私たちは思いと言葉と行いにおいてキリストのようになります。私たちの家は新しい管理の下に置かれます。

「聖性とは、イエス・キリストの支配から離れた部分は人生にはないということだ」³⁷とされます。私たちは自分のハンドルを手放し、イエスに運転させ、指示させます。私たちは言います。「あなたは私を救いました(救い)。今や私は膝をかがめ、あなたをわが主とします(聖潔)」と。私たちは聖なる目的のために取り分けられ、神の完全な愛は私たちに流入し始めます。私たちは心、思い、力のすべてで、神を、そして隣人を自分自身のように愛し始めます。

聖潔の定義

全き聖潔とは何を意味するのかについて、最後に少しコメントします。「全き」とは私たちにおける神の完成された働きを指すのではなく、本当の意味で、完全性を指します。神は継続的に私たちの中で、また私たちにに対して働かれるので、私たちの人生という最高傑作は、私たちの栄化を含む万物の復活の時まで続きます。³⁸私たちは全きもので、その瞬間に私たちは聖潔の恵みによって「完全に完全にされる」のです。私たちの人生はシャローム(shalom、平和)という最高の輝きによって特徴づけられます。シャロームは、神が創造において心に抱いたもの、私たちの人生において形造るものです。シャロームはもちろん平和を意味しますが、全体性、完全性、統一性、そして、私たちの創られた目標(telos)と調和して各部が働くことをも意味します。

既に論じたように、全き聖潔とは、生涯を通じて常に自己中心的な存在(肉)を放棄することと、神の道とみこころに無抵抗に従順に服従

37. 私はデニス・キンローが1991年の神学校でのチャペル説教でこのフレーズを用いたのを初めて耳にしました。それはまた、神の私の人生への支配を神の側からの操作願望としてではなく、親密さへの願いとして理解する私にとっての初めての機会でした。私の考えでは、キンローは2017年に亡くなるまで、20世紀後半と21世紀前半の最良の清め派説教者の一人でした。

38. 「栄化」は死後の信者の状態と万物の最後の復活を指します。「神の恵みを通じて、私たちは究極的に栄化される—キリストが戻られる時にキリストと共によみがえり、その完全な似姿へと変えられ、その栄光を永遠に楽しむ。」Greathouse and Dunning, *An Introduction to Wesleyan Theology*, 54.加えて、ダイアン・レクレールは栄化を「人が罪を拭い去られる」完全な聖化と呼びます。LeClerc, *Discovering Christian Holiness*, 318.

し続けることです。イエスは正しくそのことを言われました。「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい」。³⁹このような十字架中心の人生の結果は、神と隣人への完全な愛において明らかになるキリストの似姿です。

ナザレン教会の信仰箇条第十は聖潔をこのように規定しています：

「私たちは、全き聖潔(きよめ)とは新生の後になされる神のみ業であり、それによって信徒は原罪すなわち墮罪性から自由にされ、神への全き献身の状態に導き入れられ、愛による聖なる服従が全うされることを信じる。

これは聖霊のバプテスマによってなされ、罪から心がきよめられ、聖霊の絶えざる内住により信仰者の生活と奉仕に力が注がれる経験である。全き聖潔(きよめ)は、イエスの血によって備えられ、全き献身の後に信仰によって瞬間的になされるものであり、聖霊はこの恵みの業と状態とに対して証しされる…

私たちは、全き聖潔(きよめ)は恵みのうちに成長しようとする強い願いをもっているものであることを信じる。しかし、この強い願いは意識的に養成されなければならない。キリストに似た品性、人格へと霊的に成長するために必要な条件と過程には細心の注意が払われなければならない。そのような意図的な努力なしにはその者の証しは損なわれ、恵みも無駄になり、ついには失われる結果となる。

恵みの手段、特に教会の交わり、訓練、秘跡に参加することで、信徒は恵みにおいて、また神と隣人への全き愛において成長する」。⁴⁰

39. 全き聖潔が生涯に及ぶ自己否認及び自分の十字架を背負うことを示唆するという考えに言及し、「J.O.マックラカン、初期聖化運動の南部地区のリーダーの一人は、聖化された人生のこの後者の側面を『自己へのより深い死』と呼んだが、それは実際にはクリスチャンの人生を通じて起きるべきものだった。経験から、人生の全てが一つの経験に集約しきれないことを彼は分かっていた。」Dunning, *Pursuing the Divine Image*, Kindle Location 853. For further discussion of this, see William J. Strickland and H. Ray Dunning, *J. O. McClurkan: His Life, His Theology, and Selections from His Writings* (Nashville: Trevecca Press, 1998).

40. Church of the Nazarene, *Manual: 2017-2021*, “X. Christian Holiness and Entire Sanctification” (Kansas City, MO: Nazarene Publishing House, 2017), 31-32.

私たちは聖潔の恵みに関する議論を簡単な問いで終わらせましょう。「どんな目的のためか?なぜ望まれる聖性は必要なのか?キリストに似た人生を送っているという証拠は何か?」

私たちは全き愛に戻ります。全き聖潔は道德性の頂点ではありません。それは与える愛の最高の形です。全き聖潔とは、私たちの内で聖なる愛が完全にされたということです。ウェスレーが、全き聖潔を全き愛と定義したことはよく知られています。それは聖性についての彼の教えの特別な内容です。ミルドレッド・バングス・ウインコープはこの点について、こう主張します。「キリスト者の真理に関するあらゆる面でのウェスレーの議論は、すぐ愛につながる。『神は愛である。』贖いのあらゆる側面は愛の表明である。聖性は愛である。『宗教』の意味は愛である。キリスト者の完全は全き愛である。神から人へのあらゆる一步と、人の一つ一つの神への応答は、愛の一側面である」。⁴¹論点を強調するために、ウインコープはこう加えます。「クリスチャンの聖性が私たちの存在理由だと言うことは、私たちが愛のすべてに専心するということであり、それは実に大きな命令である」。⁴²

略言すれば、愛が物事の核心です。聖なる生活の存在理由で、愛よりも高い理由づけになるものはありません。愛が欠如すれば、どのような全き聖潔の理解も、冷たく、律法主義的、批判的で、聖くはないものです。アガペー(キリストの愛)は、正しい秩序において他のすべての自然な愛を包括します。⁴³アガペーは、すべての他の願いを導き、解釈し、制御します。私たちはアガペーにおいて成長するように励まされているの

41. Mildred Bangs Wynkoop, *A Theology of Love: The Dynamic of Wesleyanism* (Kansas City, MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 1972), 36.

42. Wynkoop, *A Theology of Love*, 36.

43. 愛を表す四つのギリシア語(エロス、ストルゲ、フィリア、そしてアガペ)の啓発される要約として、「愛と交わり」と題するウインコープの短い釈義を強く勧めます。彼女は、アガペー以外は自然な愛で、ほとんど努力を必要としないと論じます。アガペーは愛の異なる面であるだけでなく、それは人が人生を整える質であり、キリストの充満によってのみ可能となります。「クリスチャンの愛と私たちが呼ぶものは、ほかの愛の代用品ではないし、それらの愛への追加物でもなく、キリストを中心とする全人格の質なのだ。歪んだ自己中心性は他のあらゆる関係を損ねるが、それは人間関係を自分の利益のために用いようとするからなのだが(しばしば最も巧妙なやり方で)、その自己中心性には聖霊の内住によって全体性もたらされる。この関係性において、人生の他の全ての関係性が高められ、美しくされ、聖なるものとされる。」Wynkoop, *A Theology of Love*, 38.

で、それが与えられ促進されると理解しています。それは贈り物であり聖霊の現存によって私たちの内で成長します。努力は必要ですが、恵みは提供されます。

私たちは、私たちを求め続ける(先行的)恵みを通じて聖なる愛に引き寄せられます。私たちは救う恵みを通じて聖なる愛に捉えられます。私たちは清められ、聖潔の恵みを通じて聖なる愛へと取り分けられます。聖なる愛が私たちの内に溢れると、私たちは恵みにおいて成長します。こうして、キリストにある命の完全さを経験するようになります。



5

私たちを支える恵み

あなたがたを、つまづかないように守ることができ、傷のない者として、大きな喜びをもって栄光の御前に立たせることのできる方に、すなわち、私たちの救い主である唯一の神に、栄光、尊厳、支配、権威が、私たちの主イエス・キリストを通して、永遠の先にも、今も、また世々限りなくありますように。アーメン。

(ユダ1章24-25節)

すべてのクリスチャンの人生で、何かが分かり始める時があります。時にはそれは一瞬にして起こり、時にはそれは恵みの旅に伴って起きます。私の人生のいくつかの側面はキリストの主権に明け渡されています。(C.S.ルイスのたとえに戻れば)再設計される私の家には、神の働きを寄せ付けない部屋があるのです。

神は、私たちの聖性に容赦なく専心するので、私たちがますますキリストのようにするため、聖霊は探し始めます。「すべてのものは私のものか?あなたのすべての部分は私に属しているか?あなたが隠そうとしていることはあるか?」と。

私たちの最初の答えはこうかもしれません。「あなたは〇〇の他は全部取って構いません。私は私自身の99%をあなたに捧げました。自分のために取って置けるものが何もないわけではないでしょう?それともあなたはすべてを望むというのですか?」¹

弟子の道の究極の目標(telos)を果たすため、辛抱強い愛と揺らぐことのない献身をもって、イエスの霊はささやきます。「はい、あなたのすべてです。100%です。何も残してはいけません」と。

完全に神のものとなることは、神が約束された人生のすべてを分かち合うことです。私たちの自我が神に明け渡されるほど、より大きな平和と喜びが続くのです。オズワルド・チェンバースは、永遠の命は神「からの」贈り物ではなく神「という」贈り物だと信じています。さらには、イエスが復活後にペンテコステの期待の下に弟子たちに約束した霊的な力は、聖霊「からの」贈り物ではなく、その力は聖霊そのものなのです(使徒の働き1章8節)。その結果は、尽きることのない豊かな命の供給で、それは神に自分を明け渡すごとに増えていきます。再び、チェンバースの洞察は啓発的です。「最も弱い聖徒でさえ、彼が『手放す』時に、神の子の神的な力を経験できる。しかし、自分自身のわずかな力に『しがみつく』いかなる努力も、私たちの中のイエスの命を小さくする。私たちは手放し続けるべきで、そしてゆっくりと、確実に、神の偉大なる全き命が私たちを侵食し、あらゆる領域に及ぶ」。²

人の心は、罪と不従順の場所ですが、恵みと聖性の場所でもあります。先行する恵みにおいて、神は私たちの心を求めます。救いの恵みにおいて、神は私たちの心を捉えます。聖潔の恵みにおいて、神は私たちの心を清めます。私たちの元々の性質は、しもべの心から子どもの心へと変わっていきます。私たちは、もはや神に従わなければどうなるだろうという恐れから仕えているのではない自分に気づきます。代わりに、従いたいという願いを与える愛の心が与えられました。しかし、間違え

1. 「このような考えに注意しなさい、『ああ、私の人生のあのことはそんなに重要ではない。』あなたにとってそんなに重要ではないという事実は、神にとってそれが大事だという意味かもしれない。神の子にとって、何も些細なことだと考えるべきではない。私たちの人生のどんなことも神には単なる些細なことではないのだ。」Chambers, *My Utmost for His Highest*, 76-77.

2. Chambers, *My Utmost for His Highest*, 74-75.

てはいけません。恵みの旅を通じてキリストが要求してくるのは、私たちのすべて以外の何物でもありません。全くすべて完全な私たちそのものです。

聖性とは、聖なる目的のために取り分けられ、イエスの霊によって満たされて、私たちの心の有り様、動機、態度がキリストのようになることです。私たちは自らを否定し、「自我」への権利を諦めます。私たちは自らの十字架を背負いますが、それは自分の権利をイエスに移譲することです。ここには驚くべきパラドクスがあります。「自分」への権利を諦めてイエスに移譲する時、命を見出すのです。キリストにおいて自分の命を失うと、それを見出すのです。神から遠ざけておくものはいずれ失われます。神に渡すものは取り去られません。「あなたがたはすでに死んでおり、あなたがたのいのちは、キリストとともに、神のうちに隠されてあるからです」(コロサイ書3章3節)。神に捧げたものは完全です。

私たちが神に自分を捧げることは、聖潔の源ではありません。私たちは自分を聖化(聖潔)できません。私たちは自分を聖なる者にはできません。イエスの霊がそれをするのです。イエスのようになりたいと願うのでは十分ではありません。願いは十分ではなく、模倣はそこそこまでしか成功しません。私たちはイエスの霊を持たねばならず、あるいはパウロが言うように、私たちの内にキリストが形造られなければなりません(ガラテヤ書4章19節)。

多くの点で、パリサイ人はイエスの時代の最も良い人たちでした。彼らは道徳的で、清く、良い人たちでした。にもかかわらず、彼らの良さは行動の改良に根差し、彼らは自分の心を取り扱うことなく、罪の管理体系を通じて聖なる者になろうとしました。彼らは敬虔になろうとし、清い生活を送ろうとしましたが、彼らの自己否認は自己目的化し、彼らの背負う十字架は彼らを愛のない人にしました。人は、内側を変えない限り外側を管理できません。先に述べたように、私たちの心にあるものは何であれ結局は逃げていきます。パリサイ人的なクリスチャン——自律的な努力と肉によって聖なる生活を送ろうとする人々——は、常に完全な愛に欠けることとなります。なぜならイエスのようになりたいと願うだけでは十分ではないからです。イエスの霊が私たちの中になくてはなりません。これが心の聖性の核心です。力を与えられ、強められ、聖なる生活を送るためには、恵みが必要なのです。

ダラス・ウィラードは、聖なる生活には自己本位の試みとしてイエスを真似ようとする試みよりも多くの恵みを必要とすると説明します。「もしあなたが身を焦がす恵みへと入っていききたいのなら、聖なる生活を送るべきである。真の聖徒は、747型機が離陸の際に燃料を使うように恵みを使う。イエスが行い、語ったことを定期的にするような人になるべきだ。罪を犯すのではなく、聖なる生活を送ることでもっと恵みを消費するようになる。なぜなら、あなたがするすべての聖なる行動は神の恵みに支えられるからだ。そしてその支えは完全に、身に余る神からの好意が働いているものだ」。³私たちは、神の支え続ける恵みによって絶え間なく支えられなければならない。それは、私たちをつまずきから守る恵みです(ユダ書1章24節)。

とはいえ、支え続ける恵みは私たちの参与の必要性を否定するものではありません。4章で、恵みとは、私たちが自分自身ではできないことを神がすることだと言いましたが、それは私たちが神との関係において何の貢献もしない「恵みの消費者」になるということではありません。私たちはイエスを模範とする活動、訓練、実践によって人生を整え直すことで、神の能動的な恵みと協働します。私たちがそれらに参与するのは自らの聖潔を勝ち取るためではなく、頑張るだけではできないことを訓練を通じて成し遂げるためです。

分与される義

転嫁される義と分与される義について少し説明したほうがよいでしょう。ダイアン・ルクレールによれば、転嫁される義とは、「イエスの義がクリスチャンの功績とされることで、それによってクリスチャンは義とされるようになる。神は人をキリストの義を通じて見るが、それは神による内側の変容や清めを言っているのではない」のです。他方で、分与される義とは「人の新生の瞬間に与えられる、神の恵み深い贈り物であり、神は私たちを聖とするプロセスを始められる」のです。⁴

3. Willard, *The Great Omission*, 62.

4. LeClerc, *Discovering Christian Holiness*, 312. ジョン・ウェスレーが新生を最初の聖化と呼んだのはこのためです。他者を否定するわけではありませんが、改革派の伝統は転嫁される義を強調する傾向があり、他方でウエスレリアン清め派は分与される義を一義的に強調します。

この2つの違いは、一見思われるほど微妙なものではありません。1つは貸与される義で、いわば適用されるものです。他方は与えられる義で、それは内住します。分与される義は、キリストの弟子が聖性と聖潔と全き愛を求めて努力することを可能にし、そのための力を与える神の贈り物として理解できます。より正確に、ティモシー・テネントはその違いをうまく捉えています。「クリスチャンである私たちは、神が罪人に、キリストの義を着せて(転嫁される)くれることを知っている。神はそれから私たちのすべての良い行いにおいて働き、単に転嫁された義が、本当に私たちに分与されたものなり、増し加わっていくのだ」と。⁵

恵みの楽観主義

分与される義のおかげで、ジョン・ウェスレーは変容の可能性について極めて楽観的になりました。原罪の破壊性に十分に気がついていたウェスレーは、人の性質について楽観的ではありませんでした。しかし、彼は神の恵みが文字通りに人を内側から変容させることができると確信していました。

私は友人のウェスレー・トレーシーがこれを「恵みの過激な楽観主義」と呼ぶのを聞いたことがあります。たとえとして、彼は私にある話をしました。「小さな女の子が教会の裏手へと歩いて来るのを想像してみたまえ。彼女は11か12歳くらいで、服装は汚くがさつ、髪は薄くてモジャモジャで、黴臭く、数日間も風呂に入っていないかのようだ。彼女の状況については少し分かっている。学業ははかばかしくない。クラスでは遅れていて、及第点を取れない。問題は彼女の知性ではなく、おそらくは家庭の問題であることはほぼ確かだ。彼女は血のつながった父親を知らず、母親には同棲中のボーイフレンドが何人もいる。幼児虐待の噂があり、彼女の腕の傷がそれを確証しているかのようだ」。

5. Timothy Tennent, "Living in a Righteousness Orientation: Psalm 26" Seedbed Daily Text, September 1, 2019, <https://www.seedbed.com/living-in-a-righteousness-orientation-psalm-26/>. テネントは加えて言います: 「新しい創造においてのみ、これは完全にされますが、聖化はすべての信者への招きです—聖なる者として取り分けられる—そうして満ち満ちた心と共に、私たちは「数々の集まりの中で」主を褒めたたえることができるのです。」(詩篇26.12)

それからトレーシーは言いました。「行動主義者は幼い少女を見て言うだろう。『彼女は人生に傷ついている。絶え間なく落ち込んでいる。いくらかは救済可能だが、彼女はいつも足を引きずって歩くだろうし、環境が違っていればなれたであろう姿には決してなれない。』これが行動主義者の言うことだ」。しかし、トレーシーは続けます。「恵みの過激な楽観主義を信じる人なら何というだろう?『どんなことが彼女になされたとしても、また自分自身に何をしたとしても、この小さな女の子は福音の希望を持っている。神は彼女のいるところで彼女を受け入れ、彼女がなりたい自分にならせることができる』と言うか、あるいは、ウェスレーならこう言うかもしれない。『私にロンドン中で最も不快ならず者を示してください。そうしたら、私はあなたに、使徒たち自身の恵みすべてを持つ人を示しましょう』と」。

この楽観主義は私たちの罪の状態を深刻に受け取りますが、恵みの力をもっと真剣に受け止めます。それは誰でも、どこでも、何からでも連れ去り、その人を神が望む姿にするのです。⁶神の恵みを変容させ、癒し、全人格を取り戻させるのを妨げるような、痛み、傷、打ち身、罪は何もないのです。

赦しと力

恵みの旅は、全人格の変容です。義は分与されます。聖性は与えられます。それは「頑張る」ことや「自分で何とかする」ことではなく、真の変化であり、力を与えられた生き方となります。言い換えれば、赦しと力のためには神の恵みが必要とされます。私たちは罪の赦しを必要とし、神を讃える人生を送るための力が必要です。どちらか一方だけでは危険な極端に導かれます。もし「神は私たちを赦してください。私たちが不完全な人生を送ろうともあまり気にされない。なぜならどうせすべては恵みで覆われるから」と私たちが言うなら、反律法主義の危険に陥ります。反対に、恵みは罪の赦しのためだけに必要で、恵みを受け取るかどうかは自分次第だと考える時、私たちは律法主義の危険に陥ります。どちらも危険な極論で、恵みの旅の障害になります。パウロは次の言葉で

6. 「ウェスレーが言っただろうが、そのような楽観主義を否定するのは罪の力を恵みの力より大いなるものとする事だ—それはウエスレリアン清め派の神学にとって考えられない選択肢だ。」 LeClerc, *Discovering Christian Holiness*, 27.

その2つの極端について語りました。「そういうわけですから、愛する人たち、いつも従順であったように、私がいるときだけでなく、私のいない今はなおさら、恐れおののいて自分の救いを達成してください。神は、みこころのままに、あなたがたのうちに働いて志を立てさせ、事を行なわせてくださるのです」(ピリピ書2章12-13節)。私たちの霊的成長に責任があるのは誰でしょうか。それは私たちの仕事でしょうか、それとも神の仕事でしょうか。パウロは両方だと言いますが、それは矛盾ではありません。

極端な律法主義を考えてみましょう。律法主義の最も厳格な神学的定義は、規則、規制、特定の行動規範への従順が救いのために必要だと強調され過ぎる考えです。実際のところ、神がイエスの十字架を通じて救いを提供してくれたと私たちは知っていますが、それが私たちの人生において現実化するかどうかは、私たちがたくさん祈り、毎日聖書を読み、ある種の人々や場所を注意深く避けるかどうかにかかっている、と律法主義は教えます。核心部分において、律法主義は神のみができることを私たちに行わせようとします。規則を守ることに専心することの結果は、巨大な罪悪感、恐れ、不満、そして不確かさで、そこにはほとんど恵みも平安も確信もありません。それは恵みのない弟子の道で、極端へと導き、捉えどころのない独善的人間主義と優越感につながります。律法主義者は自分自身に高い期待を持ち、他人にはさらに高い期待を持ちますが、それは魅力がなく、教会から遠ざかっている人をさらに遠ざけます。

律法主義と対照的なのが、反律法主義という真逆の立場です。反律法主義は専門用語で、2つのギリシヤ語に由来します。antiは「反対する」という意味で、nomosは「法律、律法」という意味です。それらが組み合わされて、律法に反するという意味を表します。クリスチャンが恵みのみで救われ、良い行いや自分自身の行動で救われるのではないことは真実ですが(私たちはこのことについて多くを論じてきました)、この真理は私たちを道徳または霊的義務から自由にするものではありません。実質的には、反律法主義者は次のように言います。「恵みが溢れるのなら、もっと罪を犯してもっと恵みを受ければいいではないか。私は恵みで覆われているので、どんな倫理的・道徳的基準にも従う義務はない」と。それが非論理的(また非実際の)に響こうとも、これが一部のク

リスチャンの心の有り様です——「真剣な献身や自己犠牲を私に求めないでください。私は自分や他人の肩から重い霊的重荷を下ろしたのです。それらは古臭い罪や律法主義に導くからです。私は恵みに入ったのです」と。⁷注目すべきことに、ジョン・ウェスレーは律法主義者ではありませんでしたが、反律法主義的な考えは律法主義よりも危険で、反律法主義は最悪の異端だと信じていました。なぜならそれは完全な愛を貶めるからです。聖性なしの愛は許容されますが、愛なしの聖性は不快です。

1751年に、ジョン・ウェスレーは友人に手紙を書きました。それは彼の説教はあまりに律法主義的であるか、あまりに寛容的(反律法主義的)であるかどちらかだという非難に答えるためでした。彼の答えは示唆的でした。「私は律法なしに福音を宣傳伝えることは勧めないし、また同じように福音なしの律法を語ることも勧めない。疑いもなく、どちらも順番に語られるべきだ。同時にか、一度にか」と。ウェスレーは、緊張関係にあるこの2つを「一度に」語ることをこうまとめます。「神はあなたを愛している。それゆえ神を愛し従いなさい。キリストはあなたのために死んだ。それゆえ罪に死になさい。キリストはよみがえった。それゆえ神の似姿によみがえりなさい。キリストはいつまでも生きている。それゆえ栄光の中に神と住まうまで神に生きなさい…これが聖書の道、メソジストの道、真の道である。神が与えたものから私たちは決して逸れない——右にも左にも」。⁸

結局どちらなのでしょう。私たちの救いと霊的成長は神の仕事なのか、私たちの仕事なのか、どちらでしょうか。パウロはそれを明らかにしました。それは「あれかこれか」ではなく「あれもこれも」です。完全な救いは初めから終わりまで神の業です。私たちは探し求められ、救われ、聖とされ、神の恵みによって維持されます。にもかかわらず、私たちは聖霊と協働してあらゆる努力をするようにと何度も何度も勧告されま

7. 律法主義と反律法主義に関してのウェスレー学者クリフ・サンダースとの会話で、サンダースは興味深い点を指摘しました：「五十年前は律法主義が福音派教会にとってのより大きなチャレンジだった。今日では反律法主義の方が当てはまる、特に教会で育ち、愛から聖性を除外しようと望む多くの若者たちの戦いの中で。」

8. John Wesley, "Letter on Preaching Christ," *The Works of the Rev. John Wesley*, Volume 6.

す(ルカ福音書13章24節;ピリピ書2章12-13節;第2テモテ書2章15節;ヘブル書12章14節;第2ペテロ書1章5-7節;3章13-34節)。⁹

恵みは、赦しと力の両方のためです。こうして、支え続ける恵みが神と人間のパートナーシップに貢献するのです。神が始め、私たちは応答します。神は呼び、私たちは聞きます。神は導き、私たちは従います。神は力を与え、私たちは働きます。「初めに神が働き、それゆえ私たちは働ける」とウエスレーは言いました。「第2に、神が働き、それゆえ私たちは働かねばならない」のです。¹⁰

自由意志の必要性

この章の主題は支える恵みですが、それは神が私たちを召してさせることを可能にし、また聖なる生活を送ることを可能にする恵みです。新約聖書のユダの手紙は、祝祷でこの恵みに言及します——神の力が私たちをつまづきから守り、終わりの日に傷のない者として主の前に立つことができるようにと。このような宣言は、私たちの弟子の道に関する非常に重要な真理を伝えます。私たちは恵みから落ちることもありますが、支える神の恵みはそうならないようにしてくれます。

何人かの善意の聖性の説教者たちが、人が一度聖化(聖潔)されれば、2度と罪を犯すことはないと教えた時代がありました。この宣言は、真剣なクリスチャンたちの間に大きな混乱と狼狽をもたらしました。彼らはキリストと共に歩むことに熱心でしたが、つまづくこともあり得るだけでなく、しかも頻繁に起きると発見したからです——特に、全き聖潔がこの問題を解決してくれるというメッセージを聞いた後に。話はそう単純ではありません。理由は、私たちの自由意志は決してこの難しい問題から除外されないからです。自由意志は信者の人生に永遠に残りますが、それは関係性の必要に基づくものだからです。愛は関係性です。そして選択はどんな健全な関係にも必要な要素です。事実、神の似姿

9. 2章の「神が私たちの中でしておられることを世界の中で実践する」ことの強調を参照。

10. John Wesley, "Sermon 85: On Working Out Our Own Salvation," 3.2, [http:// wesley.nnu.edu/john-wesley/the-sermons-of-john-wesley-1872-edition/sermon-85-onworking-out-our-own-salvation](http://wesley.nnu.edu/john-wesley/the-sermons-of-john-wesley-1872-edition/sermon-85-onworking-out-our-own-salvation).

が私たちに刻印されており、キリストの完全さにおいて回復されていることは、聖なる愛の関係を築く能力なのです。

創世記の創造の記述は啓発的です。主権者たる神は、宇宙を存在させるために、ただ次の言葉を言いさえすればよかったのです——「…あれ」と。神の規則は完全で、その支配は比類ないものです。それでも、驚くべきことに、人の自由は創造の基本構造の中に織り込まれています。神が創造し維持する比類ない力を考えれば、この自由は予期せぬものです。なぜなら、これから学ぶように、人間独自の選択が許されているだけでなく、それは神の良き世界を助けたり傷つけたりする可能性を秘めているからです。全能の神は、大きなリスクをもって、私たちの選択に重要性を与えました。

最初の樂園で、主なる神は人にこう命じられました。「善悪の知識の木からは取って食べてはならない。それを取って食べる時、あなたは必ず死ぬ」(創世記2章17節)。戒めの中に、選択する力が与えられました。最初は、このことで神は不公平だと思われかもしれません。人にしてはいけないことを言えば、その瞬間それ以外のことは考えられなくなることを知っていながら、神はなぜ命令するのでしょうか。それは誘惑ではないのでしょうか。いいえ、神は彼らを誘惑したわけではありません。彼らは選択を与えられたのです。この2つは同じではありません。命令には、自由意志(または、自由にされた意志)の認識があります。¹¹自由にされた意志は、愛が関係性の中で存在するのに必要です。

もし私の妻が私を愛するように強制され、この件に関して選択権がなければ、私たちはどうにか関係が続けられますが、それは結婚ではないでしょう。なぜか。なぜなら、もし私がすべて支配権を握っていたら、それは愛ではないからです。彼女は自動機械、すなわち自主的に行動できないロボットになってしまうでしょう。健全な結婚を保つ唯一の道は、

11. ミルドレッド・バングス・ウインコープは、ジョン・ウェスレーの主な強調は自由意志ではなく自由な恵みにあったことを思い起こさせます。したがって、ウェスレーの伝統にいる人たちはより正確に「自由意志」について語るべきでしょう、それは聖霊によって強められ自由にされた意志で、イエス・キリストへの信仰を積極的に告白することを可能にします。初めから終わりまで、救いは神のもので、恵みのみによります。Wynkoop, *Foundations of Wesleyan-Arminian Theology*, 69.

私たち両方が愛するという選択を与えられることです。ここに愛の潜在的なリスクがあります。彼女は私を愛さないことも選べるのです。

神が人を造った時、神は命と善に満ちた美しい園に彼らを置きました。それは純粋な恵みで、神によって始められ備えられたもので、彼らの側は何の貢献もしませんでした。しかし神は、彼らをみこころに従わされるだけのロボットにはしませんでした。彼らは善悪を選択できました。彼らは神を愛するか愛さないか選択できました。神はこう言われたかのようです。「私は神だから、ただこの1つのことをしなさい。あなたの従順は選択である。私はこの関係を支配ではなく愛に基づくものになりたい」と。神が私たちに自由意志を与えたのは私たちを誘惑したかったからではなく、神に立ち帰ることを選択してほしかったからです。そうすることによってしか、愛に根差す意志的な関係にはなり得ないのです。

セーレン・キルケゴールは、明け渡された意志は清くされた心のしるしだと信じた——「心の清さは、1つのことを意志すること」だと。清い心の反対は二心で、意志に反映されます。完全に聖潔された人が再び罪を犯しうるかという問いへの答えは、然りです。恵みから落ちることはあります。なぜなら、人は常に神か目の前の誘惑かを自由に選べるからです。愛のために、選択は常に私たちがすることになります。しかし、恵みによって支えられる人生には大きな違いがあります。今や私たちには、罪を犯さないで済むという力があります。支える恵みを通じ、私たちは神に対して「はい」、罪に対して「いいえ」と言うことができます。私たちの信仰は神の力によって守られ、死者の中からのイエス・キリストの復活による生ける希望によって保護されます。

率直な告白の中で、パウロは、御霊が来る前は、罪は奴隷に対する監督者のように強くその人の人生を支配すると認めました。「私は、自分でしたいと思う善を行わないで、かえって、したくない悪を行っています」(ローマ書7章19節)。彼はしたくはないけれど抵抗できないという悪循環に陥り、何かをしたいけれどそれを実行する力がないのです。「私は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、私を救い出してくれるのでしょうか」(同7章24節)。今や彼は聖霊の力の下にあり、神に対して「はい」、誘惑に対して「いいえ」と言うことができます。「私たちの主イエス・キリストのゆえに、ただ神に感謝します…なぜなら、キリスト・イエスにある、いのちの御霊の原理が、罪と死の原理から、あ

なたを解放したからです」(同7章25節; 8章2節)。聖霊から離れては、私たち人の意志は弱く、従う力がありません。聖霊と共に、私たちには従う力が与えられます。聖化(聖潔)された人が2度と罪を犯さなくなるのではなく、今や彼らには罪を犯さなくて済む力があるのです。違いは、支える恵みが私たちをつまずきから守るということです。

忠実さは信仰と完全さに基づきます。ウェスレーが急いで加えたように、聖霊は私たちの意志を強め、「私たちの気質、言葉、行動、内外の聖性に関するあらゆる良い願い」を生み出します。¹²

人格の変容としての支える恵み

弟子の道についての極めて有益な包括的な書、『信じた後に』において、N・T・ライトはクリスチャンの性質が個人と教会においてどのように形成されるのかを説明します。彼はそれを、恵みにおける長いけれども着実な成長と呼び、それは霊的な実践とその人の人生に形成される習慣の結果として来るもので、それは彼らをますますイエス・キリストの似姿へと変容させます。古代の記者たちはそうした人格形成を「美德」と呼びました。

ライトは、「サリー」ことチェズレイ・サレンバーガーの実話から本を始めます。それは2009年の1月15日、木曜の午後のこと、いつものニューヨーク市日と変わらない日でした。商業用ジェット飛行機が午後3時26分に離陸し、シャーロット市を目指していました。サリーは機長でした。彼は、ルーティーンのチェックをすべて済ませ、すべてが通常通りに見えました——離陸から2分後、機体がガチョウの群れにぶつかるまでは。エンジンはひどく傷んで力を失いました。飛行機は北を目指してブロンクス上空を超えていましたが、それは最も人口過密なエリアでした。サリーと他のパイロットは大きな決断を速く下さなければなりません。150人以上の乗客と、地上の数千もの人々の命が懸かっていたのです。

最も近くてより小さい空港は遠すぎ、ニュー・ジャージーの高速道路に着陸するのは大惨事となったでしょう。彼らに残されたのは唯一の別の選択肢——ハドソン川に着陸することでした。着地までの3分、サリー

12. Wesley, "Sermon 85: On Working Out Our Own Salvation," III.2.

と仲間のパイロットは墜落を避けるためにいくつか重要なことをする必要がありました。(ライトは、9つの異なる技術的課題に言及します。)驚くべきことに、彼らはそれらを行いました。彼らは機体をハドソン川に着陸させたのです。全員が安全に降りて、機長のサリーは自分が降りる前に何度も通路を歩いて全員が避難したことを確かめました。¹³

多くの人がこれを奇跡と言い、実際ある意味ではまさにそうでした。しかしどこが奇跡なのでしょう。奇跡は多くの異なる形で来るからです。それは神の超自然的な保護の手による奇跡でしょうか。その可能性はあります。しかし、別の見方もできます。おそらく奇跡は、巨大なプレッシャーの中でこうした技術的な速度の問題に対応することを可能にしたサリーの美德にありました。このように「美德」という言葉を使うのがおかしければ、それは美德が単に「良い」とか「道徳的」という意味ではないからです。ライトはこの言葉の厳密な意味を、「ある人が、努力と集中が要求される1000の小さな選択をし、良くて正しいけれども『自然』ではない行動をしてきたところ、1001回目に、本当に重要な時に、いわば『自動的』に求められることをすること」だと論じています。¹⁴

言い換えれば、何かが「単に起きた」ように見える時、私たちはそれが「単に起きた」のではないことに気づき始めます。ライトが指摘するように、私たちの誰かがあの日に飛行機を操縦していて、自然にできることだけをしたなら、ビルの角に追突していたことでしょう。美德、人格形成——または、私たちには弟子の道——それは恵みにおいて成長し、ますますイエスのようになることです。それは自然に起きることではないのです。それは、賢明で思慮深い選択が第2の天性になった時に起きることでもあります。サリーは商業用ジェット機を飛ばせる能力と共に生まれて来たわけではありませんし、瞬時にあらわにされた性格的特徴——勇気、統率力、素早い判断、自分を危険にさらしても他人の安全に気を配ることなど——を持って生れて来たのでもありません。これらは獲得された技能や特徴で、特別な実践と反復が求められます。ぎこちなかったことが自然に感じられ始め、それから自然に感じられることが

13. Wright, *After You Believe: Why Christian Character Matters* (New York: HarperCollins, 2010), 18–20.

14. Wright, *After You Believe*, 20.

心と体に刻み込まれ、考えなくてもそう反応するようになります。これが第2の天性です。

パイロットの読者を怒らせたくはないですが、もし私が急降下する飛行機の乗客だったなら、自然に行動してしまうような新米パイロットに操縦してほしくありません。もし彼らがエンジン・マニュアルを取り出し、インターネットで調べ、これまで直面したことのない危険にどう対処すべきか、飛行士訓練学校で教わったことを思い出さなければならないとしたら、結果は大きく変わっていたでしょう。知識だけでは十分ではありません。根性や決断だけでもです。いいえ、ライトが強く主張するのは、危機の瞬間に必要なとされるのは第2の天性になった実践済みの美德だということです。つまり、人格の変容、「特別な力で形成されたもの、すなわち、どのように機体を操縦すべきか知っているという『美德』」です。¹⁵付け加えると、単なる操縦ではなく、その特定の機体——サリーが細部まで瞬時に分かるように訓練されてきた機体——の知識です。

「第2の天性」という考えは、私の関心を引きます——特に弟子の道と、聖性と、恵みの旅に関係する時は。勇氣、忍耐、自制、知恵、良い判断、そして我慢のような性質が自然に備わるものでないことに、異議を唱える人はほとんどいないでしょう。それらは時には苦痛に満ちた困難な状況の中で、しかし常に学習された行動というフィルターを通じて学習され、私たちの人格に刷り込まれるものです。新約聖書、そしてライトによる定義に従えば、確立された性格とは「その人全体の思考あるいは行動パターンで、どこでその人に会っても、完全に同じ人だと分かる」ようなものです。¹⁶

確立された性格の反対は、もちろん、表面上の性格です。多くの人々は、最初は自分を正直で、親切で、前向きなように見せることができますが、彼らを知れば知るほど、彼らの本当の姿が明らかになります。そうした人々は単にうわべを装っているだけです。「危機に直面したり、ガードが下がると、彼らは隣の人のように不正直で、不満の多い、我慢できない人になる」のです。¹⁷何が問題なのでしょう。彼らは自然なことを

15. Wright, *After You Believe*, 21.

16. Wright, *After You Believe*, 27.

17. Wright, *After You Believe*, 27.

しているだけなのです。彼らは自分たちの態度が他の姿であるべきだと意識していますが、突然の変化や落胆に対応できるような新しい第2の天性を獲得していないのです。人の人格は危機において形成されるわけではありません。それは危機において明らかにされます。私たちは考える時間がない時、自分が本当は誰なのかが常に暴露されます。

H・レイ・ダニングは、ウェスレーの18世紀のいくつかの用語が、現代のそれとどう違うのかを示しました。例えば、自由意志の議論に関連しますが、「自由」は彼が自由選択の用語として用いたもので、一方「意志」は彼が「愛着」と呼ぶもの、または人の行動を動機づける性向について用いた言葉でした。愛着は行き来する感情を指すものではありませんでしたし、一時的な行動の変更のために変わるものでもありません。それらはより深いレベルでなぜ人がある選択や行動を選んだのかに関することでした。愛着と深く関係しているのが、ウェスレーの「気性」という用語でした。18世紀の気性とは、人がいら立っていると、怒りやすいという意味ではありませんでした。むしろ、今日の「気質」の用法により近い意味でした。ウェスレーは、気性を「持続する、または習慣的な人の性向」という意味で用いました。¹⁸あるいはより正確には、人の性格の持続的側面に集中的に現れ、また発展していくようなこれらの愛着は、恵み的手段によって耕されますが、それはもはや瞬間的な振舞ではなく、長く安定した美德となり、正しい意図でなされた時には、「聖なる気性」となるのです。

「聖なる気性」は、弟子の道についてのウェスレーの教えに頻繁に用いられる用語で、特にガラテヤ書の御霊の実についての考察において見られます。「しかし、御霊の実は、愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制です」(ガラテヤ書5章22-23節)。このテキストのいくつかの点は注目に値します。1つには、ウェスレーは実が複数ではなく、単数であることに素早く言及しました。もしこれが複数形なら、人はある1つの「実」に他の実以上に注目したくなるでしょう——誠実は注目に値するが、寛容は無視してよいというように。統合された全体としての実は、聖霊が働いていることの証拠です。それらは独立した性質ではありません。私たちが成長するにつれて、9つすべての実が共に働いて、神

18. Maddox, *Responsible Grace*, 69.

に捧げられた人生を聖霊が支配するとどうなるのかを示す、説得力ある絵を描くことになります。N・T・ライトは、パウロが「特化を思い描いていなかった」と指摘します。¹⁹ 桃の実によって桃の木が特定できるように、クリスチャンは聖霊の実によって識別されます。聖なる気性がその人の人生の証拠になります。当然ながら、ウェスレーは愛が聖なる気性のリストの最初に来ることを急いで付け加えます、なぜなら9つすべてが愛の表明だからです。にもかかわらず、恵みの旅に伴って、キリストのすべての性質が私たちの人生において現れます。

恵みの旅にとって理解すべき最も重要なことは、これらの聖なる気性が直ちに経験されるのではないことでしょう。むしろ、ランディー・マドックスが説明するように、「神の再生させる(救いの)恵みは信者の内にこうした美德の『種』を目覚めさせる。これらの種は、私たちが『恵みにおいて成長する』につれて強められ形を成す。自由を考えると、この成長は責任ある協働を含む。なぜなら私たちは神の恵み深い与力を無視したり抑えたりもできるから」です。²⁰ マドックスの説明から明らかことはあまりにも多くあります。しかし、主要な考えを見逃してはいけません。美德は増えるように養われるべきです。

神の恵みによって、私たちは一瞬の内に救われ、聖化(聖潔)され、キリストの似姿への旅を始められます。つまり、義の実は植えられたのです。恵みの驚くような作用において、私たちは罪の人生と利己主義から離れる自由を与えられ、神を心と霊と力と思いを尽くして愛せるようになります。にもかかわらず、3つの永続する美德である信仰、希望、愛(第1コリント書13章13節)と、御霊に満たされた人生から生まれる九重の実が、どちらも与えられ成長させられます。御霊の実は直ちには現れませんし、ライトが正しく言うように、「自動的に成長」することもありません。それらは間違いなく、実が生まれ出て来ることへの最初の約束の指標です。「多くの新しいクリスチャンは、特に突然の回心が『肉の働き』に満ちたライフスタイルからの劇的な転向を意味する時、愛し、赦し、親切になり、清くなりたいという願いが溢れ出て来るという驚きを報告する。

19. Wright, *After You Believe*, 195.

20. Randy Maddox, "Reconnecting the Means to the End: A Wesleyan Prescription for the Holiness Movement," *Wesleyan Theological Journal*, vol. 33, No. 2 (Fall 1998), 41.

これらすべてはどこから来るのか、と彼らは尋ねる。これは素晴らしいことで、御霊が働いている確かなしるし」なのです。²¹

これらの驚くべき「愛着」の変化は恵みの純粋な贈り物に他なりません。しかし、新しいクリスチャンは受け身になり得ません。彼らは自分の中で神が行っていることを成し遂げなければなりません。これらの「愛着」の変化を可能にする同じ恵みが、今や「聖なる気性」へと育てられなければならず、それらは新しい習慣と獲得された実践によって涵養されます。再び、ライトは弟子の道に関する鋭い想像力でもって正確にポイントを突きます。「これらの[新しい願望]は花びらだ。実を結ぶために庭師になることを学ぶ必要がある。どうやって世話をして刈り込み、畑に水を引き、鳥やリスを遠ざけるのかを学ばねばならない。枯れ葉やカビに気を付けて、木の養分を奪うツタや他の寄生虫を除去し、若い幹が強風にも立っていられるようにしなければならない。それから実が現れる」と。²²

花びらは確かに「あなた方の中におられるキリスト、栄光の望み」(コロサイ書1章27節)のしるしですが、実際の成熟した実、キリストのような人格を得るには、私たちは庭師になるべきです。種は実を結び始めるに違いありません。明け渡された「愛着」は聖なる気性、新しい性向を生み出し、それはキリストのような考え方、行動を生じさせ、第2の天性として機能し始めます。²³「あなたがたが多くの実を結び、わたしの弟子となることによって、わたしの父は栄光をお受けになるのです」(ヨハネ福音書15章8節)。花びらは実になります。種は美德になります。神のエネルギーを与える力は支える恵みになります。

悪徳と美德

パウロはコリントのクリスチャンに勧告します。「あなたがたは、信仰に立っているかどうか、自分自身をためし、また吟味しなさい。それとも、

21. Wright, *After You Believe*, 195–196.

22. Wright, *After You Believe*, 196.

23. 「聖なる気性から聖なる行動が『流れ出る』というウェスレーの言語は、習慣化された愛情は人間の行動に『自由』をもたらすという感覚を彼が評価していたことを示唆する—弟子訓練から来る自由だ(例として、バッハのコンチェルトを演奏する自由)。」 Maddox, *Responsible Grace*, 69.

あなたがたのうちにはイエス・キリストがおられることを、自分で認めないのですか」(第2コリント書13章5節)。彼のいつもの鋭敏なスタイルで、ユージーン・ピーターソンの言い換えは適切です。「信仰を持って生きているかどうか自分を反省し、自分を吟味しなさい。すべてを当たり前だと思ってふらふらしてはなりません。自分自身を定期的に診断しなさい。イエス・キリストがあなたがたの内におられるという、単なる噂ではない、直接の証拠が必要です。試しなさい。試して失敗したら、何とかしなさい」(同5-9節)。

心臓発作や脳卒中に苦しむくらいなら、常に定期的な健康チェックをすることです。十分に早い時期に発見された問題はしばしば対処できます。同様に、高価な機械は、定期的にメンテナンスすることで一般的に破滅的な失敗を防げます。聖書の歴史を通じて、40日間というのは準備、清め、霊的資産を得る時間と認識されています。²⁴ホーリネスの伝統のリバイバルやキャンプ集会の目的は、組織と個人的な点検のためだと主張できるでしょう。パウロがコリント人たちに言ったように、霊的成長は霊的健康を要求します。パウロの勧告の精神における、ウェスレーの主張とは、小さな説明責任グループ(彼は「クラス・ミーティング」と呼びました)は霊的健康診断を行うためのものだということでした。

霊的心臓病の警告サインは何でしょうか。6世紀の教会による分類では、警告サインは「死に至る罪」や「死に至る悪徳」と認定されました。高コレステロールが心臓病の警告であり、点滅光が電球が落ちていることのサインであるように、これらのサインは私たちの弟子の道での不健康な傾向を示すもので、それらが対処されない限り、霊的死に至りかねません。悪徳についての教会の歴史的な理解は一般に「七つの大罪」と呼ばれますが、より包括的で7つ以上を含みます。

高慢:自分を人生の中心また主目的とすることで自らを神の位置に置くこと。自分が被造物であり、神に頼る存在であることの認識の拒否。

24. キリスト教カレンダーにおけるレントの季節は四十日間の自己吟味という考えに基づきます。

不敬: 神の礼拝の意図的な無視、または投げやりな参加で満足すること。聖なるものへのあからさまな冷笑や、個人的利益のためにキリスト教を利用すること。

感傷主義: 個人的聖性への努力なしに、敬虔な感情や美しい儀式に満足すること。自らの十字架を背負うことや自己犠牲への無関心。犠牲的献身よりも感情的な靈性により関心を向けること。

不信: 神の知恵と愛を認識することへの拒否。不当な恐れ、心配、入念さ、完璧主義。スピリチュアリズムによって自己の人生を支配しようとする試み、不当な小心、または臆病。

不従順: 知られている神のみこころの拒否。聖書に啓示されている神の性質を学ぶことの拒否。無責任、裏切り、そして他人に関する不必要な失望。法的または道義的契約を破ること。

悔悟しないこと: 自分の罪を探ったり向き合うことをせず、または神の前に告白することの拒否。自分の罪が取るに足らず、自然で不可避免だとして自己正当化すること。隣人に謝罪したり和解することの拒否、または自分を赦そうとしないこと。

虚栄: 自分の人生への神や他人の貢献を認めないこと。誇り、誇大、これ見よがしの態度。「物」への不当な関心。

傲慢: 尊大で攻撃的であること。意固地で強情なこと。

憤懣: 才能、能力、または神や他人が私たちの幸せのために提供する機会の拒否。神と他人への反乱と憎しみ。冷笑主義。

妬み: 神の創造の秩序における自身の地位への不満。嫉妬、恨み、他者や他の「物」への侮蔑の兆候。

強欲: 他の被造物の保全を尊ぶことの拒否、自分に役立つことが証明された物質を集めることに現れる。他者を個人的利益のために利用すること。他人の犠牲において地位や権力を追及すること。

貪欲: 自然資源や個人資産の浪費。法外さや身の丈に合わない生活。過度の野心または他人の支配や自分の「物」への過度な保護の兆候。吝嗇、強欲。

大食い: 飲食への自然な嗜好の濫用。楽しみや慰めの過度の追求。放縦や自制の欠如の兆候。

色欲：性の濫用、不貞、露出、上品ぶること、残忍さを含む。結婚が神の定めた秩序ある性的関係であると認めないこと。

怠惰：成長、奉仕、犠牲の機会に応えることの拒否。霊的、精神的、または肉体的義務への怠慢を含む。家族を顧みないこと。不正や世界の傷ついた人たちへの無関心。貧困者、孤独者、人気のない人の無視。

警告サインは微妙でも、魂にとって有害なものとなり得ます。肉体的に健康でありたい時、私たちはある種のライフスタイルを変えて食事を新しい欲求に合うものにします。時にはからだ自身が生み出せないものを補ったり埋め合わせたりするために薬が必要になります。もし庭がより良い実を結んでほしいなら、肥料を加えたり、時には食物の不健全な部分を取り除きます。私たちのからだも庭も、私たちがあらゆる問題に手っ取り早い修理を施すのを避ける時に、より良い結果になる、というのは本当です。定期的で継続的なメンテナンスが望まれます。確かに、不健康なパターンはより良いパターンに置き換えられない限り、簡単には取り除けません。現在の悪いものより強い、良い代わりが必要です。中毒からの回復途上にあるどんな人も、依存に取り代わるものが必要だと言うでしょう。より低い、罪深い情念に取って代わる、より高い、霊的な情熱がなければなりません。同様に、恵みの旅を促進する定期的なメンテナンスプログラムが必要です。私たちの弟子の道を最高水準に保つような定期的で、組織的な方法です。

死に至る悪徳に代わる善とは何でしょうか。支える恵みのメンテナンス計画は何でしょうか。新約聖書は置き代わる善を聖霊の実だとしています。これらの命を与える美德は、肉という、より低い本能に取って代わります。この定期的で組織的なメンテナンス計画は霊的訓練と呼ばれます。プロの競技者はトラックを回り、ストレッチ体操をし、ウェイトリフティングをします。楽しみのためではなく、飽きたからでもなく、ゴールを達成しようと決意したからです。霊的なチェックは、大きなまたは侵略的手術である必要はありません。置き代わる善の薬は聖霊の実です。神の活動への受容性を高める健康維持計画は霊的訓練です。それらは支える恵みの不可欠の要素です。

恵みの手段としての訓練

ヘブル書の記者は霊的訓練の重要性を認識しています。「すべての懲らしめは、そのときは喜ばしいものではなく、かえって悲しく思われるものですが、後になると、これによって訓練された人々に平安な義の実を結ばせます」(12章11節)。訓練は、悪事に対する罰として見れば、否定的な意味合いを持ち得ます。しかし、何かを守ったり、何かをより強くするための訓練があることを、ヘブル書の記者は認識しています。このような訓練の側面にヘブル書は言及したのです。「訓練と違って耐え忍びなさい。神はあなたがたを子として扱っておられるのです。父が懲らしめることをしない子がいるでしょうか。もしあなたがたが、だれでも受ける懲らしめを受けていないとすれば、私生子であって、ほんとうの子ではないのです」(12章7-8節)。

2つの注記があります。(1)親の訓練から益を受けない子を、ヘブル書の記者は想像できません。(2)記者は、聖なる愛の形として訓練を思い描いています。訓練は、子どもを愛することに含まれます。子どもに深夜のピザを禁じること、門限を設けること、ネットフリックスで無制限に何でも見ることを禁じるのは、罰ではありません。賢い親はこれが罰でないのを知っています。これは彼らの未来への備えです。子どもには不公平に、残酷にすら感じられるかもしれませんが、愛する親が彼らを守るために防壁を設けて、万全で健全な大人に成長するのを助けてくれたのを感謝する日が来るでしょう。同じように、神は私たちを聖性に向けて訓練します。その時には楽しく思えなくても、それは義の人生の平和の実のための種を植えることであり、私たちはそこで鍛えられなければならないのです。この点間違えないでください。

E・スタンレー・ジョーンズは賢明にも言いました——「訓練では救いを得られない。それは神の贈り物である。しかし訓練なしにはそれを保持できない」と。²⁵人格形成について、アウグスティヌスは美德を「私たちの性質と調和する良い習慣」と定義したとみなされています。さらに、ジョーンズは、イエスの単純な習慣を神への完全な依存と自己訓練

25 E. Stanley Jones, *Conversion* (Nashville: Abingdon Press, 1991), quoted in Richard J. Foster and James Bryan Smith, eds., *Devotional Classics: Selected Readings for Individuals and Groups* (Englewood, CO: Renovaré, 1990), 281.

の例として例に出しています。「イエスは3つのことを習慣としていた。(1)『習慣として立ち上がって読んだ』——習慣として神のみことばを読んだ。(2)『習慣として山に出て行って祈った』——習慣として祈った。(3)『習慣として再び彼らに教えた』——イエスは、自分が持ち、また見出したものを習慣として他の人に渡した。これらの単純な習慣はイエスの人生の根源的習慣だった」。²⁶聖なる習慣は聖なる訓練を形成します。聖なる気性というウェスレーの考えに戻れば、彼は、それが「恵みの手段」と呼ぶ習慣的实践——靈的訓練としても知られる——を通じ、教会の生活に参加する中で、クリスチャンの中に形成されると信じました。恵みの手段は、神の変容させる恵みの管でした。これらの活動は、恵みの旅において私たちが神の活動へと向かわせます。

ウェスレーにとって、これらの手段は彼が敬虔の行いとあわれみの行いと呼んだことを通じて伝えられます。敬虔の行いは主としてキリストとの個人的関係を深めるために私たちがすべきことです。あわれみの行いは、神の働きと世界での宣教に私たちが関与すべきことに関係します。敬虔の行いとあわれみの行いの両方には、個人的要素(一人でできること)と共同体的要素(他人の助けによってなすべきこと)があります。

個人の敬虔の行いには聖書の瞑想、祈り、断食、他の人に信仰を分かち合う(福音伝道)、そして私たちの資源を惜しみなく与えることが含まれます。共同体の敬虔の行いには礼拝、聖餐式と洗礼への参加、互いに説明責任を持つこと(「クリスチャンの会議開催」として知られます)、聖書研究、宣教が含まれます。また言いますが、私たちがこれらの宗教イベントをするのは、単にクリスチャンだからではなく、それらが「あなたの愛を改革し、保持する霊が注がれた実践だから…反形成的実践、空腹を形成する儀式と愛を形成する実践」だからであり、これらの実践を通じて私たちはキリストを着ることを学ぶからです (コロサイ書3章12-16節を参照)。²⁷

26 Jones, Conversion, quoted in Foster and Smith, *Devotional Classics*, 282.

27. James K. A. Smith, *You Are What You Love: The Spiritual Power of Habit* (Grand Rapids: Brazos Press, 2016), 68–69.

恵みの手段としての秘跡

聖餐の重要性についてのさらなる詳細は恵みの旅に役立ちます。「秘跡」という言葉の語源のラテン語は「神聖にする、聖別する」あるいは「聖なるものにする」という意味で、それはギリシヤ語の「神秘」という言葉が語源となっています。それを並べると、秘跡は「神聖なる神秘」です。ジョン・ウェスレーは、秘跡の定義を聖公会祈祷書のカテキズムから借用しましたが(それはアウグスティヌスの簡潔な定義を用いています)、より明確にするために小さな修正を施しました——「内側の恵みの外側のしるし、それによって同じものを受ける手段」と。²⁸「神聖なる神秘」と手段という考えを組み合わせ、N・T・ライトは秘跡を「天国の命が地上の命と神秘的に交わる機会」と描写します。²⁹いくつかのクリスチャンの伝統は、他より多くの秘跡を守ります。プロテスタントは主に2つを提唱します。洗礼と聖餐(主の晩餐、聖餐の交わりとも呼ばれる)です。³⁰

ジョン・ウェスレーは「すべての聖礼典(霊的訓練)への注意深い参加」を強く勧めましたが、特に聖餐式がそうです。³¹彼はそれを、恵みが私たちに伝えられる「偉大な管」と呼び、聖餐に加わることを救いの達成する第一歩とまで言いました。³²このようなダイナミックな視点は、聖餐がキリストの死の象徴的な記念以上のもので、聖霊によって、聖餐に与る時キリストの現臨が経験されるという彼の信仰に根差していました。³³これがウェスレーを2つの重要な結論に導きました。第1に、現在の恵みは力を与えられたクリスチャンの生き方に及ぶので、聖餐はでき

28. Rob L. Staples, *Outward Sign and Inward Grace: The Place of Sacraments in Wesleyan Spirituality* (Kansas City, MO: Beacon Hill Press of Kansas City, 1991),

21. 著者による強調。

29. Wright, *After You Believe*, 223.

30. 二つの秘跡の理由付けは、イエス・キリストによって制定されたもののみを実践することへの選好です(「主イエス・キリストの秘跡」としても知られます)。

31. Wesley, *A Plain Account of Christian Perfection*, Annotated, 45.

32. Maddox, *Responsible Grace*, 202.

33. 「イエスが『覚えなさい』と言われたとき、ギリシヤ語はアナムネシス *anamnesis* である。それは歴史的回顧以上のものです。それは文字通りに「再び起こる」ような仕方でも過去から現代へ出来事を招き入れる聖霊によって靈感された記憶を指す。」J. D. Walt, “Wonder Bread,” *Seedbed Daily Text*, April 24, 2020, <https://www.seedbed.com/wilderness-wonder-bread/>.

る限り多く受けるべきです。第2に、聖餐での聖霊の現臨は神から得られる、救いの恵み、聖潔の恵み、支える恵みと等しいものなので、それは「回心の聖礼典」³⁴として、悔い改めた心の人は救われることができ、また聖性を促進する手段として考えられます。聖餐をこのように重要視する見解ゆえに、ナザレン派の神学者ロブ・ステイブルズは、聖餐を「聖潔の秘跡」と呼びました。³⁵

洗礼は、単なる儀式または公的証以上のものです。それはキリストと共に死んでよみがえることを意味します。「私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、いのちにあって新しい歩みをするためです」(ローマ書6章4節)。人は神の国に流れ着くではありません。最終的には、罪と自分に対して死に、新しい命によみがえることが必要です。³⁶洗礼がその瞬間です。「すべてのクリスチャンの命が十字架と結ばれ、十字架を分かち合い、十字架を背負ってイエスに従うことを、洗礼は明らかにする」のです。³⁷ウェスレーは、洗礼を恵みの手段の公式リストには一切含めませんでした。それは彼が洗礼を重要視しなかったからではなく、信仰共同体へ迎え入れる役割のため、また信者の一生の一度きりの出来事だからです。ウェスレーにとって、洗礼は聖なる生活の始まりを意味するものでしたが、他の恵みの手段は聖性の継続的追及のために繰り返される必要があるものでした。³⁸ウェスレーは英国の改革者たちと洗礼の見方の多くを共有していましたが、2つの主な点で異なっていました。マドックスによれば、ウェスレーは、私たちの「法的な赦し(咎と赦しの必要性)」を与えること以上に、「恵みによって力づけられる人生の変容」を重

34. 「回心の聖礼典」はジョン・ウェスレーが個人的に用いたフレーズです。Staples, *Outward Sign and Inward Grace*, 252. 彼自身の母の証言から、彼女は聖餐式に参加した時に信仰の完全な確証が与えられました、そして多くのほかのこのような証言から、ウェスレーは聖餐式の瞬間が「キリストのただ一度だけの犠牲をダイナミックに映し出し、救いの力をもたらす」のだと確信するようになりました。Maddox, *Responsible Grace*, 203.

35. See Staples, *Outward Sign and Inward Grace*, 201-249.

36. Wright, *After You Believe*, 281.

37. Wright, *After You Believe*, 281.

38. Staples, *Outward Sign and Inward Grace*, 98; Maddox, *Responsible Grace*, 222.

んじました。これは大事な違いです。なぜなら、洗礼は罪が赦されたこと
 のしるしであるだけでなく、私たちが罪の性質と罪が課した破れから癒
 されたしるしだからです。³⁹加えて、ウェスレーにとって、洗礼の恵みは「
 クリスチャンの生活を始めるのに十分」ですが、恵みの手段が十分効果
 的になるように、人は与えられる恵みに能動的かつ責任をもって参加し
 なければなりません。⁴⁰その意味で、洗礼は聖なる生活の涵養に必要と
 されるものと十分に関わる意志のしるしと象徴なのです。

ナザレン派の歴史家で神学者のポール・バセットはかつて私に、4
 世紀後半に記録された最古の洗礼式は、司式者が手を置いて次の言
 葉を述べることを含むものでした——「そして今や、主イエス・キリスト
 の恵みと癒しを受け、聖霊の力があなたの内に働くように、水と霊によ
 って生まれて、忠実な証人となるように」(筆者による言い換え)。略言す
 れば、「私は恵みを受けました、癒されました、イエスの弟子となります」
 という意味です。

説明責任のある関係

弟子の人生において支え続ける恵みに関するどんな議論も、特に
 ウェスレー・ホーリネス派の伝統では、霊的に説明責任のある関係の重
 要性への言及なしには不完全でしょう。ウェスレーは、すべての成長す
 るクリスチャンに必要なと信じる実践の枠組みを発展させました。(自覚
 の欠如につながる)自己中心性の傾向と、隔離された人生を送りたいと
 いう根強い誘惑を理解したウェスレーは、「クリスチャン集会」を5つのレ
 ベルで制定しました。それらはソサイエティ=会(クリスチャン教育と指
 示のための日曜学校に似たもの)、クラス・ミーティング=組会(後で説明
 します)、バンド=班会(小さなグループ)、選抜ソサイエティ(指導者育成
 と監督)、そして懺悔会(回復のためのグループ)です。

39. 救いの意味に関して西方(ラテン)と東方(ギリシア)の伝統の間では重要な
 違いがあります。「西洋のキリスト教(プロテスタントのカトリックの両方)は罪とその赦
 しへの法的性格に強調点が置かれる一方、東方正教会の典型的な救済論は罪に病んだ
 性質の癒しを強調する。」Maddox, *Responsible Grace*, 23. ウェスレーの洗礼の意味に
 対しての見方にはどちらも含まれていますが、癒しと命を与える側面が強調されます。

40. Maddox, *Responsible Grace*, 23.

クリスチャン集会の全レベルが恵みの手段として有益ですが、ウェスレーは組会がクリスチャン集会の核心にあり、成長してキリストのようになるために不可欠だと信じるようになりました。それはメソジスト運動の「メソッド」となり、多くの人々が主張するように、聖なる生活のためのウェスレーの最も大きな組織的貢献となりました。その主な焦点は、クリスチャン教育そのものではなく、振舞いにあり、霊的変容に適した実際的な計画と環境を強調します。聖書研究と教理の教えは重要ですが、それはソサイエティ=会のために取っておかれます。人々は組会で各メンバーの霊的向上について尋ねます。彼らは互いの目を見て問います——「あなたの魂はどうですか?」と。彼らは互いの恵みにおける成長に責任を持ち、聖なる心と人生に向けて互いを促すために必要な励ましを、何であれ提供します。⁴¹

18世紀の最も有名なプロテスタントの説教者は、ジョン・ウェスレーではありません。その称号は別の英国人、ジョージ・ホワイトフィールドに属していました。雄弁で劇的な説教者として、ホワイトフィールドは、西洋世界を通じてプロテスタント主義の声であり、北米の大覚醒運動の原動力の1人だと一般に思われていました。⁴²ウェスレーとホワイトフィールドは近い友人で、教会を強めるための貢献を互いに認めていました。しかし、結局、ホワイトフィールドではなくウェスレーの働きが持続しました。ウェスレーの若き同時代人のアダム・クラークは、ウェスレー派のリバイバルによる持続する実を組会のためだとします。

長い経験から、ウェスレー氏の助言の妥当性を私は知っています。「説教するところはどこでも組会を作り、注意深い聞き手を得なさい。なぜなら、そうせずどこでも説教すると、みことばは道端近くに撒かれた種のようになるから」です。この[恵みの]手段によって、私たちは永続する聖なる教会を世界中に立ててきました。ウェスレー氏は、この必要性を初めから見ていました。

41. クラス・ミーティングについてのこのセクションは、都市宣教についての拙著から採られたものです。クリスチャン集会とメソジスト運動でのクラス・ミーティングのインパクトについてのより詳細な説明は、以下を参照David A. Busic, *The City: Urban Churches in the Wesleyan-Holiness Tradition* (Kansas City, MO: The Foundry Publishing, 2020).

42. Harry S. Stout, *The Divine Dramatist: George Whitefield and the Rise of Modern Evangelicalism* (Grand Rapids: Eerdmans, 1991), xiii-xvi.

ホワイトフィールド氏はそれには従いませんでした。その結果？
ホワイトフィールド氏の働きの実は彼と共に死にました。ウェス
レーの実は残り、何倍にもなりました。⁴³

ホワイトフィールド自身は、ウェスレー派のリバイバルの衝撃に関
する問いに答えて、後にこう回顧します。「兄弟ウェスレーは賢く行動し
た。彼の宣教で目覚めさせられた魂を彼は組会に加え、働きの実を維
持した。私はこれを怠ったので、会衆の結びつきは脆弱だった」と。⁴⁴

訓練は個人的であり得ますが、私的であってはなりません。孤立した
クリスチャンは危険に陥ります。なぜなら偏狭な信仰は弱く実りのない
弟子を生み出すからです。共有された礼拝とクリスチャン教育は有益
で必要ですが、愛と親密な関係が共有された生活と、受けた知識の応
用との組み合わせなしには、私たちは「自分の救いを達成する」ために
苦闘することになります(ピリピ書2章12節)。恵みにおける健全で幸せ
な成長の秘訣は、ウェスレーが繰り返した言葉にあります——「愛を持
って互いに気を配りなさい」。⁴⁵

自制のあわれみ

祈り、断食し、聖書を読み、黙想し、学び、無邪気で、孤独で、服従し、
奉仕し、告白し、礼拝し、互いに説明責任を持つことを学ぶのは、恵みの
手段のあらゆる例です。これらや他の霊的訓練は、支える恵みの核心
部分です。

「私にはこれらのことへの適性がありません」という人があるかも
しれません。その人は一人ではありません。事実上、最初からこれらへ
の適性を持っている人は誰もいないのです。それらは魅力的ではない
し、努力と継続的実践を要求します。忘れてはいけません。御霊の助け
で、私たちの古い性質は新しい性質に変容されますが、それは以前は
自然ではなかったことが第2の天性となり「あなたがたのうちにキリスト
が形造られる」(ガラテヤ書4章19節)まで続きます。おそらくこれが、自

43. J. W. Etheridge, *The Life of the Rev. Adam Clarke* (New York: Carlton and Porter, 1859), 189.

44. Etheridge, *The Life of the Rev. Adam Clarke*, 189.

45. John Wesley, "The Nature, Design, and General Rules of the United Societies," *Works*, 9.69.

制が御霊の實の最後の性質として列挙されている理由でしょう。自制が必要なのは、実は自動的には結ばないからです。花びらは可能性の最初のしるしですが、高められた集中や意図的な注目なしに、実は結ばないでしょう。

ライトは、こともなげにいくつかの實が偽物であることを指摘します。「パウロがここで言及したすべての様々な實は——特に若くて健康で幸せな人たちにとって——比較的容易に偽造できるが、自制を除く。自制がなければ、他の種類の實は本物なのか、御霊が働く本物のしるしではなく外見なのか、と問う価値が常にある」。⁴⁶ 自制が、聖なる生活を涵養する強固な献身を補強することは驚くには当たりません。

実を結ぶ木を窒息させようとする多くの寄生虫や、多くの異質な低木があり、多くの捕食動物は根をかじったり、実る前の実を採ろうとします。これらすべての敵を無慈悲に取り扱うためには、思いと心と意志の選択が必要です。なぜならあなたは「御霊によって生きる」のですが、御霊に従うことは自動的なことではないからです。あなたは選択しなければなりませんし、選択できるのです。⁴⁷

支える恵み: 霊的、かつ实际的

支える恵みは、霊的であり、实际的でもあります。それは御霊を伴うので霊的です。実際の實が生物の自然な産物であるように、霊的な實は御霊の産物です。私たちは、聖霊の力で自分の内に神の深い業を生み出すことはできません。それは外側から来るもので、それ自体は完全な贈り物です。けれどもそれは实际的でもあります。ごく単純に、それは実践を伴います。こうした実践は庭仕事の形を取り、私たちの内で始まったことは「それを完成させてくださる」(ピリピ書1章6節) また「義の實に満たされている」(同1章11節) のです。月曜にトウモロコシを植えて、日曜日にトウモロコシを食べられると思う農夫はいないでしょう。種から収穫までは栽培と時を必要とします。収穫の果実を楽しみたいのなら、水と太陽が必要で、肥料が与えられ、雑草が除かれる必要があるのです。

46. Wright, *After You Believe*, 196.

47. Wright, *After You Believe*, 196–197.

インスタント・コーヒー、電子レンジのポップコーン、高速インターネット——私たちは何でもインスタント文化です。コーヒーショップでパソコンを使う人々は、WiFiにつなぐのに2秒以上かかれば怒鳴ります。何でもすぐという期待は人々の気を短くします。これはどこから来るのでしょうか。それは即座の満足という、根深い欲求に焼き付けられたのだと私は主張します。これは現代的現象ではなく、人類と共に非常に長い間ありました。即座の満足という死に至る悪徳の例は、聖書にたくさんありますが、長子の権利で有名なエサウが最も悪名高いです。彼の残念な評判は、長くて不首尾の狩りの後にできました。彼が家に戻った時、彼は腹ペコでした。彼の狡賢い双子の弟ヤコブは、赤い豆スープを火で作っていました。エサウは食べさせてくれと言います。常に計算高いヤコブは交渉します——「今すぐ、あなたの長子の権利を私に売りなさい」と(創世記25章31節)。

長子の権利、または初子の権利(または長子相続権として知られる)は相続の一般的な法で、年長の男子の子どもに経済的特権と家族の権威を保障しました。権威があり、利益を受ける祝福です。スープ一杯のためにそんな価値ある所有を売り渡すことをヤコブがエサウ頼むことは、とんでもないことでした。エサウの答えも同様にとんでもないものでした——「見てくれ。死にそうなのだ。長子の権利など、今の私に何になるう」(同25章32節)。彼は即座の満足のために、最も価値ある宝物の所有を喜んで売り払ったのです——文字通り、たかが赤い豆スープのために。

この皮肉は無視できません。無限の測り知れない価値があるものを、すぐに消え去るような即座の満足のために売るとは、どんな衝動的な人物でしょうか。けれども即座の満足の私たちの文化は常にそうしています。無限の測り知れない価値があるものを、すぐになくなると知っているもののために売り渡すのです。「私は欲しいものが欲しい、そして今欲しい!食欲を充たしたい、どんな対価を払っても」と。ヘブル書の記者が、エサウの行動を罪深い不道徳と等しいものとしたのも驚くには当たりません。「また、不品行の者や、一杯の食物と引き替えに自分のものであった長子の権利を打ったエサウのような俗悪な者がないようにしなさい。あなたがたが知っているとおりに、彼は後になって祝福を相続したいと思ったが、退けられました。涙を流して求めても、彼には心を変え

てもらふ余地がありませんでした」(ヘブル書12章16-17節)。これは悲劇的で苦しい、無視してはならない教訓です。聖潔の生活には訓練が要求され、弟子の道に近道はないのです。

タイガー・ウッズは、歴史上の最も偉大なゴルファーの一人と讃えられます。私が若い時にゴルフを習っていた頃、彼のスタイルを真似ようとしてしました。タイガーのように大ドライバー・ショットを打とうとし、ピンポイントのアイアンショットを打とうとし、タイガーのように自信をもってパッティングをしようとしてしました(私はタイガーのナイキ帽子さえ買いました)。たった1つ問題がありました。タイガーは毎日何時間も練習し、ほとんど歩けなくなるほどでした。⁴⁸世界一のゴルファーになった時でさえ、彼は他の誰よりも練習している、と事情を知っている人は言いました。私はタイガー・ウッズのようなゴルファーになりたいと言えますが、私の練習が願望に似合うものとはとても言えません。即座の満足は十分ではありません。どんなに私が違うことを望んでも、私のゴルフプレーは練習量に見合うものなのです。

よく人々は言います。「私はシスター誰々のようになりたい。彼女はとても神に近い人のようだ。彼女の中にイエスを見る。彼女は聖人だ」と。彼女にキリストの似姿の良い模範を見て、彼女のライフスタイルに倣おうとするのは悪い考えではありませんが、彼女が何時間も瞑想と祈りで主と共に一人で過ごしているのを知るべきです。何十年もの間、霊的实践に時間を費やし、今のような姿になったのです。瞬時の満足に浸ることで今ある所にたどり着いたわけではありません。霊的实践は、彼女の中に聖なる気性を形成し、今やそれは美德にみえます。彼女は御霊の実を耕し、だからこそ、愛、喜び、平和、忍耐、親切、善良、自制が明らかに彼女に備わっているのです。

聖性は、一瞬ではい出来上がり、というものではありません。美德は獲得されるものです。いいえ、それは私たちの内に形造られるものです。「回心は贈り物であり、達成だ。それは瞬時のことであり、生涯のもの

48. ウッドは二歳の時によく知られたテレビに登場し、ゴルフの能力を示しました。

だ」と言います。⁴⁹長い期間の辛抱が、恵みの旅では必要とされます。私たちは実を耕さなくてはなりません。

可能にする恵みについての本章は、千年も聖徒たちによって祈られてきた、清さを求める祈りで締めくくることがふさわしいように思えます。

「全能の神よ。あなたにはすべての心が明らかで、すべての願いは知られており、どんな秘密も隠されていません。私たちの心の思いを、聖霊の靈感によって清めてください。そうして私たちが完全にあなたを愛し、あなたの聖なる名を褒め称えますように。われらの主キリストによって。アーメン」。⁵⁰

49 Jones, *Conversion*, quoted in Foster and Smith, *Devotional Classics*, 281.

50 *The Book of Common Prayer* (Cambridge: Cambridge University Press, n.d.), 97–98.



6

満ち足りた恵み

しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。(第2コリント書12章9節)

私たちは本書を、恵みは個人的なもので、イエス・キリストの人格と働きにより経験され、知られ、聖霊の臨在によって現わされると言って始めました。トーマス・ロングフォードによって記されたように、恵みは抽象的な原理として知られるのではなく、「歴史における神の実際の自己犠牲において」知られます。¹イエス・キリストにおいて、また聖霊において現臨し、人の命の刷新は探し求め、救い、聖化し、支える恵みを通じて経験されます。恵みのこの最後の聖書的表現は、私にとって何よりも神秘です。

安易な人生を送っているように見える人が神から遠ざかっているようなのに、人生の苦難にもがき苦しんでいる人が神と親密なように見えるのはどうしたことか、と思ったことがありますか。一見すると、どちらの観察も直感に反するように思われます。ほとんど問題がない人の方が、

1. Thomas A. Langford, *Reflections on Grace* (Eugene, OR: Cascade Books, 2007), 107.

深い苦難に耐えている人よりも幸せで大きな平和に包まれているのが当然だと思われるかもしれませんが、しかししばしば逆こそ真実なのです。こうしたパラドクスをどう説明できるでしょうか。

「みこころが天で行われる通り、地でも行われますように」と祈るのは、この世界で起こるすべてのことが神のみこころというわけではないからです。私たちは、悪いことはどれも神のせいにはできません。そうする時はいつでも、神のご性格を非難していることになります。第3の戒めは神の名をみだらに唱えることを禁じますが、それは呪うことよりも世界で神を誤って示すことに関連しています。悪を神からのものとしたり、神からのものを悪と呼ぶのは深刻なことです。にもかかわらず、起こることすべてが神のみこころではないにしても、私たちの神は全能で愛に満ちているので、神はすべてのことに意志を持ちます——特に神が自らのものと主張し、キリストが内住する人に関しては。聖書は、神の専門の1つが、たとえ悪意ですら、すべてのことを贖うことであると思いきこさせます。ヨセフは彼に嫉妬した兄たちに言いました。「あなたがたは、私に悪を計りましたが、神はそれを、良いことのための計らいとなさいました。それはきょうのようにして、多くの人々を生かしておくためでした」(創世記50章20節)。使徒パウロも私たちに思いきこさせます。「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださいことを私たちは知っています」(ローマ書8章28節)。ヨセフは、神が兄弟たちに彼をエジプト人の奴隷として売らせたとは言いませんでした。そうではなく、神は彼らの悪意をそのままにはしなかったと言いました。パウロは、神が悪いことをその民に起こすとは言いませんでした。神は良いことも悪いこともすべてのことに忠実に働かれ、破滅的にしか見えないことを取り上げて、それを癒しと聖にするとしたのです。これらの聖書箇所は、キリストにあって大いなる苦難に直面している人が、最も大きな平安をも経験しているのはなぜなのかを説明します。恵みの旅の中で、困難な厳しい状況に置かれ、完全に神に捧げられた弟子の人生には、何かが起こっています。彼らは弱さの中で神の十分な恵みを経験しますが、それは彼らを支え続け、最も激しい奮闘において必要なものを提供します。

弱さにおいて完全にされる強さ

使徒パウロは1世紀のコリントの教会への第2の手紙の文脈で、満ち足りた恵みについて語りました。パウロによれば、彼がコリント人に手紙を書く14年前に、彼は神から幻を受けて「第三の天にまで引き上げられました」(第2コリント書12章2節)。ほとんどの聖書学者は、パウロはここで、天に何層もあると示唆しているのではなく、通常の人々の能力を超えた啓示を描写し、御霊の靈感で物質世界を超えた何かを見たのだと考えます。彼の要点は、彼が神の臨在と力強く遭遇し、復活の主を見て、もう今まで通りではいられず、自分の人生を変えたのだと、コリント人たちと私たちに伝えたかったのです。²

このような陶酔体験は人を霊的に慢心させ誇らせるかもしれませんが。その危険に気がつき、不敬なうぬぼれに陥らないように、「肉体に一つのとげを」与えられたと(同12章7節)パウロは言います。そのとげの起源も種類も完全には明らかではありません。問題が肉体的なものか、感情的なものか、人間関係なのかもわかりません。³明らかなのは、パウロがそれを「私を打つための、サタンの使い」と呼ぶほどの重荷となり、自らの脆さを思い起こさせた(同12章7節)ということです。彼は、それを取り去ってくださいと懇願しました。それは彼をより強くし、教会の指導者としてもより有益にすると思われました。とげについてさらに考察する前に、パウロが強い人だったことを思い出しましょう。彼は霊的に弱い人ではありませんでした。他所で、彼は使徒としての苦難を詳しく書いています。

「彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうなのです。私の労苦は彼らよりも多く、牢に入れられたことも多く、また、むち打たれたことは数えきれず、死に直面したこともしばしばでした。ユダヤ人から三十九のむち

2. Douglas Ward, "The 'Third Heaven,'" *The Voice: Biblical and Theological Resources for Growing Christians*, 2018, <https://www.crivoice.org/thirdheaven.html>. 多くの学者は、パウロが第二コリントで描いている幻はダマスコ途上で復活のキリストに遭遇した時のものだと主張します。

3. ある人たちは、パウロの肉体の棘は物理的なものだったと想像します：肌の状態、鋭敏な視覚問題、あるいはてんかん。他の人たちは、とげとは教会の迫害者としての過去の記憶やユダヤ人クリスチャンとの間で起こる人間関係の困難さだと示唆します。

を受けたことが五度、むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度あり、一昼夜、海上を漂ったこともあります。幾度も旅をし、川の難、盗賊の難、同国民から受ける難、異邦人から受ける難、都市の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、労し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢え渴き、しばしば食べ物もなく、寒さに凍え、裸でいたこともありました。⁴

このような外から来ることのほかに、日々私に押しかかるすべての教会への心づかいがあります(第2コリント書11章23-28節)。

パウロの試練のリストをもう一度読んでください。彼はこれらすべてに、またそれ以上(蛇に噛まれたことなど)を耐えました。パウロが、か弱い花か泣き虫の小言屋だと思いますか。とげが何であれ、パウロにとってそれが取るに足らないものではなかったのが分かります。3回以上、パウロは打ち明け、取り去ってくださいと神に願いました(聖書的な言い方では、「三度も主に願いました」)。パウロは、彼が深い苦難の中にいたことを思い起こさせます。彼は押しつぶすような重荷を運び、その重さに崩れ落ちそうに感じました。それは彼の眼には小さなことではなく、癒しを祈りました。主は祈りに応えましたが、彼の願った仕方ではありませんでした。いいえ、パウロ、あなたはとげを持ち続けますが、次のことを知りなさい、ということでした。すなわち、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」(第2コリント書12章9節)。私(神)と共にいるあなたが最も弱い瞬間は、私(神)なしの時のあなたの最も強い瞬間よりも強い、私(神)の力はあなたの弱さの中で完全になる、ということです。

聖なる腕の中で運ばれて

満ち足りた恵みは、私たちに語る次のような主の言葉です。「あなたの人間的力の限界に来た時、私は超自然的な力をあなたに与える。あなたの力が尽きた時、私の力があなたの中に生きる。あなたがもうこれ以上先に行けない時、あなたを持ち上げ運んでいく。私の腕でしばし憩いなさい」。

4. Peterson, *The Message*, 2 Corinthians 11.23-27.

『あしあと』という現代の良く知られた詞的なたとえ話があります。

ある夜、男は夢を見ました。浜辺を主とともに歩いている夢でした。空には彼の人生の情景が描かれます。どの場面でも、砂の上には2種類の足跡があるのに気がつきましたが、1つは彼の、もう1つは主の足跡でした。

彼の人生の最後の場面が彼の前に示されると、彼は砂の上の足跡を振り返ります。彼の人生の多くの時には1つの足跡しかありませんでした。彼はまた、それが自分の人生の最もつらく悲しい時に当たるのに気がつきました。

それは彼を動揺させ、主にそのことについて問いました。「主よ、かつて私があなたに従うと決意した時、いつもあなたと共に歩もうとお願いしました。しかし、人生の最も困難な時には1つの足跡しかなかったのに気がつきました。なぜあなたを最も必要とした時に、去ってしまったのか理解できません」と。

主は答えられた。「大事な、大事な子よ、あなたを愛しているし、あなたから去ったことはない。あなたの試練と苦難の時、1つの足跡しか見えない時、私はあなたを背負っていたのだ」と。

私たちを求め続ける恵みをイメージするなら、探し求める羊飼いか、待ち続ける父か、目覚めさせる接吻のようにみえるでしょう。救いの恵みをイメージするなら、抱擁、養子縁組、和解にみえるでしょう。満ち足りた恵みをイメージするなら、聖なる腕で運ばれている人ようになるでしょう。

「あしあと」はたとえ話以上のものです。これは私が何度も何度も聞いた真実の物語です。牧師をしていた時、会衆の中に過酷な苦難や苦渋を経験していた人がいました。ある人はあまりの苦しみで、どうやって朝ベッドから起き上がるのか不思議なくらいでした。ロープの端に捉まっている人のようで、ユージン・ピーターソンの言い方を借りれば、「私は自分の骨で彼らの絶望を感じる」ほどでした。

それから彼らがこう言うのを聞きました。「牧師さん、うまく説明できません。私はすっかり打ちのめされていたのですが、それでも、まるで私は運ばれているようなんです。私は失ったもの、病、死、裏切りに深く悲しみ、壊れそうなのですが、心には平安があり、説明しがたい霊の安ら

ぎがあるのです。描写できるとすれば、まるで永遠の腕で恵み深く支えられているようです。1つの足跡は、満ち足りた恵みなのです。

苦難に関して私が発見したことがあるとすれば、満ち足りた恵みは、私がそれを最も必要とする時まで、知的な現実に過ぎないということです。人は何かを頭で知っても心では知らないということがあり得ます。実際にそれを経験し、支えられ、運ばれることは定義を超えます。それは本当に運ばれることなのです。それが満ち足りた恵みです。少し前に、こう話す友人がいました。「もし子どもの一人を失ったらどうなるか分からない。私には生きる力がなくなるでしょう」と。

私は答えました。「そうですね。あなたは今はその力を持つ必要はありません。なぜならそこを歩いていないからです。そんなことが決して起きないことを願っていますが、万が一そうなっても、その時には満ち足りた恵みがあるのです」と。

「ちょうど十分な」恵み

満ち足りた恵みはあなたが今日必要とする分すべてです。「ちょうど十分な」日々の贈り物があります。それは荒野のマナのようです。神の民は荒野の旅をしていました。そこにはほとんど食料がなく、神が備えてくださらなければ、彼らは飢え死にしたでしょう。そこで神は彼らに贈り物をしました。神は天からのパンを降らせたのです。毎朝人々が起きると、テントの外側の地面に日々新鮮なパンがありました。彼らは苦労したり、働いたり、お金を支払ったりしませんでした。それは神の御手からの贈り物としてそこにありました。彼らがするのは集めて準備することだけでした。1つの戒めは、それを貯蔵できないことでした。彼らは甘いペストリーを空き缶に集めたり雨の日のために貯蔵できませんでした。神が翌日に来られないことに備えて床の下にマナを隠すこともできませんでした。そうしようとすれば、悪いことが起きます。それは虫に食われ、けばだち、鳥のえさになりました。彼らは神が今日必要なだけのものを備え、明日も同じことをされると信じるしかありません。神の恵みは毎朝新しいのです。

満ち足りた恵みとはこのようなものです。それは明日のために貯蔵できません。それは今日のために十分です。神は今日必要なものをすべて備え、それはちょうど十分なのです。明日も十分なものが備えられ

るでしょう。パウロが自信をもってこう宣言したのも不思議ではありません。「しかし、主は、「わたしの恵みは、あなたに十分である。というのは、わたしの力は、弱さのうちに完全に現れるからである」と言われたのです。ですから、私は、キリストの力が私をおおうために、むしろ大いに喜んで私の弱さを誇りましょう。ですから、私は、キリストのために、弱さ、侮辱、苦痛、迫害、困難に甘んじています。なぜなら、私が弱いときにこそ、私は強いからです」(第2コリント書12章9-10節)。

持続する恵み

何年前か、あるペンシルバニアの牧師が、スーツの下襟にブルドッグのピンをつけた人を礼拝後に見ました。彼がブルドッグをロゴにした運送会社で働いているのを知らず、牧師は素朴に尋ねました。「そのブルドッグは何を象徴していますか」と。

目を輝かせて、男はいたずらっぽく答えました。「牧師さん、ブルドッグは私がイエス・キリストにしがみつくと執拗さを象徴しているのです」と。

牧師は答えました。「それは素晴らしいシンボルですが、悪い神学ですね。驚いた男は尋ねます。「どういう意味ですか?」

「あなたのイエス・キリストへの執拗さを象徴すべきではないのです」と牧師は言います。「イエス・キリストのあなたへの執拗さを象徴すべきなのです」と。

困難な時の信仰は、私たちがどれほど強いとか、どれだけ信仰を持っているのかが問題になるものではありません。暗黒の瞬間の信仰は、神がどれほど強いかを問題にします。旅において、どれほどのことに遭遇しようとも、神の恵みは私たちを支えるのに十分で、神の愛は私たちを引き上げるほどに十分強いのです。人生で「何があろうと」の意味は、イエス・キリストがブルドッグのような執拗さで私たちを支え、私たちをそのままにしない、ということであるのを忘れないようにしましょう。

私が牧会をしていた教会のある女性が、突然重い病になりました。医師は彼女を全面的に検査し、何が悪いのかを見極めようとしてきました。彼女の身体がどんな食べ物にも深刻なアレルギー症状を引き起こす稀な状態にあることを発見しました。それはとても深刻になり、命の危険があるほどでした。その間、彼女の夫は軍務によりアフガニスタンに派

遣されていました。彼女は結局入院し、医療検査を受けることになりましたが、その暴力的なアレルギー反応で彼女の息が一時的に止まるほどになることが予想されました。これほどの暴力的な反応は誰も前もって想像したくありません。特にそれが来ることを知っている場合にはなおさらです。彼女は私に言いました。「牧師さん、私はとても怖いですが、パニックになりそうです。私は病院のベッドで横になり、どんなことを私が耐えることになるのか、慰め会をしました。どうしてこんなことが私に起こるのでしょうか。その上、夫が数千マイルも離れたところにいることに怒っています。私は恐れ、そしてとても孤独なのです」。

検査の時が来ました。彼女は怖がっていました。「今や『恐怖で怯える』という言葉の意味が分かりました。私は文字通り動けず、祈ることすらできません。祈れないことなど、かつてありませんでした。私にできる祈りといえば、『神様、助けてください』だけでした」。

彼女は検査を行う看護婦に振り返り、聞きました。「あなたはクリスチャンですか？」

「はい、そうです」と看護婦は答えました。

「私のために祈ってくださいますか？」

躊躇なく看護婦は答えました、「もちろん」。そして慰めと癒しのための単純な祈りをしました。

その女性は後で私に言いました。「看護婦が祈るにつれ、最も驚くべき平安が私を包みました。まるで神がその御手を私の上に置き、ご自身のもとに引き上げてくださったかのようなようでした」(そうです、彼女はそう言ったのです)。「私は神が共におられることを知り、恐怖は突然消えました」と。」

彼らは検査を行い、皆が驚いたことに、暴力的な反応はありませんでした。「牧師さん、突然私は喜びの泉が内側から湧き出るのを感じました。それは熱烈な喜びでした。部屋でダンスを踊れるのなら、そうしたいでしょう!」

まさにその瞬間、看護婦は来ていた放射能ベストを外しましたが、その時彼女の首には大きな十字架のペンダントがありました。

鮮やかな思い出によって今や目に涙を浮かべ、彼女は私に言いました。「その時分かったのです。神がずっとおられたことを。私は単に神が

見えなかったのです。私は神の臨在が感じられませんでした。神はそこにおられたのです。夫はアフガニスタンにいましたが、私はずっとキリストの花嫁です。イエスはその時私の夫で、傍に立ち、私を抱えてくれました」。

恵みの旅に伴い、神の満ち足りた恵みは様々な形で私たちを捉え続けますが、その最も重要な形の1つはキリストのからだを通じてです。苦しみにある時に神に現れてくださいと祈る時、教会員の手紙や電話の形で「愛しています。あなたのために祈っています。主があなたと共におられます」と言うことに驚くべきではありません。私たちは時々、耐えられないように思える重荷を持って教会の交わりに来る時、キリストにある兄弟姉妹が腕を回してこう言います。「最近あなたのことをよく考えています。あなたが愛され、祈られていることを知って欲しいのです」と。そして、奇跡の中の奇跡、イエスの受肉の臨在が私たちを包み、ブルドックのような執拗さでその瞬間私たちを包み込むようで、私たちの人生の最も厳しい瞬間に私たちを運んでくれます。

私の娘たちの1人が幼い時、暗闇を怖がりました。妻と私は彼女をベッドに寝かせて言いました。「恐れなくていい。イエスは今あなたと共にいるから」と。

彼女は答えました。「分かった、ママ、パパ。怖がらないわ」と。しかし、ほどなく私たちの寝室のドアを叩く音がします。「ママ、パパ。イエス様と一緒にいるのは知ってるけど、ママたちみたいな人が必要なの」と。

彼女は正しいのです。時々私たちは、私たちのような人を必要とします。それがキリストのからだだということです。キリストの共同体はイエスに皮がついたようなものです。無限のあわれみと持続する愛に満たされた、人々の温かい身体を通じて、私たちは神により包まれ、支えられるのです。

忍耐、品性、希望

痛みと苦難は私たちが普通は避けたい事柄です。快適と健康を願うことは悪いことではありません。しかし、痛みと悩みの時でも喜びと、希望さえ見出せることも知っています。なぜなら、イエスの強さは私たちの弱さの中で完全にされるからです。ローマに住む1世紀のクリスチャンへの別の手紙で、パウロは言いました。「そればかりではなく、患難さ

えも喜んでいます。それは、患難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと知っているからです。この希望は失望に終わることがありません。なぜなら、私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれているからです。」(ローマ書5章3-5節)。今一度、パウロは美徳とキリストと似た者となる人格形成について言及します。

第1に、苦難は忍耐を生み出します。問題、プレッシャー、試練はキリストの似姿になるという目的(*telos*)とは何の関係もない運命の偶然の出来事ではありません。新約聖書の元来の言葉では、「忍耐」は *hypomone* で、何があってもしっかりと立つという意味です。人生のプレッシャーがまとめて襲い掛かる時ですらしっかりと立つのです。困難は忍耐を生み出し、忍耐とはこのように言う性格です——「何があってもやめません」と。それは長距離走に似ています。足は重く感じ、肺は息が苦しく、心臓は胸から飛び出しそうで、あなたは強くやめたいと願います。しかし、あなたは走り続けるべきだと知っています。なぜならやめたいと思う瞬間にこそ、最大の利益を受けているからです。これが *hypomone*——プレッシャーの下での忍耐——です。私たちは、プレッシャーや苦難ですら忍耐と練達を生むことを知って、問題や試練を喜べるのです。

第2に、忍耐は品性を生み出します。ギリシヤ語の *dokime* は、元来精製されて不純物が取り除かれた金属を指しました。問題や試練は忍耐を生み出し、忍耐は強い性格を生み出します。社会のあらゆる段階で、品性は今日ぜひとも求められます。リチャード・ジョン・ノイハウスはこの点を強調します。「私たちがキリストにある新しい存在であるのは神の純粋な贈り物である。人格の形成はこの贈り物の現実化である。キリストにあって私たちが既に本当はそうある、理想の姿になるのは骨の折れるプロセスだ。それはクリスチャンの巡礼の日々の経験、平凡な側面の尊重が要求される」。⁵ノイハウスは確固として結論付けます。「品性は、必要が多の場合充たされない世界で、良い人生を送る勇気と恵みを示唆する」と。⁶人は代理によって品性の力を受け取れません。

5. Richard John Neuhaus, *Freedom for Ministry* (Grand Rapids: Eerdmans, 1979), 90.

6. Neuhaus, *Freedom for Ministry*, 88.

本物の人生の試練に勝つことが忍耐を生み出し、義とされた時、誠実さと品性の深みを生み出します。

第3に、品性は希望を生み出します。希望は平穏で、神が私たちと共にいるという確かな信仰です。希望は確固たる期待で、未来に何があろうとも、私たちの恵みの旅の同伴者は未来をつかんでいます。私たちの時代の中心的な問題は、ストレスが多すぎるのではなく、希望が少なすぎることです。実に、トーマス・ラングフォードはその点を良く表しました。「希望は未来に繰り延べられるのではない。希望は過去についての理解を作り直し、現在の人生を決定する。私たちは希望の内に、希望によって変容されて生きる」と。⁷

次の例が分かりやすくしてくれるでしょう。⁸高校の上級生で一杯の教室を想像してください。左の人に向かって尋ねます——「高校の最後の年はどうだった？」

生徒は答えます。「あまりうまくいきませんでした。クラスをいくつか落としたり、もっと落とせば卒業できません。最終学年をやり直さないとけません」。

あなたは再度尋ねます——「あなたの未来に何をみますか？」

「そうですね、私は5月に卒業して、秋には地元の短期大学に入れるように努めます」。

それから右手の生徒に向き直って同じ質問をします。「高校の最後の年はどうだった？」

「とてもうまくいきました」と彼女は言います。

「カレッジに行くことを考えていますか？」

「もちろん！私はすでにハーバード大学に合格しています。プリンストン、スタンフォード、そしてMITからの知らせを待っていますが、私は期待しています。」

「あなたは大変優秀な生徒に違いありませんね。あなたの高校のクラスでのランク付けをお聞かせくださいますか？」

7. Langford, *Reflections on Grace*, 107.

8. 私はこの描写を1990年代のトーマス・テウエル牧師（博士）の「ブルドックの執拗さ」という説教の中で聞きました。

「600人の生徒の内、私はクラスで2番で、平均点は4.3です。」

「おお、それはすごいですね!あなたのSATのスコアをお聞かせ願えますか?」

「私は数学で780点、国語で760点で合計1540点です」(800点が各科目の満点です)。

「それは私のSATと同じくらい良いですね」とあなたは皮肉な調子で付け加えます。「あなたの未来に何をみますか?」

「はい、私は5月に卒業してこれらの大学の1つに進学し、科学研究者になりたいです。」

あなたは考えます。「卒業したいですって?」この若い女性はそれを成し遂げています!問題にもなりません。

違いが分かりますか。最初の生徒は望みのないものを望んでいます。第2の生徒は、何が起こるのか、ある種の確信を抱いています。このような希望は、未来に繰り延べられません。それは過去の理解を作り直し、現在の人生を決定します。私たちは希望の内に、希望によって変容されて生きるのです。人々は時にこう言います。「私は、神が私を愛することを希望します。私は、神が背を向けないことを希望します。神は、私が八方塞がりの時に私を見捨てないことを希望します。私は、神が私を支え、最も暗い時に強めてくださることを希望します」と。クリスチャンの希望は、イエス・キリストの十字架と、復活の命を与える力の持つ、過去・現在・未来の愛に根差しています。この希望は私たちを失望させません(ローマ書5章5節)。私たちは神の十分な恵みの力強い力の中にいます。神はブルドックの執拗さを持って私たちを捉えているのです。

わが霊を御手にゆだねます

偶然ではなく、私はコロナウイルスが蔓延していた時、大いなる不確実性と深い苦難の時に本章を書いています。聖土曜日、イースターの前日は、イエスの死について思い巡らすべき時で、墓の暗闇の中にいるイエスの時間を思い起こします。その日の聖句集の1つの詩篇31篇は、息を引き取る前にイエスが十字架から語った言葉を含んでいます——「父よ。わが霊を御手にゆだねます」(ルカ福音書23章46節)。イエスは詩篇31篇5節から直接引用し、「アバ」(「父」)という言葉だけを祈りに加えました。

このイエスの祈りから学ぶべき多くのことの内でも、コロナウイルスの荒野で際立っているのは、取られる命と与えられる命の巨大な違いです。イエスはヨハネ福音書でそれを明らかにしました。「だれも、わたしからいのちを取った者はいません。わたしが自分からいのちを捨てるのです」(10章18節)。イエスは自由に進んで命を捨てるのです。十字架でのイエスの死は、約束された命の悲劇的終わりでも、失敗した使命という失望でもありませんでした。それはすべて神が定めたものです。十字架は、私たちを暗やみと死の権威と力の束縛から私たちを救う、神の宇宙的計画でした。従って、イエスの犠牲は押し付けられたものではありません。イエスは、私たちのために進んでそれを受け入れたのです。イエスは自らが神の御手にあることを知り、こう言うことができました。「わたしが自分のいのちを再び得るために自分のいのちを捨てる」のだと(同10章17節)。

ここで立ち止まって尋ねるべきです。私たちの命は与えられているのか、取られるのか、と。この2つには大きな違いがあり、それは主への信頼に関します。「父よ。わが霊を御手にゆだねます」とは、私たちの天の父なる神を離れて成し遂げられるものより、ずっと大きく美しいことのために、私たちの命が与えられたと信頼することです。おそらく人生の最も困難な時になされたイエスの祈りは、イエスがこの祈りのためにずっと祈り続けてきたということを私たちに教えています。そこにはゲッセマネの園での苦悶の祈りも含まれます。「御手に」は完全な明け渡しの祈りです。なぜならその核心には、私たちは他の人々や状況——私たちが自身の計画や目的など——の手から取られ、喜んで神の御手に私たちの命をゆだねるという宣言があるからです。強力な意味で、それは私たちの人生を再定義または再想像します。物事をなすがままにさせるか、私たちの歩みを神の加護にゆだねるか、です。1つは、何かを取り去られることで、もう1つは自分から捨てることです。それは損失か、明け渡しか、なのです。

イエスは、私たちに犠牲の驚くべき力を紹介します。イエスが私たちに示したのは、神に委ねることによって、あらゆる点で損失に見えることを、あらゆる点で益に変えることができるということです。フレデリック・ブエシュナーは言いました。「何かを犠牲にすることは、それを愛のために捨てることで聖なるものとするのだ」と。彼が意味したのは、誰かが

私たちの手からそれを奪い取ろうとしても、それが自分たちの手を離れたと感じられても、それをどのようにするかを私たちは決められる、ということです。⁹私たちは最後の瞬間にも両手を広げて、他の人から見れば私たちから取り去られ、環境が私たちから奪うものを、自ら手放せるのです。私たちはそれを愛のためにすることで、また神にそれを明け渡すことで、聖なるものとする事ができるのです。

コロナウイルス蔓延という非現実的な経験において、何日かが何週にもなり、何か私たちから取り去られたと感じるのは普通です。私たちは恐れ、怒り、不安を感じ、快適な圏内から外れたと感じます。私たちには選択をしなければなりません。私たちは被害者を演じて言うこともできます。「何か私から取り去られた」と。あるいは、神にそれをゆだねて言うこともできます。「父よ。わが霊を御手にゆだねます。私たちはあなたに自分の計画と目的をゆだねます。私たちの命は自分のものではありません。私たちはそれを投げ出します。なぜならそれはあなたのもみだからです。そして愛のためにそれを諦めます。あなたはそれを聖なるものにできるからです」。私たちの側には信頼が求められますが。それに見合う絶対的の平安があり、私たちの命は神に栄光を帰し、私たちの人生は偶然の出来事や神経の衰弱ではなく、私たちの日々は神の御手の中にあることを知ります。世界的蔓延ですら、私たちの人生の意味や目的を決定しません。誰も私たちの命を取れません。自分で投げ出すのです。これが私たちの希望の現実です。

嘆きの恵み

満ち足りた恵みは、私たちの恐れや疑いのすべてを消し去りません。それを避けることはできません。希望がある場合でも、問いは残ります。答え以上に問いがある場合でも、信仰を持つことは可能です。悲しみと希望を同時に持つことも可能です。可能だけではなく、それは聖書的でもあります。私たちはそれを嘆きと呼びます。詩篇150編のうち祈禱書に含まれているものをソルター(Psalter)と言います。その中には、感謝、忠誠、京都上り、嘆き、呪い(怒っている時に祈る祈り)すらありま

9. Frederick Buechner, *Wishful Thinking: A Seeker's ABC* (New York: HarperOne, 1973), 10

す。詩篇は、靈感を持つ神のみことばとして、人生の色々な場面でいかに祈るかという例を示しています。

感謝の詩篇(hallel、英語のハレルヤの語源)は、人生がうまく保たれ、神の臨在を特に近く感じる時に捧げます。一方、嘆きの詩篇は、人生が苦しく不安で、先の見込みもない時に、苦難の中で神に叫び求める祈りです。苦難の時に発する2つの代表的な問いは、「なぜこんなことが起こるのか」と「一体いつまで続くのか」です。神がこの種の問いを許しているだけでなく、聖書の詩篇の70%が感謝の詩篇(hallel)ではなく苦難の時の祈り、嘆きである点は興味深いことです。イエス自身が、十字架上の苦難の時に嘆きを祈りました(詩篇22篇)。

嘆きの特徴は疑いではなく、神の誠実さに対する深い信頼です。嘆きは絶望の叫びとして始まることもありますが、最大の特徴は、人生の暗闇、弱さ、苦難の中に臨在し、関与し、配慮する神の本質と性格と力に絶大な信頼を置くことです。嘆きは、遠くに見えるが決して不在ではない神に対する全面的依存と完全な自己放棄です。

特殊な癌と診断された友人がいます。非常に珍しい病気のために、医者は様々な療法を試みっていますが、その多くは実験段階です。悲しいことですが、最善の治療と科学をもってしても、癌は体中に広がり始めています。ある日、再度の良くない報告の後、彼の妻はフェイスブックに次の記事を出しました。「外科治療の方法は少なくなっていますが、神の臨在という現実は大きくなっています」と。神の満ち足りた恵みの中にある義人の嘆きと希望を、これ以上に美しく表現した例を私は知りません。

私たちは、自分が最強の時に主と一緒にいない時よりも、自分が最弱の時に主と一緒にいる時の方が強いのです。私たちは、恵みの旅の中でこの確信を得ています。主の力は、私たちが弱い時に完全に現れます。この希望は私たちを失望させません。満ち足りた恵みについて、その結論をペテロに語ってもらいましょう——「あらゆる恵みに満ちた神、すなわち、あなたがたをキリストにあってその永遠の栄光の中に招き入れてくださった神ご自身が、あなたがたをしばらくの苦しみの後で完全にし、堅く立たせ、強くし、不動の者としてくださいます(第1ペテロ書5章10節)」。

あとがき

イエス・キリストは主です

神にすべてを捧げた1人の人生は、聖霊によって目覚めただけの100人の人生よりも神にとっては価値がある(オズワルド・チェンバース)

過去100年間で多くのことが変わりました。あなたが1920年生まれで、2020年に生存しているとしましょう。その1世紀の間に、世界中の宗教の文化的側面は工業から情報(グーテンベルグからグーグル)へ移り、地方から都市へ、モダンの思考からポスト・モダンの思考へ移行しました。これらはそれ以前500年の間不変のままできた地質構造的な文化的変化です。500年の間、継続的変化(以前あったものから発展したため、今後も期待し、予想し、管理できるもの)という環境だったのが、破壊的で予想もつかない急速な不連続的変化の状態へあつという間に移行しました。¹私たちは海図のない海にいるようです。

基盤を激震させる変化は、古い世界観が持っていた前提に挑戦する状況を、新たに生み出しました。その結果、教会学(教会の本質と構造)と宣教学(教会は神の使命にどう関わるか)は、必然的に、妥協することはなくとも、かなり適応性の高いものになりました。しかしながら、数

1. Alan J. Roxburgh, *The Missional Leader: Equipping Your Church to Reach a Changing World* (San Francisco: Josey Bass, 2006), 7.

々の重要な分野で、急速な不連続的変化の時代にあっても常に変わらぬものがあります。それは、イエスは道であり、真理であり、命であるという、永遠の教義です。言い換えれば、初代教会の「イエスは主である」という告白です。

私たちが「主」と見なす方は恵みの旅の岩盤です。もし私たちが「〇〇が主」と言えば(それが人でも物でも自分自身でも同じことです)、物語の全体を変えるばかりか、その最終目標も最終結果も変えてしまいます。しかし心からイエス・キリストが主だと信じるなら、つまり、永遠から永遠まで定められた主であると信じるなら、正しい応答は1つしかありません。キリストの弟子になることです。リチャード・ジョン・ノイハウスは書いています。「主への信仰は単なる事実の確認ではなく、個人的共同体的忠誠の誓約である」と。²イエス・キリストは主ですから、私たちはキリストのようになりたいのです。キリストのように行動し、生きたいのです。これが、クリスチャンがキリストの弟子となることの定義であり、イエスが教会に入ってくる道です。

ダラス・ウィラードは、説得力のある議論の中で、新約聖書はキリストの弟子に関する、弟子による、弟子のための本を集めたものだと言っています。³キリストの弟子の目標は、自己実現(「私は本当の自分を発見して何が自分に最善であるかを見つける必要がある」)でもなければ、決定論に忍従する(「どうにもなりません。それがありのままの私です」)ことでもありません。実際、キリスト教の見地からすれば、自分に忠実であるとは、父なる神にかくあれと呼ばれて、キリストに似る者に造り変えられた自分に忠実であることです。イエスに従い、イエスのようになることは、恵みの旅の大胆な目標です。福音書記者のヨハネは、この点を深く掘り下げて、イエスは父のように見え、かつ行動すると指摘します——「わたしを見た者は、父を見たのです」(ヨハネ福音書14章9節)。イエスは、ことばが人となった存在で、父のみもとから来て、恵みとまことに満ちています(同1章14節)。イエスが誰で、何をしたかは同じコイン

2. Neuhaus, *Freedom for Ministry*, 98.

3. Willard, *The Great Omission*, 3. ウィラードは、「訓練」という言葉は新約聖書に269回登場するが、「クリスチャン」は3回見出せるだけで、まさにアンテオケでのイエスの弟子たちを指すために導入されたということを繰り返し語ります(使徒11.26参照)。

の両側であり、弟子の道の本質にとって重要な手掛かりを提示しています。

一般の考えとは逆に、神は長く白いあごひげを生やした感傷的な老人ではなく、どうでもいいと言わんばかりに手を振って、「彼らが何をしようとかまわないよ。子どもたちが楽しんで喜べばよいのだ」と言う存在ではありません。また、怒りっぽく厳しい怒る父でもなく、子どもたちが大騒ぎするのが我慢できず、怒って彼らを罰する存在でもありません。最初の例は、真理のない恵みです。聖性という火のない柔らかい放任主義で、無責任な許容につながります。2つ目の例は、恵みのない真理です。冷淡な宗教性で、愛のない厳格な律法主義につながります。確かに、恵みと真理の間でバランスを取るのは容易ではありません。とはいえ、聖なる愛の必要と品位のためには、緊張感を持ってバランスを保つ必要があります。

基本的に、教会に来る人々の多くは名ばかりのクリスチャンで、主イエス・キリストの弟子ではないという事実は、今日の教会にとって大きな問題です。最も過激な人たちを除いて、献身した弟子の人生(神の御国でイエスのようにいかに生きるかを学ぶ人生)が任意のものとなったことは、不幸なことです。それは、イエスは、人生の主でなくても救い主になり得るという考えを助長するからです。おそらくもっと大事なことは、恵みがありのままの自分が受け入れられるために与えられるものだと考えられ、自分がこれからどうなるかとは関係ないと思われるからです。

C・S・ルイスの見解によれば、「クリスチャンは、神は私たちが良い人間だから愛してくれるのではなく、神が私たちを愛しているから、私たちを良い人間にしてくれる」のですが、要は、神はあるがままの私たちでも愛しているが、あまりに愛しているので私たちをそのままの状態で放置できないということです。神の愛は聖なる愛です。だから私たちがどんな人になるかは神にとって大事なことです。聖なる愛は、恵みと真理に満ち、安価な恵みを消し去ります。聖なる愛は、キリストの弟子になる条件であり手段です。聖なる愛は、私たちに自分の十字架を背負い、イエスに従うことを求めます。

自分の十字架を背負うことが現代人には難しいメッセージに聞こえるなら、そうではない選択肢を考えてみましょう。自我のために生きる、

無気力で力のない存在、他者と関わりのない宗教です。私はダラス・ウィラードの「キリストの弟子の道を否定する」代償についての意見を忘れることができません。

「キリストの道を否定する代償は、イエスと共に歩む代償より、遥かに高くなります…それは永続する平和、愛が浸透する人生、神の優先的支配の観点からすべてを見る信仰を代償にし、最も厳しい環境の中にあっても、正しいことを行い、悪の力に立ち向かう力を信頼することを代償にします。要約すると、キリストの道の否定は、イエスのもたらず命の豊かさ(ヨハネ福音書10章10節)を失うことです。十字架の形をしたキリストのくびきは、キリストと共に、キリストの中で生き、魂に安らぎをもたらず心の優しさ謙遜を学ぶ人にとっては、自由と力を運んでくる道具なのです。⁴

キリストの弟子となる道は、道であり真理であり命であるイエスと共に始まり、共に終わる恵みの旅です。その目標は、イエスに従い、恵みによってイエスにますます近づくことです。その旅は、恵みによって始まり、続けられますが、私たちが自ら主イエスと協力することによって一段と豊かになります。

クリスチャンは生まれます。弟子は作られます。キリストに似た姿になることは私たちの定めです。

4. Dallas Willard, *The Great Omission*, 8.